中央公論

本號目次



SUMMER MORNING

(By J. H. Field)

N. 174

中央公論



第十八年
第八號

東京市長としての尾崎行雄氏

東京市が尾崎行雄氏を迎へて市長の椅子を與へたるは吾人が近來最も會心の事となすべき所のものなり。故星亨氏が一味の黨與を率ひて所謂無手勝つ流義の恠腕を揮搖せし當時よりして、東京の市政は實に云ふに忍びざるものありし、爾れども物極れば即ち變ず、今や比較的品性の高潔を以て稱せられたる尾崎氏の如き人物を擧げて市政の刷新を計らんとす、たしかに是れ市が改悔懺悔し所謂善心に立ち返りたるなり、尠くとも立ち返らんとするの表兆なり。

想ふに今日の東京市は依然たる舊江戸城なり、封建時代の將軍家が據て以て天下の諸侯を號令するには或は不足なかるべかりしも今の日本帝國の中央都府とし、人口百五十万を包容する世界有數の大都市としては規摸の狹小なる、設備の不完全なる、軆裁に於て、實質に於て、世界文明諸國の諸都府に對し殆んど顏色なきものあるなり。されば單に市政の執務者としてのみならず、市の經營者として東京市民が新市長に希待するもの素より多大なるべし、又尾崎氏自身も新地位に對して抱負するもの必ずや夫れ小ならざるものあらん、爾れども是の如き根本的大經營は素より百年の大業なり、吾人は直に氏のみに急激の施設を求むるの徒らに言ふべくして行ふ可らざるを知る。唯劈頭第一吾人が先づ氏の活腕に待たんとする所のものは、繁文縟禮の大削殺の如きもの是なり。

繁文縟禮は日本政府の痼疾なり、日本政府の役所と云

へる役所、及び役所の關係せる事業、教育にても衞生にても慈善にても苟も官臭を帶びたる仕事にして煩瑣の法規と無用の手續とを有せざるものなく、就中人民に直接する市役所、區役所の如きものゝ繁文縟禮は如何に人民に迷惑を懸け、手數を煩はすかは吾人の論ずる迄もなく尾崎氏自身も深く感じ居らるゝ所なるべし、されば政府全體を改造して簡便輕易の政治を爲さしむるは目下に於て最も必要となす所なりと云へども、そは素より容易に非ず、唯トニカク市政區政の如きものゝみにても其の繁縟を洗刷して簡易明快、三歲の兒童も手續を了するに不便なからざらしむるに至るは單に市民の希望たるのみならず、市役人區役人等自身すらも希ふて已まざる所なりと云へども、繁文縟禮は已に數十年の習慣となり、已に政府全般に普遍したる大々痼疾と爲り來りたるを以て之を根本的に破碎し洗刷するは素より非常の人物に待たざる能はず、而して吾人は幸にして今や尾崎氏の如き手腕ある而も情實に拘々せざる良市長を得たり、機や失す可らず、巨刃を一揮して、須らく先づ此の亡國的なる、政務澁滯の繁源なる、政費增昇の害囙なる、而も人民不平の種なる、涙の種なる市區役所の繁文縟禮を斷破し去るべし、是れ吾人が先づ新市長に望まんとする第一の注文なり。

次に東京市長をして社會に最も名譽あり、最も勢力ある地位たらしむるは亦尾崎氏の如き人物にして始めて望むべきを想ふ。

今日迄の東京市長は其地位名望甚だ高からず、是れ吾國自治制度の尙未だ大に發達せざるに由るべしと云へども地位を高からしむるに足る程の人物なかりしに由るなり、更に切言せば東京市民が首府の市民として國家に對し如何なる重大の責任と名譽とを有し、そを代表する市長たるものには如何なる名譽ある人物を要するかを思ふ程の自尊自重の念なかりしに由るなり。

昔の江戶人は江戶ッ兒と稱して自負したりし、彼等は確に一種の江戶氣質あり、天下の將軍に近接せる江戶人としての名譽を感じ、責任を感ずるの極めて深きも

のありし、而して今日の東京人、東京ッ兒は果して輦轂の下に棲息せる市民たるの威あるか、尠くとも江戸人當年の氣概を有するか、其の責任を標示し、其の名譽を顯彰する程の行動の見るべきなきのみならず、市民を代表する市會議員及び市參事會員等の過去數年間の行事を數へ來らば東京市たるもの果して何等の顏色ある、東京市長に人其の人を得ざりし素より恠しむを須ひざるなり。されば東京市が今日尾崎氏の如き市長を擧げたる、たしかに改悔懺悔し善心に立ち返りたるの表兆なり、表兆か表兆ならざるかそは深く穿鑿するの要なし、吾人は比較的適當の人物を擧げ得たるを多とせざる可らず。

英人の諺に男兒若し大宰相たる能はずんば須らく倫敦市長たるべしと云へり、倫敦市の英國に於ける、千又年來の歷史あり、市長の地位も自ら特別ならざるを得ず、他の直に摸倣し能はざるものあるべく、吾東京市長をして內閣總理と頡抗せしむる程の勢力を養はしむるに至るは前途尙近からずとなすも地位聲望、優に內閣大臣以上たらしめずんば到底帝國の首府を代表するに足らざるなり。尾崎氏は曾て憲政黨內閣の文部大臣たり、吾國に於ては最も前途ある政治家の一人なり、氏自身の地位は素より大臣以上たるべし、爾れども東京市長其の物、即ち何人が東京市長たるも單に市長と云へる公職其の物をして社會上の大立物とし、名譽あり、勢力ある東洋の倫敦市長たらしめんには氏が市長としての光輝を社會の各方面に發耀すると同時に東京市民の品位氣格を陶冶風鑄し、極めて自尊心あり、自重心ある一大市民と成し、全國各市の摸範的市民たらしむるに待たざる能はず。

想ふに尾崎氏は天下の士なり、一市の事、氏に於て牛刀となすべきものあらん、爾れども一市をして果して一市にして畢らざらしむると否とは實に牛刀の揮用如何に存す、猛獅の兎を搏つ滿身の力を奮ふ氏たるもの其の智を悉くし其の勇を鼓し、果して能く吾人の希望するところ寧ろ東京市民百五十万の希望するところに向て猛進せんと欲するや否や、吾人は今後の行動に於て

之を徴せんと欲す。

敗戰論

（九頭龍）

戰はゞ須らく勝つべし、戰爭は百戰百勝より善なるはあらずと云へども勝敗は天なり、時に大敗するなきを保せず、勝ちに勝ち誇るは決して難からずと云へども能く敗戰に處するは大義あり大勇ある大國民に非ずんば能はざるなり。

古今東西の歴史を繙讀するに强國必ずしも勝たず、勝たざるも能く最後の勝利を占むるを偉なりとなす、近く佛蘭西は曾て獨乙と城下の盟を爲し、五十億フランの償金を拂ふの慘に逢ひたりしも、さすがは佛蘭西なり、國勢之が爲に衰へざるのみならず、隆々乎として爾後却て其の繁榮を增したり。

されば吾人日本國民にして今若し他國と戰はざる可らざることあり、不幸にして一敗地に塗するが如きことありとせば國民は果して何等の行動に出づべきか、想ふに是れ國民が國民としての試金石に接したるの時なり、日本の日本たる所以を示し、滿天下に鬱結せる眞勇を發すべきの時なり、而れども深く今日の日本國民を觀察し來ればかゝる大々危機に遭逢して果して能く慌てず騷がず沈々として他日捲土重來の活氣を涵養し得べきや否やを危ぶまざる能はず。

抑も吾國民は之を世の風波を知らずして驕にのみ長じたる大家の秘藏息子に喩ふべし、開國已來未だ曾て他人の侮を受けたることあらず、少くとも維新三十年來何等の痛苦を感ぜずして所謂トン〳〵拍子を以て進歩し開發し、特に大に支那に勝ちて國民の自負自尊の念は恰も破れんばかりに膨脹し、忽ちにして大日本となり、忽ちにして世界の日本となりたる、洵に是れ天與の幸福なり、喜ぶべきは喜ぶべしと云へども、是と共に國民をして反顧低徊悚然として懼れ肅然として愼しみ、自覺自警其の本然に立ち返るの機會を失せしめたるは嘆ずべきの至なり。

今は物質の世の中なりと云へり、西洋諸國民が東洋を壓迫する、就中亞米利加が先進諸國に拔出して將に世

界の覇たらんとするこれ物質の力、金錢の力なりと云へるは素より爾か也、爾れども吾國の如く物質のみ、單に物質力の他に何等の勢力を知らざる國民は世界文明國の多きも恐らく是れあらざるべきなり。之を歐米にせば耶蘇教の勢力は今尙社會を風化し、國民道德の標準となり居るのみならず、學者にても政治家にても往々主義を執て屈せず、アーノルドの所謂ヒリスチズムに對抗して社會の反撥力を振作するに怠らざるを見れども、吾國にては政治も宗教も學問も美術も悉く金錢の奴隷たらざるものあらず、吾國民のあらゆる階級に普及して汲々として畢生唯希ふものは唯金をモウけ、肉慾を滿足せしめ而して樂隱居するに在り、主義とか精神とか云ふことは竟畢無用の人、融通のきかざる人、當世に向かざる人と云ふことゝなり居るなり、彼の教科書事件の如きは實に吾國中流以上特に常に道德を口にし、義氣を談ずるものすら尙是の如きものありと云ふことを發露して餘蘊なきものなり、嗚呼危ひかな天與の幸福に慣れたる國民よ、未だ曾て艱難痛苦を經驗せざる國民よ、是の如き唯物質的にして精神なき主義なき、汎々たる、輕々たる、吹けば飛ばんとする國民は果して是れ一大敗戰に堪ゆべき國民と見るべきか、他國の侵畧を待たずして自家の梅毒によつて遂に仆るべき運命を有す。

今や世界に日露開戰を説くもの漸く多し、砲火一度び發せば勝敗の數豫め知る可らず、日本軍は必ず勝つことにも定まらざるべし、かゝる時を以て初めて吾人日本國民が痛苦を經驗すべきの大機會となすべし、而して國民の根本的活力を有せざる今や是の如し、發憤一番今にして大に警覺する所なくんば過去二千五百年間の名譽ある歷史も或は泥土に附せらるやも知る可らざるなり。

百戰百敗尙能く我が大を示し我が强を示し、强國環視の間に一大光輝を發せんとするは決して此の茶番的、祭禮的、樂天的國民の能くするところに非ず、吾人は万一の時期を想像する毎に轉た肌栗の生ずるを覺えざるなり。

（河北）

風俗時弊談

伯爵　板垣退助

三　勞働の神聖を知らざる長袖國民

それから此風俗の重もなる部分を占めて居る他のものは衣服家屋でありますが、此日本の衣服といふものは、是は素と支那唐代の服に倣ふたものである、其以前我々祖先は筒袖であつたのであります、勞働神聖といふて人は働いて食ふ、勞働して食ふといふが本當なことである、定つたことである、此勞働神聖といふことを忘れて、便利といふことを忘れて、さうして今日の衣服が發達をしたものである、若しも勞働神聖といふことを忘れずに、便利といふことを忘れずに、さうして之に文飾を加へて發達して來たならば、今日の洋服に稍々近いものには發達をして居つたらうと思ふ、今日勞働する者を視て見ると、股引腹懸胖纏、又女であつて見ても衣裳といふものがあつて、彼の下等社會の勞働の婦人でありましても、又京都の小原女などゝいふものは前掛の廣いやうな、腰卷といふやうなものを穿きまして、さうして脚胖を當てゝ、筒袖で輕々とした出で立ちである、則ち便利を失はぬのである、それに美術を加へて發達を致したならば、必ず洋服に近いものにはなつて居つたらうと思ふ、併ながら日本人の長袖の衣服となつたといふことは、寔に所以あることであつて、まだ元祿時代までは女の袖などでもさう長くはなかつた少し垂れて居るやうな服であつた、昔し此唐の服を倣ふたのは、即ち公家が唐の服を一番に取つたのである、其時分には武家が公卿を輕蔑して、「長袖の人焉ぞ兵を知らん」などゝいつて居つた、それは公卿さんがオレなどは働かなくても食へるやうな貴人である、斯ういふ譯で働かないのである、ともう其時は武を卑んで、武家に軍人となることは皆委ねて仕舞つたといふやうな譯になつたのであつた、然るに此武家がどうであるかといふと、彼の兵農全く分るゝといふことゝなつて、又世襲の侍になつて來た爲め、遂に彼等も働かなくて食べるといふことを以て人に誇るといふことになつて、曾て「長袖の人焉ぞ兵を知らん」と誚つた武家までが遂に是も長袖の人となり、それに止まるかといふと、平民も亦働く時は筒袖腹懸股引絆纏でやつて居つて、もう仕事を仕舞つて外に勤めにでも

行くとか、交際をするには亦着物を着換へて長袖の人となり、遂に國民を擧げて長袖の日本國となつたのである。斯ういふ譯であつて、働くことには甚だ不便利千萬な衣服となつた。

それで衣服は便利といふことを第一として、之に美術を加へて改良をして發達をせねばならぬのであるのに、全く其便利といふことを離れて仕舞ふて、寧ろ不便の着物を着て居るのが即ち貴いといふやうな譯になつたものであるから如何にも不便利である、武家が果し合ひでもしやうといふには必ず襷を掛けて股立を取る下等社會が喧嘩の時は尻を端折つて兩肌を脱ぐ、どうしても衣服が甚だ邪魔になる、又切齒扼腕など丶いふことをいひ、又下等社會などは働かうといふことを形容して一ト肌脱がうといふ、どうしても着物が邪魔になるに相違ない、この着物(自身の洋服を指して)あつた折には襷を掛ける必要もなければ、扼腕をする必要もなく、兩肌を脱く必要もない、誠に日本の衣服といふものは如何にも怠惰に人を養ふやうな衣服になつて居る。

四　家居の國民に及ぼす諸弊

家屋も其通りでありまして、如何にも怠惰に流れるやうになつて居る、誰かゞ疊亡國論といふものを書いたさうですか、成程疊が亡國を・私は見たことはないが、疊が亡國を促すかも知れない、斯うして洋服を着て靴を穿いて居つたならば、直ぐと外に出て行くことも出來ます、或は人を待つて居つて、少し待遠い時は戶外に出て其間運動でもして居る、又勉强して氣が倦んで來れば、戶外に出て運動を致す、誠に戶外に出るのが心易い、又其處にある物を取つて來るに、直ぐに行つて取つて來るが、扨て日本服を着て居るといふと、此疊は殆ど寢臺のやうなもので是にコロ〳〵寢て居るやうなもので、着物がたまらないから、餘所外と平素着といふものは別々にしてある、常にそこにコロ〳〵として居つて、外に行かうといふには着物を着換へて穿物を穿いて行かなければならぬから、誠に面倒で仕方がない、それで出て行くどころではない、疊に寢て居つて、そこの物を取るにも手を叩いて下婢を呼んでそれを取らすといふ、斯うして居れば直ぐに自分で行つて取るのであるけれども、寢て居つてはナカ〳〵遠方に行くやうな感を爲すものと見える、さういふものであるから自然身躰には運動が附かず、身躰が壯健に

ならない、此家居、衣服といふものが餘程日本人の躰育を惡くして居る、之をヒドク言つて見れば、身躰が丈夫になつて來れば、兵役に立つても又生產力たる勞働に從つても、それはモー大分違いがあらうと思ふ、殊に日本人は足が短い、足の短い人種ぢやといふけれども、人種は決して足が短いことはない、是は正坐といふものをするからである、この正坐といふものは足利二三代の時代から行はれたもので、其前には皆胡座をかいて居つたやうである、外の國で坐つて居る所はない、多くは安坐(あぐら)をかいて居る、日本のやうに正坐するといふ所はドウも外にはないやうである、それで是は足部の發達といふものが甚だ惡い。亞米利加人がさう言つたことがある、日本人は足の上に坐つて居るといふことを言ふた、成程足の上に坐つて居る、迚も足の發達する譯がない、確に坐つて居る、故に足部が發達をしないといふ證據を擧げて見ますれば、私など歐羅巴を步いて見ると、歐羅巴の風俗として夫婦手を取つて公園などを步いて居るが、それを見て見るに夫婦同寸、又は女の方が脊は高いといふのが餘り珍しくないといふ譯であるのに日本の婦人はドーだ、男子はドーだといつて見ると、如何に脊の低い男といつても女よりは高い、女より低いのがあつたら不具者か何かである、それは何かといふと、阿母さんに叱られる、ソレ不行儀な、横に足が出たとか何とか言はれるから、それで愈々足の發達が惡い、之を以て見れば男も正座といふものを已めたれば必ず足部が發達するものである、是は實に經濟の上に取つても大なる損德があることぢやと斯う思ふのであります。

五　衣服家屋の改良案は只大躰の方針を示すに止まる

そこでそれならば風俗改良會は斯ういふ着物にせよとかこう云ふ家屋にせよとかいふことを雛形を出して見てはどうかといふ話がありますが、是もどうも行はれない、迚も何人が集つて考へたところで之の普及が出來るものでない、が、恐れながら兩陛下が旣に洋服を召して、洋館に御出て遊ばされる、又宮中のことは申すに及ばす、諸官省までが皆此洋服を着けて椅子に憑つて居るといふやうになつて居るか、是はどうであるかといふと外人との交際に差支へる、直接に外人と交際するのに差支へるから激變をしたのであります、併し一般の人民はさうはいかない、經濟も考へなけれ

ばならぬ、今日までの着物が忽ち仕方がない、襤褸屋にやつて仕舞はねばならぬと云やうな譯にはならぬ、先づ〳〵用立てゝ筒袖にするとか何とかいふことにやらなければならぬ、然れども金でも自由にある人は、どうぞ自分の娘なら娘に着物を拵へるに、あれは斯うしたら宜からう、アノ袴は餘り美術を加へて居ないから斯うしたら宜からうとかいつて拵へて見る、又それを見てアレは宜しいが、斯く改良すればといふやうに、思ひ〳〵にやつて行くと、遂に流行りが出來て、流行から遂に歸着する所が出來るといふ譯に自らなるてあらうと私は思ふて居るのであります、大体に於ては筒袖、それから男のズボン女の袴といふことは意匠を盡してやらなければならぬ、女の帶などゝいふものは此位暑うなると下に合羽を入れてやつて居る、ナカ〳〵衛生の點から行つてもたまるものでない、其癖金を掛けて苦んで居る譯、それて外の無用の帶といふものはいらない譯であらうと思ふのであります、家屋も只座居を廢し、椅子を用ゆると云ふ大体の方針に留めて、漸々自ら歸着するところか出來る樣にせねばならぬと思ひます。

六　社會の地盤たるべき制裁力を作るべし

今日政治社會が腐敗したとか、或は商業が振はないとか、どうも學校が十分の目的を達しないとかいふやうなことがありまするが、是はどうも大に社會に關係をすることであつて、社會の地盤といふものを大に改良をせぬければ私はいけないと思ふ、彼の法律といふものは何であるか、即ち宗教家敎育家といふものが道義心を養ふて行くならば法律といふものはいらないやうなものであるが、是は迚も目的を達し得らるゝ譯てなくして、やはり法律といふものが必要である、刑法、民法といふ如きものが甚だ必要であるといふ以上は、法律以外の制裁といふものも亦必要であると謂はなければならぬ、彼の昔の士族がアレだけの躰面を保つて居つたが、アレは智育德育の結果であるかといつて見ると、智育德育總て與らないとは私は言はないが、ツマリ同族制裁の結果である、其士の常識を解いて同族制裁といふものが無くなると忽ちに彼等の躰面が敗れて仕舞ふ、是はマー同族の制裁、私共も士族の家に生れたものであるが、法律よりは尙ほ同族の制裁といふ

ものが大事である樣な感じを持つたものである、同族に見限られて生きて居る甲斐はないやうな感をなしたものであります、それて法律以外の制裁、即ち民を治むるに法を以てすれば民免れて耻づることなし、其免れて耻づることのないやうにするには社會の制裁と云ふものが大切てあります、此社會の制裁力を附けるといふには、どういふ端緒を啓いて行くべきものかといへば、此風俗改良を先きにすべきものてある、先づ此外形に表はるゝ所の風俗といふものに制裁を加ふれば、其制裁力が玆に生れたものは其次に及ぶ、さうして遂に無形に制裁を加ふるやうになる、人は嘘をついてはならぬといふやうなとこになつて來るのである。今日代議士などには大變腐敗したとかドーとかいふ誹りがあるが、是は選擧人民の腐敗に基くものてあらうと思ふのでございます、社會の制裁力を大に振はさなければならぬ、學校に於て敎育を施すとしても敎育といふものが全く學校以外にないといふ社會であつた時には、迚も其目的を達することは出來ないであらう、それは何であるか、即ち此家庭の敎育、社會の敎育といふものがあつて始めて學校敎育も其目的が達し得らるゝものである、學校て敎ふるものは理想である、理想よりは實際は後れて行くには違ひはないけれども、此社會といふものが學校敎育に接近して進んで來るならば、大なる好結果を得る、兎に角社會は事實を以て敎育をするものである、それには風俗の改良といふものが出來て、之が多く與つて社會に於て敎育をせねばならぬ。（以下次號）

我國水產業の今後

米國　篠原沼東

上

十九世紀の初め、フレデリック、リストが、經濟組織の完成を計り、獨逸聯邦の統一を促さんが爲めに、農商工並立論を唱道して、列國競爭塲裡に於ては、所詮小國の優勢を許さず、版土の廣大は、即ち農商工三業の並立を便にし、自ら一國經濟の完備を遂げ得可しとなし、以て一世の注目を惹きしも、今は既にあだとなれり。縱ひ關稅同盟は成り、獨逸帝國は起れるも、彼れの死後未だ五十年を出でざるに、而も其の本國たる獨逸は、最早商工業に偏するの止むなきに至れり。現今の獨逸は其の版圖に於て、少しく日本を大にした

るに過ぎず、而かも人口既に充滿し、增殖益々甚しきを加へつゝあり。於是か農業を以て立つ能はざるは勿論、商工業と共に並立せしめて、之が發達進步を計るの餘力すらもなきに至れり。されば今日に於て、リストの言を容れざるものは獨逸國民にあらずして、正に時勢の然らしむる所以を知らざる可からず。大勢には逆ひ難し、小國の前途は到底然らざるを得ざる可し。

近時海權問題の益々繁雜を來たすと共に、海洋の研究、亦漸く盛に行はれて、彼の獨、英、芬、瑞、丁、蘭等の諸國間に成れる、海洋研究會議の如きを見るに至りしも、亦是れ此等經濟問題より起れる、時勢の要求にはあらざるか。

獨逸の現狀既に然り、日本の實況は更らに甚しきものあり。其の狹隘なる國土を以て、四千五百万の人口を有し、一方里の平均人員、決して世界の二位を下らず、而も年々の增殖、五十万人と聞かずや。耕境限りあり、豈に何時迄でか農本國を以て居るを得んや。止むなくんば夫れ商工業の發達を計るに在るか。さるにても尙ほ、せめてもの幸とす可きは、邦が四邊の海なるに在り。海洋無盡の富、また何ぞ必らずしも、所謂世界大國の有する、旱陸の富に劣らむや。

其の國土の地位より推すも、其の沿岸の形勢より察するも、日本は正しく世界の大水產國たる可き、類稀れなる天惠を有せり。二万四千七百方里の面積を以て、海岸線七千七百里、一方里に對して、殆んど里餘の海岸線を有せり。之れを海外の水產國に比するに、英國の二・四、智利二・〇、伊太利の一・八に對して、我國は實に三・二一の割合を有せり。斯かる廣大なる漁業區域を有するが上に、大平洋寒溫の潮流は、絕へず我が近海に向つて注ぎ、自から寒溫兩族の水產物に富ましめ、加ふるに火山系に依て成立せる國土は、其の四邊の海底も亦陸上に見るが如く、峰巒起伏の狀をなして、最も魚族の棲息、海藻の繁茂に適せり。既に此等の好地形に立てるからには、將來益々之れか繁殖漁獵の方法を講じ、更らに又其の水產物製造法の改良を計らんには、獨り我が食料品の補足たるのみならず、國家經濟の上に於ても、亦多大なる効果を見る可きは、豈に啻に僅々五六千万圓の、現收獲のみにして止む可きかは。

(一) 滋養食品供給の上より見たる水產業

統計上の數字に依り、その一年內の產出原價と、現人

口の割合を見るに、我海國民は、漸く一圓餘の水產物を需用し得るに過ぎず、よしや數字に多少の相違ありとするも、其の概算に於て大差なき限りは、我國民が、日常食品として用ゆる水產物の、如何に少料なるかを知り得ずや。而して魚類は、即ち其の主たる滋養品たるにあらずや。

戰時の準備として、食料品貯蓄所の設置を要せざるも、日常營養品の需用に就て、既に其の供給の不足を來しつゝあり。見よ、國富の缺乏、財政の紊亂、其の聲を聞くや日久しく、而して其の國民の主要食品は、米穀と水產物とのみなるに、而も內地穀類の產出は、人口の增殖に伴ふ能はず、國民は僅に高價なる肉類に依るの外なからんとす、而して牧畜業の如きも、蓋し其の盛大を期す可からざるの狀態に在り。勢ひ如此くんば、我國民は、何に依つてか其の營養食品を求めんとはする。彼の海洋は實に邦が食物の倉庫にして、水產業の擴張は、即ち其の缺乏を補充し得るものに得もあらざるか。

過去三十五年間に於ける穀類の輸入超過を見るに、約そ八千万圓、一年平均二百餘万圓なり。此額未だ國民を驚動せしむるに足らずと雖も、今日の狀態を以て進まんには、恐らくは益々其の增額を免れざる可く、又時に不虞の凶年あることをも忘る可からず。例へば三十一年度に於ては、四千四百万圓、三十三四年度の平年に於てすら、各一千万圓に達するの輸入を見たるにあらずや。現に昨年天候の不順は、如何なる結果を來たせしぞ、靑森地方の凶災を顧慮はずや。時勢は既に我國民をして、農業を以て立たしめざるなり。見よ、海藻を食料とする國民は他に日本の如きはなく、昆布海苔の類は、我が日用食品とする所なるも、世界中此等の海藻を食料とするものは、僅に昆布を食へる、瑞典那威の下等社會と、海苔の一種を用ゆる、愛蘭土の貧民窟に過ぎずとの言を聞くに於ても、我國民は既に早く生存競爭の結果として、自ら海產物に依るの必要に迫られたるものとせずや。

日本の現狀に於て憂ふ可きもの、政治に、宗教に、教育に、はた經濟に、擧ぐれば數多き事ならむ。而も滋養食品の缺乏も亦決して輕んず可きにあらず、唯獨り經濟上に於て然るのみならず、國民の精神上、體育上に於て、亦幾多の影響を及ぼす所なくんばあらず。吾人は疑ふ、若し我國民にして果して早熟早老の弊ありとせば、營養食品の缺乏も、亦其の一原因たらざるかを。

勤儉貯蓄は奨勵す可し、而も滋養食品の缺乏を外にす可からざるなり。

如上の次第を以て、過多なる人口を有する日本は、食料品の補缺、滋養品の供給に於ても、既に水産業擴張の急務を告ぐるに至れり。

(二) 國家經濟の上より見たる水産業

産出原價五六千万圓に過ぎずと云へば、其の額或は未だ大に世人の注意を惹かざるものあらむ、さりながらまた、農産物は將さに海外より壓倒せられんとし、國内に於ては、既に穀類の不足、滋養品の缺乏を告げつゝあるを思はゞ、空しく其の豐魚帶豐藻帶を放棄し置くは、國家經濟上に於て、最早觀過する能はざる所ならずや。

獵虎、膃肭獸、セミ鯨、抹香鯨の如きは、本邦近海に於て最も高價なるものにして、殊に獵虎の如きは、千島近海の産を以て世界第一と稱せられ、其の革凡そ七八百圓の價値を有す、膃肭獸も亦我が特産物にして、其の革は獵虎に代用せられ、其の價なほ五六十圓を下らず、更らにセミ鯨に至りては、一匹の價、一万圓内外に達するものありと云はずや。よし此等は既に遠き以前よりして、外國密獵船の夥しき捕獲により、今や殆んど其の種族を絶たんとするもののなきにあらざるも、なほ之れが保護捕獲の宜しきを得ば、未だ決して望み少なしとは云ふ可からず。概して云へば、北海の鮭鱒、金華山沖の膃肭獸及び鰤、佐渡隱岐の烏賊、小笠原伊豆諸島の鰹、長州沖の捕鯨、長崎沖の鯛、琉球の鱶、比律賓群島のトビ魚など、各其の季節に應じて、到る所魚族の群集せざるはなし、殊に鱈は諾威ニューファンドランドと共に、世界三漁場の一にして、北海道千島の近海にみてり。或は又海藻の如きに至りても、邦が沿海は、伊太利のネープルス灣附近、北米合衆國のフロリダ州沿岸と並び稱して、世界の豐藻帶たり。其の種類夥しく、用途も亦頗る廣し。食用に、藥用に、若しくは肥料、糊料にも供せられつゝあり。北海の昆布、伊豆陸中北海の石花菜、四國北海伊豆の海蘿、東京靜岡の海苔、長野大坂の寒天の如きは、其の最も著しきものなり。就中昆布、寒天は、水産輸出品中の重要なるものにして、其の價額も亦輕視す可きにあらず。若し其の總輸出額を以て未だ云ふに足らずとするものあらば、そは我國民の自ら云ふに足らしめざるのみ。

我水産輸出品の販路は、概ね支那に在りて、主として鍚昆布の如き海産乾物なり。然るに其の産額甚だ少なきと、其の製法の宜しきを得ざるとは、需用最も廣き清國に向つて、未だ充分に其の供給をなすこと能はず、僅に百万圓内外の輸出を見るに過ぎず。魚油寒天の如き、歐米に輸出せらるゝものも、亦其の製法の不完全なると、當業者の眼界狹きとは、また等しく其の盛況を呈ずる能はず、科學の進歩著しき今日に於ては、愈々此に慮る所なかる可からざるに至れり。例へば鰮油、鰊油、鱈油の如きも、今尚ほ殆んど其の區別なしに混合せらるゝもの多きを以て、或は黄褐色を呈し、或は淡黒色をなし、品質殆んど純良なるものを見る能はず。寒天の如きも、近來細菌學用に使用せられつゝあるも、其の白濁色を帶べるが故に、試驗管の外部より透見し難きの不便ありと云へり。若し此等にして、其の製法の改善進歩を計らんには、獨り其の聲價を高め得るのみならず、其の輸出額に於ても、亦自から增加す可き道理ならずや。

或は又魚類に於ても、歐米人の嗜好は、多く燻製、鹽漬の類にして、就中鰮、鮭、鰊、鯖等は、最も賞美する所なり。而して此等の魚類は、幸に本邦近海に於て、最も饒多なるにも係らず、由來殆んど、〆粕、肥料として顧みざるは、また慮はざるの甚しきものならずや。之を海外に就て見るに、米國にては、メンヘーデンの油濃くして、到底食料とす可からざるものを、肥料とするの外、苟も食料に供し得るものは、それ〳〵其の地の、一層利益ある用途に向けつゝあり。歐州にても、一般に其の肉を食料とし、骨或は皮を以て魚膠をつくり、然る後に其の殘餘を肥料とするに過ぎずと聞く。以て其の如何に經濟的に使用せらるゝかを知り得ずや。若夫れ魚油の如きは、將來捕獲術の進歩と共に、鱶、鯨に於て、充分なる原料を有す可く、肥料の如きは、沿海到る所、雜魚雜介の多きあり、其他利用の宜しきを得ば、從來の廢物中、又適良なるものなきにしもあらざる可し。

されば我水産品輸出の擴張を計らんには、先づ歐米諸國の需用嗜好を探知し、其の製法の精良改善を計ると共に、盛に販路の擴張に注意せざる可からず。彼等が年々巨額の國費を投じて、漁民の保護、漁場の調査、遠洋漁業の獎勵に怠らざるが如き、何れも其の需用を充たさんとして苦心せる結果に外ならず。惜むらくは、我が多大にして過剩なる水産物は、未だ之れが渴望を

充たす能はざるなり。
ワシントン州、州内穀物委員リード氏は、近來日本及支那へ向つての麥粉輸出の盛况を見て云はく、今三年間此勢ひを以て進まば、大平洋沿岸に於ける麥粉の總產額は、盡く極東の需用に供するに至らんと。多少誇張に過ぎたりとするも、日本の穀類は、到底海外の壓倒を免れざるは自ら瞭然たる所、而して此れに對するの策は、耕境の擴張と云はんよりは、寧ろ水產業の振張にあるは亦等しく瞭然たる事實ならずや。（未完）

趣味の低劣と個人主義の幼稚

横井時雄

教育社交政治經濟等あらゆる點から考へて見まして、どうも歐米諸國に比べると日本人の智識趣味の程度が低い樣ですが、それが或は我國現今の弊風の根本になつて居るのではあるまいかと思ひます。少し極端かも知れませんが例證を擧げて申しますると、日本の醜業婦が殆ど世界各國到る處に跋扈し、漸く歐羅巴だけは足跡を印して居ないといふのですが、巴里には多少其影が映して居るさうですから殆ど五大洲に日本の醜業婦を見ない所はないのです。然らは何故に斯く日本の醜業婦が世界を横行濶步する事を得るかといふに、顧みて大いに恥づべき點があるだらうと思ひます。それに引き換へて日本の所謂正しき婦人の外國に在るものも隨分ありましよう。各國の公使、領事を始めとして、三井物產、正金銀行等の重役又は支店長などの夫人や妻君は其狀態如何といふに、皆牢屋に入れられたやうな心持で居る樣子に見えます。別に金が無いからといふでもなし、罪も咎もなくて配所の月を眺めて居るのです。同じ日本人でありながら、然も中流以上の家庭に育つた正しき婦人てありながら醜業婦が瘴煙蠻霧を恐れないのと正反對てある。といふものは悲しいかな日本婦人には金でなく、勇氣でなく、唯一ッ足りないものがある。即ち智識の程度が低いこと、趣味に乏しい事です。各外國に於て薫り床しく咲き匂ふ社交界の貴婦人と對等の交際をして、彼等の好むところのもの例へは詩歌文學其他音樂芝居の批評は固より博愛慈善等の事業に至るまで室を同じくして談り、手を携へて事を共にすることが出來ないから、どうも致方がありません、已むを得ず獨り寂しく異鄉の客愁に泣いて居

るより外はないのであります。西洋から日本へ來て居る婦人は全く正反對で日本人が却つて事を敎へられ引き廻されて居る。要するに正業の日本婦人が外國へ出て、不正業の醜業婦よりも劣るといふのはおかしい、何故でしやうか、思ふに或は日本婦人の生活の程度は恰も醜業婦たるに適して居て其以上に及ばないのであるまいか。

然し婦人のみが程度が低いといふのではありません。男子もさうです。先づ日本獨得の娛樂として、幾分男らしい所があつて、左程醜からぬものは角力でしやう。日本の芝居も一二の特點長所はないでもありますまいが、之れを西洋のに比べて見て到底及ぶべくもありません。其他文學といつても馬琴や西鶴近松をスコット、セキスピーア、ゲーテなどゝ同列に置く譯に參りません。然らば其外に日本の國粹として外國に誇るべき特有の趣味といふものがありましようか。今申した角力だけは西班牙の鬪牛のやうに（初め馬と鬪はして、牛が怒り狂ふて血混れになるのを待つて、人が鎗を以て之れに向ふのですが）そんな慘酷な趣がなく、又歐米の角力のやうに唯何かなしに突倒して勝てばよいといふのでなくて、其間に一種の禮讓があり、且勝敗が明らかで磊落な趣があつて、多少道德法も備はつて居る樣であります。兎に角これだけに角力なるものが多少發達したといふのは要するに其源因は批評家の目が高かつたからです、環視者が一點の瞞詐を許さないで、力瘤を拵へて見て居たから自ら其勝敗が公明正大になつて來たのです。昔し大名や武士に抱へられたのも幾分か角力道に影響した邊もありましやうが、畢竟ずるに環視者の批評眼にあつたのです。然し餘りに單純てす散漫で殺風景てあるが、黑白の分明なのが取るべき點てす。之れに反して芝居は如何てすか、日本人が芝居を見る眼と角力を見る眼と全く違ふ、角力は幾分男子らしい所を見る、芝居は女らしい所を見る、つまり芝居は觀客が野卑を望むから役者が忌はしい素振をする樣になるのです、日本人が芝居を見に行く態度を見ても知れるでよう、西洋人のやうに觀劇に燕尾服を着て行くのとは大違ひで、羽織袴の觀客は日本の劇場に珍とする所であります。序てながら近日慈善演劇とやらて、江戸城明け渡しとかを某座て演じたさうてすが、演伎者も、大西郷や勝伯に扮する程の人格が如何てしようか、觀客も亦マーチャント、ヲヴ、ヴエニスぐらいは、大岡政談からでも多少揣摩する事が出來

ましようか、其以上のもマクベスなどは到底現在の日本人の眼が逹かないでしようとも思はれます、少しく餘談に亘りましたが日本人の劇を見る眼は低い。芝居は充分に高い所まで批評眼が逹しないとすれば、僅かに單純なる黒白問題の角力が日本人の趣味の程度であるといはなければなりません。ですから代議政躰の複雜たる政事問題などは到底目の及ぶ所にあらずで、角力四十八手位な程度ではありませんから、代議士の行動を監視し批評する力がありません。政治は奸詐を意味するものとして、人をペテンに懸けて、それで大政治家と自ら許し人も許して居る、つまり、日本の男子の智識の程度が角力以上に及んで居ない證據であります、日々の新聞に角力の勝敗を議會の議事よりも重んじて書くといふのも別に不思議でも何でもありません。新聞自身が惡いのみでなく日本國民の耳目が劣等なからでしよう。

そこで、之れを分析して考へて見ると結句日本人が他人に對する觀念の薄弱なることゝ、自己の人格に對する自信力の少さとによる事と思ひます。國民の上に立つべき政治家にして、外交や財政や其他國民の大消長に關する樣な事件に際しても、唯ワイ／＼といつて居るばかりで市井の無頼が路傍の出來事を見出して喋いで居るのと違ひがありません。それに少しく形勢が惡くなると、直に野に下るとか或は政界を退くとかいつて、文學や宗教に隠れてしまうものが多い。之れを默視して居る國民も惡く、又其人自身も自己を重んじないものといはなければなりません、今は身を捧げて大勢に任する人は到つて稀なやうです、どうも附和雷同の人が多くて偉人の人格を有する人がありません。官吏でも會社員でも教員でも皆魂の抜けたものばかりで、區役所から大政府に至る迄、技師より社長に至るまで、小學より大學に至る迄、命ぜられたる事を唯機械的に行ふて居るばかりで、自己の人格を重んじて衷心から完全を期して事に當らうとする人は殆どありますまい。例へば一ツの會社でいつて見ても、技師は重役がわるいからといひ、重役は社長がいけないからといひ、社長は遂に金がないからといふ、誰も彼も責任を引受ける者がない。苟も自己の人格を重んずるものは責任を人に嫁するといふ樣な事は致しません。其れといふものは全く自己に對する尊敬心がないからであります。換言すれば個人主義が發達しないからです、然らは共同主義が發達して居るのかといへば、これ亦然

らずて、現時の政黨を御覽になればわかる。第一日本は相互に信用をするといふ事が出來ない。京釜鐵道の如きでも政府があんなに保護をして居ても醜聞百出て、いつ竣工する事だかわからない。此點に於ては支那人の方が餘程優れて居る樣に思はれる。支那人が財政上の信用の堅固な事は彼等同志の商業の取引其他起業上の事を見ても知れます。金錢上の事になると日本人は親子の間柄でも「人を見れば盜賊と思へ」といふ劇藥的の格言を應用しやうとする、こゝに到つては個人主義も共同主義も何もありません。これでは高架鐵道が出來ても、まだ日本は世界の文明國と同列することは覺束ないと存じます。

抑も個人主義と共同主義は全く相反して居る樣に思われますが、決して〱、兩々相俟つて初めて程よく社會の秩序を保つて行くのです、近く米國の如きは共和國で然も飽くまで自己主義個人主義の發達して居る國て、日本でも法律上は幾分さうなつて居ますが、彼國ては夫婦の財産は全く別になつて居る、又家庭に於ても子供が丁年になれば既に一人前の意識あるものとして飽くまで其個人の自由を許す、少しも無暗矢鱈な親權を加へて其子の人格を掣肘するやうな事は致しません、然るに日本人は「親の物は子の物」などいふかと思へば「錢金は他人」といふ、個人主義か共同主義か殆ど要領を得ないのであります。

要するに將來は個人の意識を發達せしめて、個人の人格を重んずるやうにしなければなりません、隨つて充分に個人の意志を伸張して充分な働きをしやうと思へは共同が必用でありますから、相互に個人を重んじつゝ社會國家の爲めに盡したいと存じます。敎育でも宗敎でも此點に於て個人の人格を高める事に心を用ひて日本今日の病弊を根本から耕したら良果が得られましよう。

（文責記者にあり）

貧民狀態の研究に就て

（中）

横山源之助

職業調査に次いで研究すべきは。貧民の經濟狀態と爲す。蓋し經濟狀態の中には、賃銀問題あり、住居問題あり、融通機關、共濟制度等、重要なる研究問題多し。余輩は本項調査に依りて我國貧民狀態の眞相を明白にすべき材料の包容せるとを期して、之に十二分の注意を拂はんとす。

一 賃銀問題

(1) 德川時代の賃銀と米價との割合

(2) 明治維新以來の變動

(3) 日清戰役前と戰後との差異

(4) 機械工業の勃興は一般職人の賃銀に如何なる影響を與へたりしや

(5) 職人の中にて賃銀の昂上せる者と低落せる者

(6) 現在の職人の賃銀と工場職工との賃銀差異

(7) 普通勞働者と技術勞働者との比較

余輩が我が貧民及勞働者の賃銀に就て知らんと欲する者概ね右の如し、賃銀に次ひて注目すべきは住居の問題なり、メーリング氏の獨乙社會黨史に依れは、普佛戰爭後の獨乙の生活社會は、三十億フランの償金の國內に注入したる爲めに貨幣の價格は著しく下落し、生活に必要なる物品の價格は之と反比例に騰貴し、殊に家賃の騰貴は最も甚しかりしとなり、伯林に於ては食物の騰貴の割合は六割七分、衣服は一割八分、而して家賃は二倍以上に騰貴したり、ブレスラウ、ケルン等の大都市に於ても同しく伯林に讓らず。然かも其の賃銀額を見るに、伯林にては、大工左官の賃銀は九割の騰貴を爲したりと雖も、到底屋賃の騰貴に伴ふと能はざりしといふ。顧みて我下層社會の屋賃の狀態果して如何、余輩は我國貧民の住居の狀態を研究するに際して先づ最初に念頭に浮へるもの即ち是なり。其の調査項目を擧ぐれは

二 住居問題

(1) 屋賃

イ 日清戰役前と役後屋賃騰貴の割合

ロ 一般屋賃の騰貴と貧民部落の屋賃比較

(2) 屋主と借家人の干係

イ 屋主に對する義務

敷金の性質—契約書々式—屋賃支拂方法—未拂の場合に於ける制裁—屋賃外の義務—差配人に對する義務。

ロ 貧民部落の借家方法

貧民部落に於ける地主及家主の資産の程度—屋賃支拂方法。

(2) 木賃宿

イ 維新後木賃宿の變遷

明治二十年前木賃宿の狀態—區域を定めたる警察規定の効果—木賃宿區域の地主と木賃宿營業者

ロ　木賃宿内部の情況

屋根代―宿泊者の人物及職業―宿泊者相互の間柄―獨身者と妻帶者との割合。

ハ　木賃宿と風俗問題

別間(ベツマ)の設備―木賃宿と淫賣婦―貧民部落の居住者と木賃宿泊者との比較。

(4)　共同長屋

共同長屋の起原―共同長屋の居住者と木賃宿居住者との比較―借家賃―共住者相互の干係―長屋衛生如何。

以上住居に關する調査の概要を擧げたり、更に融通機關に調査を轉せは

三　融通機關

甲　質屋

イ　質屋の種類及組織

質屋の類別‥‥‥地質―テンカ質―親質―下質

ロ　貧民部落の質屋の情況

ハ　質屋の沿革　附　質屋業と慈善

乙　擔保なき融通一般

イ　細民を相手とする高利貸

日濟貸屋と細民の干係―日濟貸の證劵―融通し得べき金額―返金不能の場合に於ける日濟業者の處分。

ロ　時勢の進歩と高利貸業者の增殖

日濟業者の增殖―看版を美にせる高利業者の創設―該業者の資本高―借主の多寡

の如きは、細民間に於ける融通方法の一般とす可し、要するに余輩は今日我國の下層社會には、其の融通機關の極めて不備不完全なるを悲む者也。然かも共濟制度如何を見れは、尙一層の不完全を致せるに驚くべし。

四　共濟制度

甲　同職組合の間に包容せらるゝ共濟的分子

乙　無盡講

イ　無盡講の沿革

ロ　無盡講の種類

ハ　無盡講の成蹟

ニ　無盡講の弊害及迷信

丙　保險

附言す、歐羅巴の勞働社會にては英國と大陸諸國とを問はず、苟も勞働問題行はれ勞働組合の成立せる邦國に於ては、其の自由主義と强制政策との相違ありと雖も概ね勞働保險の行はれざるはなし、英國の勞働組合

の如きは各種組合の趣意目的同一ならずと雖も、賃銀增加の運動と勞働保險を行ふに於ては其の精神を一にし、災厄、疾病、老廢、失業、死亡等に對して周密なる保險方法行はる。殊に强制保險の行はるゝ獨乙の勞働社會の如きは、人口總數の六分の一乃至三分の一は疾病、災厄、老廢保險の一に加入し、其の之に要する經費は三億四十九万マークに達し居れりといふ、勞働者の負擔額は大約一億四千万マーク、資本家は一億五千九百マーク、而して國家の負擔額は千六百万マークなり。

顧みて我國に在りては保險制度を採用せる勞働組合なきのみならず、保險會社の中にも勞働者の爲に便宜を謀る者あるなし。强て之を求むれば、万世生命保險會社が嘗て職工生命保險を標榜とし、大東生命保險會社が簡易職工生命保險を看板とし、大阪生命保險會社が創立の際大阪生命病傷保險會社の名を以て職工の病傷を保險したることある二三の形跡あるのみ、然かも僅に其の萌芽を示したる件の現象も後直に其の名稱を放棄して、今や數十の生命保險會社中名稱だも勞働者に關係する者なきなり、加之、百圓以上の保險を認めたる我國の各保險會社は、近年俄かに小額保險を避くるが如き傾向を致し、現に第一生命保險相互會社の如きは逸早くも五百圓以下の保險は之を認めざることを標章せり、斯くの如くにして我勞働者は、漸次一般の保險社會よりも相離れつゝあり。敢て勞働運動に從へる諸君子に注意す。（未完）

時代の寵兒たらざるを榮とせよ

前田貞次郎

今の時代は如何なる時代ぞ、余をして先づ時代の生產したる寵兒に付て徐ろに觀察せしめよ、

彼等は言はず語らず「今日主義」を奉じつゝありて殆んど明日の計を爲さゞるなり、政治に於て然り經濟に於て然り法律に於て然り文學に於て然り、彼等は時代の趨勢を察知するに於て甚だ不適當なる近視眼なれば「今日主義」を以てして萬事を裁決し處斷し總て其現金取引なることを廣告して虛榮の市に槿花一朝のさかえを競ひつゝあり、今大臣と云へばゑらしとも貴しとも思はるれど其爲す所は皆「今日主義」にして政治を其上に布き經濟を其上に行ひ法律を其上に備へて自から得

たりとなす、其實例は之を近き過去に求むるも枚擧するに暇あらず、而して特に著しきを其所謂妥協となす、蓋し妥協と云へる仕事は政府と政黨とか共に薄志弱行にして意志の繼續を欠けるヿを公證したるものなり、彼等は唯時の宜しさにのみ從ひて移り行く事の外により善き仕事をも知らざるヿを臆面もなく社會公衆の前に白狀したり、此仕方は尤も當世にして「今日主義」を實際に解釋したる一大事實なり、古へに之あり云く君子は豹變すと、嗚呼君子なるかな今の人や、又經濟は何處迄も遣繰的なり國家は大仕掛なればこそ歲計とはなせるも實は其日算段なり法律の如きも今日發布せられて明日は已に實際に於て施行の効力を失へるに似たるもの十に七八、文學に至りては最も間に合ひにして毫も明日の結果を思はず文士心中を描いて痴男痴女の戀に死する者多きは殆んど其顧みざる所なり、是際教育者にして其身分を遺れ職掌を忘れて漫に書賈の贈賄に誘はれたる者あるも敢て異むを須ゐず、彼等は寧しろ直情徑行、欲しゝと思ひて貰ひしなり、たゞ其或者に比して餘りに不覺に餘りに拙劣なりしを憫笑す可きのみ、今の世に於ては之を見て陰かに舌を吐き唇を拭へるものゝ幾許なるやを知るべからず、何ぞ獨り商賈の商機を察せず商略を解せず徒らに目前の小利をのみ營めるを怪まん。

此の如く「今日主義」は上下を通じて盛行し時代の寵兒たる者は皆此主義に據りて立てり、右にも左りにも前にも後にも此主義に據りて立てる者多くして迂濶余が如き者を環視しつゝ其痴愚を嘲りつゝあり、然れども未だ知らず嘲ける者是か嘲けらるゝ者非か、天下一人の知己あらば以て恨みざるに足る、余が如きは即ち一人の知己に依りても「非今日主義」を把持して彼等の向ふを張らんとする者、社會の嫌忌しつゝある新平民に聲援を與へて其勢ひを助けんとし微力を此に盡せるあるも蓋し是が爲のみ。

然れども時代の寵見は皆彼が如き爲躰に於てあり、其間に立つて新平民の事業に對し滿幅の同情を寄與しつゝ之をして成功せしむるの至難事なるヿは余と雖も亦之を知れり、若し新平民其人にして之を覺らざるに於ては殆んど成功を期す可からず、乃ち思ふに彼等は時代の感化を受けず其風潮を弄ばるゝヿなく冉々其步を進め以て遠大の目的を貫徹せん覺悟なかるべからず、余を以て之を觀れば彼等の前途は尚遼遠なり、彼等は「今日主義」に據りて成功を急ぐ可きにあらず、急げば

必らず躓く可し、故に彼等は「非今日主義」を把持し漸を以て成功の順序を迴る可きなり、既に然り彼等は又「今日主義」に據りて立てる山師に利用せられて其犧牲に供せられざる樣注意せざる可からず、蓋し「今日主義」の山師ほど危險なる者はなく其徒社會の一隅に割據して何がな利用すべき者を見出し其主義を實行せんことを企圖しつゝあるなり、斯の如き者にありては或ひは新平民の事業を以て手を飜へすよりも易しと說く者あらん、然れども實際は然らず、彼等の前途は尙遼遠なるに相違なきなり。

余の知る所に依れば廣島縣安藝郡地方に於て屢々錢湯入浴問題の起りしことあり、一錢は誰が手にあるも一錢なり、然るを新平民の手より受くることを欲せず否新平民をして同一錢湯に入浴せしむることを欲せざるが爲に之を受けずして拒絕したり、又同郡の一地方にありては新平民の子弟をして小學校に入らしめず舊平民の子弟等は新平民部落を横ぎりつゝ日々學校に通ひ乍らも同じ人の子に對し同憐の情を惹起さゝる無情の仕方ありしより心ある新平民は之を憤りつゝ事情を當局者に具申せしことあり、然れども結局要領を得ざりしが如し、又聞く廣島縣某郡の有力なる新平民の子弟にして某高等學校に在學しつゝありし者は其同級生より迫害せられて自から退校するの已むを得ざるに至りし事ありと、斯の如きは今日に於て有るまじき事なれども實例は尙多し、乃ち知る因襲俗をなし容易に變移す可からざる者あるを、然り而して時代の寵兒たる貴紳大官の徒は彼等の爲に深く思ひ遠く慮かるの眞情を欠き唯目前の虛榮に醉ふて「今日主義」の上に娛めるより下僚從屬また自から其惰性に馴致して万般の時務に忠實ならず熱心ならざれば一人の起つて彼等の爲に計る者なく隨つて彼等の事業は成功を距ること遠し。

然れども飜つて思ふに「今日主義」は社會の各方面に於て已に多く失敗の端緒を啓きつゝあり、蓋し彼等は朝に在れば俸祿を目的とし野に在れば金儲けを目的として其日々々のお茶を濁し而して殆んど豫想せらるへき過失をすら注意することなく無責任を常とせるより近年官吏及公私團躰員の失態は頻々として起り新聞紙上曾て其記事の絕ゆることなきを見るは軈て其警戒の大いに叫ばるべき時代の到來する前兆なるべく思はるゝなり、果して然らば時代の寵兒も竟に失敗し世は忠實にして熱心なる眞面目の人を迎ふるに至らん、而して之を迎ふるの世は階級の如何を問はず正に赤裸々にして

其眞價を計るの世たるべきなり。斯の如きは殆んど空想に似たりと雖も今日の狀態は實に恐るべき精神的荒蕪にして人心の上に多大の缺陷あるとを表示せる大飢饉なり、此大飢饉の窮乏は必らず之を救はざるべからず、而して之を救ふの人は時代の寵兒中に求めね可からず、乃ち余は之を新平民の中に求めんと欲する者なり、新平民にして若し人格の修養に勉め克く忠實に克く熱心に萬事を處理する眞面目の人たらば世は竟に彼等を歡迎するの世となる可し、たゞ現狀の斯の如きを觀し決して失望す可からず落膽す可からず、彼等はたとひ社會の繼兒にして又時代の寵兒たらざるも寧ろ之を榮とす可し、何となれば時代の寵兒は人として餘りに輕佻に餘りに浮薄なればなり、請ふ幸ひに自愛自重して多年鬱結したる壯心を其事業の上に現はし古武士の精魂とゼントルマンの氣風とに由りて打成したる理想的人格を其身に具へ吏としては良吏、農としては良農、工としては良匠、商としては良賈たらんとを。

印度はケスト制度を打破する能はざるが爲めに亡び日本は四民同權を斷行せるが爲めに亡滅を免れたり

形式の基督教（二）

正岡藝陽

神學校

今日の教役者が形式の奴隷たるは、今日の神學校が形式の奴隷たるが故也、今の基督教か最も能く形式的宗教を代表せるが如く、今の神學校は最も能く形式的基督教を代表せるもの也、故に神學校よりして先づ改革せずんば、基督教は終に生ける宗教たるを得ざるべき也。

今日の神學校は如何の狀態にある乎、東京に於ける二三の新教に屬する神學校は、比較宗教學、基督の傳記、新舊約全書の批評、組織神學、希臘語、派祖の傳記等を主として教ふる所にして、其生徒は僅々十人内外に過ぎず、而して其教師たるものは是れと全數或はそれ以上也、斯の如くして神學校は組織せられ、三ケ年の定規の年月を經過すれば、忽ち一教會の牧師たるを得る也。

抑も神學校なるものは、基督教の傳播に要する教役者を養成する所なるが故に、即ち基督の所謂牧羊者を生

む毋也。若し其方針にして一點の誤るあらん乎、多大の費用を要する神學校は、何等の益なきのみならず、却て基督教の爲めに極めて不利なるものとならざるを得ず、今日の神學校は果して能く其目的を達しつゝある乎。

比較宗教學、聖書の高等批評、組織神學等は神の牧羊者たるに於て、何程の資格を與ふるものぞ、此等のもの必ずしも要なしとせざれども、吾人は其れ以上に於て更に大に必要なるものあるを認むるなり、何ぞや、曰く偉大なる人格也。

宗教の事業は總て人格の事業也、人格を除いて一の事業あるなし、故に吾人が基督教徒の一人たるは、基督の人物を嘆美渇仰し、其偉大なる人格を仰げば仰ぐ程大なるに感じ、其言行共に人類の儀表たるに足り、誠に神人兩者の間を調和するの一大權威となすは、偏に其人格の偉大なるものあるが故也、吾人はルーテルに服す、是れ彼れの人格に服する也、吾人はウエスレーに服す、亦是れ彼れの人格に服する也、凡そ世に大なる者人格の大なるほど大なるはなし、江河大なりと云ふ乎、山岳大なりと云ふ乎、何ぞ偉人の大なるに若かんや、殊に人心救濟の大義を行ひし宗教の偉人ほど大なるはなし、吾人が宗教を信ずるは唯其の偉人の人格に服するが故也、其れを嘆美し、其れを渇仰するの念は、軈て吾人の根底に潜める宗教心と合し、此に一の信仰となりて現はるゝ也、吾人は比較宗教學あるが故に、高等批評あるが故に、組織神學あるが故に基督教を信ずるものに非ず、果して然らば是れ等のもの終に何の用ぞや。

基督は是れ等のものを説かざりき、ルーテルは比較宗教學なき時代に生れたりき、ウエスレーは高等批評なくしてウエスレーなりき、ノックスは組織神學なくしてノックスなりき、彼等の人を動し、人を感ぜしめたる力は、彼等が能く此等のものを解せしが故に非ずして、彼れ等の根底に一大信念の横はるものありたれば也、此信念は外に現はれて宗教改革となり、人心の刷振となれり、然るに後世の腐儒徒らに事を好みて、簡單明瞭にして、千古動すべからざる一大眞理をして終に煩瑣なる學説と化せしめたり、是れ哲學者の事業としては可なれども、神の使命に依り普く人類を救濟すべき宗教家の事業としては、吾人は其迂遠なるに呆れざるを得ざる也。

神學校に於て日課として現在教へつゝある所のものは

以上の如き、是れを歴史に徴するに、以上の如き煩瑣なる學風の行はれし時は、必ず宗教の萎靡として振はざりし時代なりし也、宗教界の活動力は失はれ、禮拜にも、説教にも、祈禱にも、總て生命のなかりし時代也、此に於て總てのもの沈滯し、腐敗し、宗祖三年の苦行、終に何等効果なきに至れり、宗教界の偉人の出てたるは多くは斯る時代にして、其絶大の力の下にあらゆる形式と、あらゆる僞善とは實破せられ、其處に又一新生命を開拓し、能く人心をして新なるを得せしめたりし也。是れに依つて思ふ、今日は實に宗教界に一偉人の出づるを待ちつゝあるの時代にして、迂遠なる、煩瑣なる學説を講究するの時代に非る也。

嘗て新島襄氏の同志社を起すや、當時の神學生は唯新島氏の人物を嘆美せり、而して其極崇拜となれり、故に彼等の活動は力あるものなりき、又嘗て押川方義氏の東北學院に總理たるや當時の學生は押川の人物を信ずるの餘り、氏の爲めに死をだも辭せざるものありき、彼等學生の傳道は、基督教の爲にするど云ふよりも實ろ氏等の爲に盡せしと云ふを以て至當なりとすべし、斯くの如く傳道の根據は、實に人物崇拜に起因すると云ふも不可なし、決して學説の講究に非る也。

今日の神學校の組織を見るに、全く此一大要素たる人格の力を欠けるが如し、斯くの如くにして將來宗教界の偉人を得んとするは、實に迂拙の甚しきものと云はざるべからず、宜なり基督教界の新人物の凡々として云ふに足らざる者のみなるや。

見よ、今日は如何なる時代ぞや、あらゆる方面を通じて宗教界の偉人出づるに非ずんば、如何ともすべからざる時に非ずや、危機已に頭上に迫れり、是れを救ふに常套平凡なる學説を以てなし得べしとする乎、若し基督教會に能く時代を達觀するの明を備ふるものあり、身を以て同胞を其危きより救はんとするものあらば、其人の採るべき手段は人材養成を除いて他に非るべし、然るに基督教界の先輩にして此の事を企つる者なきを見れば、彼れ等に遠眼の士なく、遠大の計畫なく、眞個身を殺して大道を宣傳せんとするの大勇猛心なき事を證するものに非ずして何ぞや。

僅に三ケ年の年限を無事に消費し、平々凡々として敎へられたる事の幾分を、さしたる間違ひなく記憶するものを以て、牧羊者たるの資格ありとなし、是れに一定せる俸給を與へて一教會の主人となすが如き事を以て、能く基督教の道を世に宣揚し得べしとなすが如き

者あらば、其人は基督の心を解せざる、時代の趨勢を洞觀するの明なきものと云はざるべからず、而して當今の基督敎會の先輩、神學校の敎授滔々として然らざるなし、彼等の罪たる、主を賣りしイスカリオデのユダと上下なしと云つて可也。

要するに神學校は多數の平凡なる學生に、平凡なる學說を敎ふる所也、而してそを支配するものは亦平凡なる先輩也、斯の如くして養成せられたる神學生は豈能く基督の流したる血をして光榮あるものたらしむるを得んや、斯くの如き者に依りて養成せられたる信者に豈能く基督敎の眞義を解し得るものあらんや、故に曰く、今の神學校は基督を賣るの方法を敎授するの所なりと。

人間の我儘

子供　「ナゼ、虎や狼を見付かると皆んな鐵炮で打ち殺すの?」

母　「羊や牛、犬などを取て殺す惡い奴だから」

子供　「ぢやー、ナゼ犬殺しや屠獸人(ブチヤー)を鐵炮で殺さないの?」



海外大勢

太平洋と北米合衆國

北米合衆國は、モンロー主義によりて、西部大陸に其の覇權を維持せんとするのみならず、今や大統領ルーズベルト氏は一躍太平洋の海權をも掌握せざるべからざる旨を公言せり、彼が五月十三日サンフランシスコに於て、公衆の前に爲せし說話は、即ち此の目的を明らかに、發表したるものにして、數多の新聞紙をして、はしなくも嘗て全太平洋を彼が主權の支配の下に置かんと叫びしバルボアの行爲を思ひ起さしめたり、ルーズベルト氏は曰く。

余は未だ太平洋を見ざる以前より既に其の太平洋上我米國海權の膨張論者なりき、後太平洋を見るに及んで、苟くも其國の富强を欲するものは、何人と雖も其が膨脹論者たらざるを得ざることを確信せり、今

や我太平洋は世界交通商業の大舞臺となるに至りぬ。されば此の廣大無邊なる太平洋を自國の貿易に利用せんとすることは、開化國民が目下の急務なりとす、現時吾合衆國は太平洋を超えて大に其の國力を延べ、カリフォルニア、オレゴン、及びワシントンに於いて、更にアラスカ、布哇、比律賓に於て其の海岸線を增加したり、其版圖の擴張は廣大なり、而して其勢力の擴張は更に廣大なりといふを得べし。

太平洋より見たる我合衆國の地勢は、頗る幸福なる地位に立てり、吾人は只熱誠協力　以つて此の好地位の利益を保守することを怠らざれば、將來に於て全太平洋の覇權を掌握し得べきことを信じて疑はず。

而も吾人は此方面に向つて非常に、長足なる進步を取れり、至る所に海底電線を布設したるが如き、航海の線路を大に延長したるが如き、世界が未だ見たることなき數多の大蒸滊船を增加したるが如き、皆以て吾人が言の虛妄にあらざるを證するに足らん。

吾人は又、海權擴張の第一着として、太平大西兩洋の連絡を圖り、先づ手を地峽開通の事業に下せり、此事たるや、吾が商業界、軍事界、殊に海軍の勢力を强大ならしむる點に於て、莫大なる利益を齎らすことは何人も否定する能はざる所なり、此の好機に際して、幸にも比律賓島の管轄は、平和の中に吾が手に歸しぬ、吾人は神に誓つて飽くまで此事業を繼續して其が完成を圖らざるべからず。

此の事業を遂行するに當りて、常に平和主義を確守せんことは、余の切に希望する所なり、吾人は永久に平和を貴ぶ、然り而して其の平和を得るの最も確實なる方法は、只戰爭を恐れざることを示すにあり、吾人は、弱國に對しては常に公平と正義とを以て交り、强國に對しては、飽くまで吾人の權利を維持し得べきことを示さゞるべからず、而して之を示すには、只其聲を大にしてなすべきにあらずして、必らず常に實力の伴なうものなくんばあらず、蓋し大言は徒らに他の侮蔑を招くに過ぎざればなり。

吾人をして、外は懇懃と公平とを旨とし、内は準備と勤勉とを守らしめよ、期くて吾人は長しなへに平和に浴することを得ん、平和は常に、害を人に加へざる正しき人にのみ來るべきものなれば也。

吾人は堅牢なる艦隊を設けて、剛勇なる兵士を之に滿たし、熟練なる士官をして之が操縱を司らしめざるべからず、之れ吾人が世界に向つて自巳の地位を保ち得るの最大急務なり云々

露亞西、日本、英吉利、獨逸、及佛蘭西も亦太平洋に其の利害を有す。中には非常に利害の重要なるものあり、されど米の各新聞紙は、大統領と共に、自國の利害を以て最も大なるものとなせり、ボルチモーアより發行する雜誌「アメリカン」は曰く。

吾人は太平洋を支配せざるべからざる正當の理由を有す、世界何れの國と雖も、未だ吾人と其利害を同じうするものあるを見ざれば也、吾人が西海岸は全く其が大洋に依て包まれたるにあらずや、加うるに吾人は此大洋中に散在せるアラスカ半島、布哇、グワム、比律賓、ミッドウエー、及びサモアン群島の一部を領す、而して之れ等の領土は他日、吾が國の發達に大なる影響を及ぼすこと、吾人の信じて疑はざる所なり、即ち之等諸島の鑛山、田野、及び製造所等は、皆其の生產物を吾人の需用に供し、以て我が國の富强を助長すべし、されば吾人が之等の遼隔せる諸領土に往來するの公道として使用する太平洋をば、吾人の支配の下に置かざるべからざるは、當然のこと也。こは頗る利己的の意見に似たりと雖ども、而かも吾人が交通運輸の自由及び安全上、止むを得ざるに出づる議なりとす云々

ボストンなる「ツランスクリプト」誌も又大統領の豫言せる通商貿易の膨脹を賛して、更に其の極めて平和的に實行し得べきことを断言せり、日はく

此の膨脹は全く平和に行うことを得べし、何となれば、こは、唯熱心なる商業家の手腕と勤勉の如何に依りて遂せらるゝものなれば也、五十年前、サー、エドワード、クリーシーは『十五年間の決戰』てふ論題の下に、米國が西方の進歩は、單に太平洋のみに止らず、又、支那及び日本なども共に、合衆國の兵力をもて征服し得べきことを公言したりき、而して之れ固より、其時代にありては、不可能のことにはあらざりき、今やクリーシー氏が豫言の半は既に實現せられぬ、而も米人が慈悲心は、遂に支那日本を征服するを快とせずして、却て其を吾が親友となすに至れり。

大統領ルースベルト卿は、太平洋に於ける吾人の膨脹は、今日まで逃れ來りし諸種の衝突の原因となり得べきことをいひ、且つ、堅牢なる艦隊を組織して、以て商業船を保護すべき必要あるを論じたりき、之れ即ち商業の發達は、海軍の發達と伴はざるべからず、商業を無視せる海軍が、未だ嘗て其の國の富强を來せしことを聞かざれば也。と、いづれも米國が太平洋上の海權に就て其覇權を握るの必要を説かざるはなし、太平洋上天然の好地位にある我日本は此覇權を向岸の北米合衆國と爭はざるべからず、其設備其意氣込果して彼のアンクルサムの如きものありや否や。



（モ。ル。ガ。ン。氏。ト。ラ。ス。ト。の。勢。力）

社。會。民。主。黨。基。督。教。を。利。用。せ。ん。と。す。

社會主黨は一般に常に、『宗教は一個人の私事務なり』てふ言を許し、毫も之を拒まずと雖も、而も歐州の社會民主黨は、從來悉く基督教の信仰個條、及教會に對して仇敵の地位に立てりき、然るに近時此の黨派が、やゝ基督教に對する敵意を減ずるに至りしことは頗ぶる留意すべき事なりとす、ドクター、エー、デンナートは其の著「クラオベー、ウント、ウイッシエン」に於て曰く、

近時、社會民主黨の基督教に對する態度が、著しき變化を來せしことは、苟くも事狀を觀察せる者の否定する能はざる所なるべし、即ち彼

等は全く仇敵にあらずして、却て親友となれるの觀あり、其の源因の何處に在るやは容易に探知する能はずと雖、其の事實たることは疑なし、而して此事實たるや、吾獨逸に於けるよりは、他の諸國に於て却て其の著明なるを見る、和蘭のグロニンゲンにて開かれたる社會民主黨の會合は、遂ひに各公學校に宗教科の課目を設くることに決議したり、白耳義なる傳道教會は何の苦もなく、勞働社會より義勇兵を募集することを得たり。ヘンチガオに建てられたる社會民主黨の圖書館には、數多の聖書を藏せり、リユーチヒの同黨派は集會の議決によりて、徃年の否基督教布告を取消したり、同黨の機關なる新聞雜誌類は近時、盛んに宗教上の問題を論じ、且つ新教僧侶の手に成る論文講話等を爭うて掲載するに至れり、英米に於ても社會主義黨の運動が一も否基督教的の徴候あるを見ず、獨逸に於いてすら、近日此黨派が會合の席上にて、有名なる唯物學者、ドクトル、フオーゲルが『余は只耶蘇基督の恩惠に依て、幸福なる人となれり』と公言せしことありき、而して自由僧侶、ウエルカー氏が基督教を攻撃せし時は、非難の聲頗る高く、ライヒスタハの代議士にして有名なる社會主義なるフオン、フオルマルは、彼に手酷き說論を加へたりき、之を要するに、社會主義の代表者等は、基督教の根本義は平民の利益を圖かるものなることを證明せんと勤むるが如し、此の激論の主なる戰士は、ドクター、ロシンスキーなり、氏は此の意見を主張せんが爲めに二三の冊子を著述せり、次て起りしはドクター、カナチユーキーにして其の近著『社會民主黨とカゾリツク教會』は非常に世の喝釆を博したり云々、

然れども彼等黨派の基督教に對する感情は全然融解したるに非ず大牀は猶排基督教の主義に依て立てり、仝氏更に曰く、

之に對してドクター、ピー、フライシユマンは飽くまで、基督教の教義を否とし、數多の小册子を著して、盛に之を攻擊したり、又伊太利の社會主義黨は、其の機關雜誌アバンチーに於て、『基督教は近代思想の塵塚なり』と罵り、『社會民主黨の開化せるものは決して基督教に依りて欺かれず』と公言せり云々、

要するに社會民主黨の基督教に對する敵意の減せるは、彼等が其黨の爲に基督教を利用するの便なるを知りたるに依るが如し。



（露國藏相ウヰツテ氏）

海外雜纂

歐州大亂の豫想

（千九百五年に起るべき英佛の血戰）

五月の「フオートナイトリー、レービユー」は、「ベーツ」なる匿名の下に、サー、トーマス、ハルウエイの紀念と題して、一千九百五年に起るべき佛の英國侵略を假設的に記せる長文を掲げたり、此の主意は、敢て兩國間の敵意を煽動するが爲めに書きしものに非ずして、只軍事に關す

る英國現今の政策に對しての避け難き結果として英を警戒せしのみ、其が所謂政策とは、單に現內閣の政策をいふにあらずして、英政府全體の政策を指せるなり、何となれば、佛將、ゾー、モーブが軍隊を率ゐて英に上陸せしときは自由黨內閣となれるものと假定したれば也。サテ其空想の變亂は如何にして起るべきか。

皇帝の變動

千九百三年以來、數多の事件、續々現はれ出でたり、英國の軍隊は、ボーア戰爭前と等しく減じ、國內には亦自衞の爲めに、市民軍興りぬ、外國にては、ナポレヲン皇帝、露の隱遁地より現はれ、遂に佛のナポレヲン四世となれり、更に驚くべき大事件、獨逸に起りぬ、即ち皇帝は宗教の爭議に飽きて、暫く之を維也納に免れん爲め、輕氣球に乘りて出發せしが、中途にして、輕氣球破損を來し、一行悉くダニューブに溺死を遂げたり、獨の新帝立ちて、內閣員以下の百官悉く、英に對して反對し佛の同盟を望めるもの、多數を占むるに至れり。

戰鬪の破裂

俄然戰鬪の門は開かれたり、露國はヘラットに入るを許されしかば、露の軍隊は直ちに北アフガニスタンに侵入せり、此に於て英は、暫時、露と交涉談判の後終に露に對して宣戰したり、土耳古と獨乙は英にダーダネルス海峽の通過を拒めり、而して佛と獨は、飽くまで封港を解かざりしかば、英は遂に、バルチック海に大艦隊を送らざる可らざるに至りぬ、されど其軍隊は露に對して、何等の抵抗をもなす能はず、依て英は更に東洋の領土に於て其の勢力を强めんと企てたり、時に石材を滿載せる佛の商船三艘、スエス海峽に沈沒して通路暫く絕ゆるの珍事起れり、此時に至るまで佛と獨とは中立の位置に立てりき、然るに不意に海底電線破壞の大事件起りて、獨佛間の外、英と大陸との交通は全く絕えたり、獨乙は其全豫備兵をウールウイッチの周圍に召集して、以て英の造幣局を破壞せんと企てしが、其の倫敦警察の探知する所となりて、終に其の宣戰を停止せられたり、英を侵撃せんため、數万の兵士を乘せたる佛の大艦隊は、或夜私かに佛の港を出發して、英に向へり、佛の全權公使は本國に召喚され、而して其の翌日、佛兵遂に英國に上陸せり。

襲擊

佛軍の先鋒は、夜中、スペーン、ヘッドの燈台に近く上陸し、ハルに達する電線を切斷し、大に掠奪を恣にせり、數百の兵士は更に自動車を驅りてハルを侵撃し、何人も猶其の騷動を知らざる內に、電氣鐵道を占領し、砲兵の分隊を虜にせり、是に於て、兵を諸方に分散して、至る所に電線を切斷し、悉く地方の武器庫を封じぬ、一分隊は更に川蒸汽に乘りてゴールに趣き、又他の分隊は端艇にてトレント幷びにウエイトン運河に送られ、其周圍の交通機關をば或は破壞し、或は占領しぬ、佛の攻擊の新奇なることは、實に運河其他の水路を應用して、迅速に軍隊を諸方に分遣し、以て南英との交通を斷たしむるにあり、最も著しき成功は、ウエールスの皇子を其の別邸に虜にせしことなり、されど主なる侵撃はリンコーン州にあり、佛の侵入軍は馬を有せず、依て先づ鐵道を占領し地方の官衙に强いて、馬匹幷に自轉車を供給せしめたり、斯くて數日を出でざるに、ウイッサムに至までの地方悉く佛軍の手に歸しぬ、時に第二軍は又[illegible]の勢もて英に上陸し、第一軍の後を追いて、更に侵略の域を擴め、水雷艇も亦諸港の不意を襲撃して、軍艦を沈め、砲臺を毀ちぬ此報一度倫敦に達するや、國民大に憤慨し、政府は直ちに軍隊を派して

之が防禦に勤めしも、英は騎兵を欠きしため、遂に敵の位置及び動作を調査する能はず、遂に戰鬪は英の大敗に終れり。

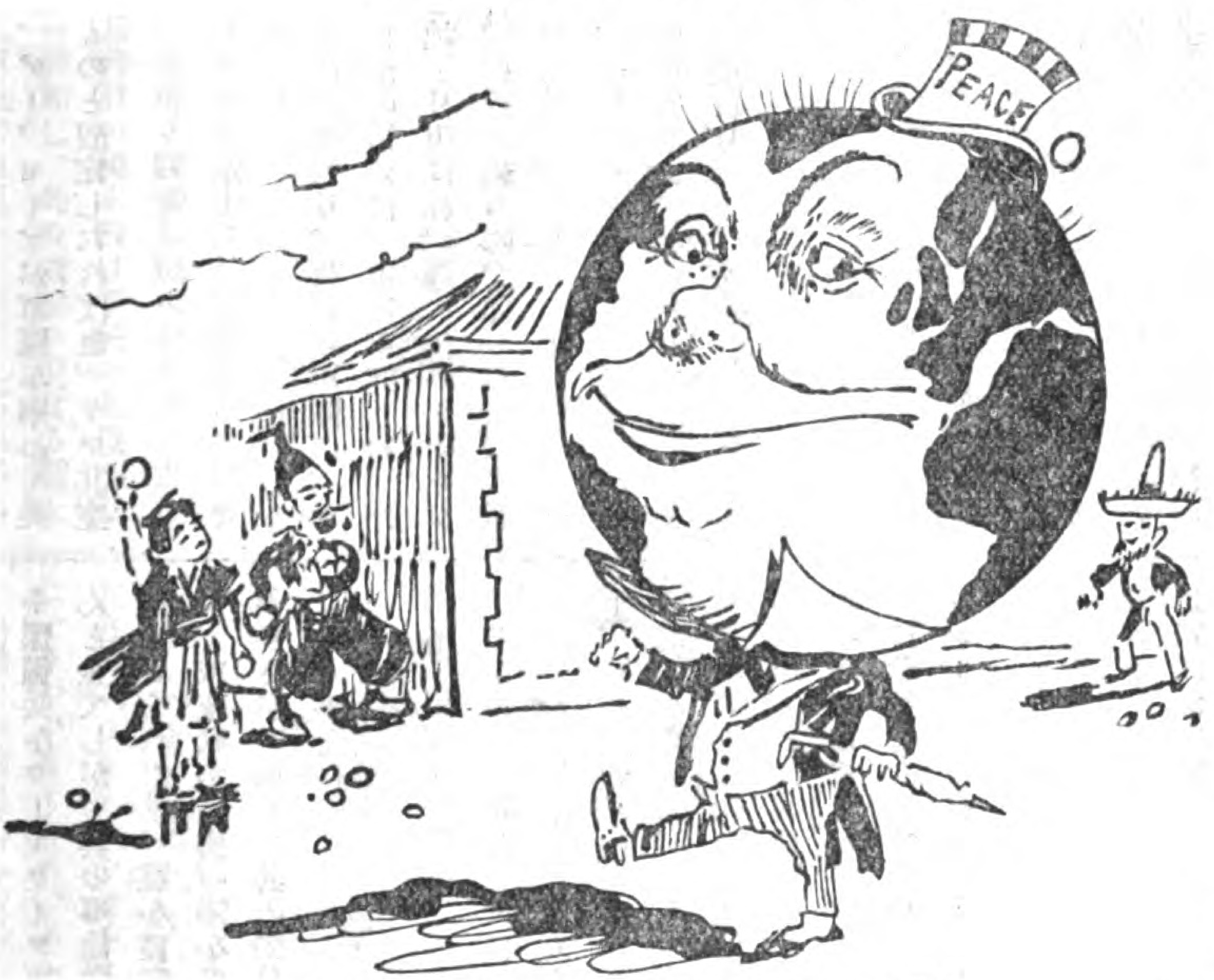
和議

時に英の水師提督は、本國の急變を聞きて、匆惶バルチックより歸國の途に就きしが、海上に於て佛の第三軍を乘せたる艦隊に出會し、苦戰の結果遂に是を虜にし、悉くそを破壞したり、此に於て和議の條件提出せられ、佛國の軍隊は悉く本國に引上げたり、獨乙皇帝は幸にも溺死を免がれて、ダニューブの島に漂着し、露は蘇生せる獨乙の皇帝が、其嗣子の内閣政策を承認せざるを知りて遂に英と和を媾じ、此處に戰は、大なる騷動を來すことなくして終を告げぬ。

かくして歐州の大亂は平定しぬ、これ豫想記の梗概なり。

埃及太古の格言

近日埃及の古墳中より發掘したる記錄は、全國太古の人民か專ら、服



世界の平和帽に向て日本其他の國が石を投げて平和帽を打ち落さんとせる圖なり

したる數多の格言を集錄したるものにして、佛の有名なる埃及學者、フイリップ、ピベー氏の手に譯せられて、普ねく世に紹介せられたり、こは元と、シープスにて發見されたるものにして、紀元前大凡二百六十年頃の著述に係ると、最初の二頁は、埃及の第三王朝、セノフエラス王の治世、(紀元前三百九十年)に、知事たりし、カキムナ氏の筆に成り、殘餘の十六頁は、第五王朝、アッサス王の時(紀元前三百五十年頃)同じく知事たりし、プター、ホー、テップ氏の手に書かれたるものと傳へらる、此の有益なる冊子を完成して、普く之を其の國民に分布したる効に依り、テップ氏は非常なる人望を博し、王は遂に之を擧げて、悉く其の國政を委ぬるに至りしとぞ、今此處に伯林より發行する『ノールド、ドイッチエー、アルゲマイネー、ツアイツング』誌より其數節を譯出して、以て太古格言の一端を窺はむ、

一、

自己の學識を決して誇る勿れ、愚人と語るときも、賢人と語るときも平等にせよ、何となれば、學問には遂に際限なし、如何なる學者哲

人と雖、あらゆる智識を悉く具備するものにあらず、萬能の學者を見出すことは、非常なる天才を見出すことよりも更に至難の業なれば也

一、

怒れるものと、力優れたるものとの前には、只汝の頭を低く垂れよ、彼等は自己の言語に抗議を受くることを好まざる故に、如何なることあるも、決して彼が言語を妨ぐる勿れ、たとへ彼より反對することあるとも、汝は只心を靜穩に持つべし、是れやがて汝が勝を得たる也。

一、

汝若し、人の長となり。人の運命を支配すべき地位に立たば、常に非難を受けざる態度を保つやう心掛くべし、威壓强迫を行ひて、決して人を怯懦にすべからず、然らずんば汝、必らず神罰を受けん。

一、

高貴なる人の家に招かれて、其が饗應を受くるときは、常に身を卑くして只與へられたるものゝみを取るべし、吾が前にあるものを見よ、ゆめ、四周を見回し、不作法なる擧動あるべからず。

一、

長者と語るときは、常に問はれたる以外のことを饒舌せざるやう注意すべし、多言は其人の機嫌を損ずる恐れあればなり、貴き人の使命を帶びたる時は、嚴密に其命ぜられたる處を爲すべし、必らず怠慢あるべからず。

一、

夢の如き瞬時の快樂を貪りて、遂には其の生命を失ふに至ること、世間、其の例に乏しからず、輕々しき誘惑に身を沈溺せざるやう心せよ

一、

父母、兄弟、夫婦間の不和は世に最も悲しむべきこと也、之を避けんには、先づ汝が心を其家庭に用ゐよ、汝が妻を愛すべし、彼女をして飢ゑ凍えしむべからず、夫婦にて在る限りは常に彼女に親しみ、彼女の望を滿さしむべし、之れ夫たるものゝ務め也。

一、

妻を養うには常に說諭を以て對すべし、決して暴力を以て對すべからず、然らば妻は誠心を以て其家計に注意せん、されど汝若し、其妻を厄介視し、惡しく其妻を取扱はゞ、汝の家政は忽ち紊亂を來すべし、妻に對しては、常に愛情の腕を伸べよ、妻を呼ぶには常に愛の聲を以てせよ。

動物の臭氣に就て

動物の放出する諸種の臭氣は、概ね皆自衛の要を爲すものなることは普く人の知る所なり『レブユー、サイエンチフイク』の一記者は四月の同紙上に於て、此事を論じ、遂に之れが詰論をなして曰く、動物の臭氣は單に自衛の要をなすのみならず、又他に諸種の異りたる作用をなすものなりと、彼は曰く

多數の動物は皆不快なる——少なくとも人間に取りて——一種の强き臭氣を放つものなることは世人の既に知れる所なり、而して博物學者は屢々之等の臭氣は動物の生理上重要なる作用をなすものなりと考へたり、即ち其臭氣は、皆自衛防禦の要をなすものなりと、こは決して誤謬にあらず、例へば鼬鼠の如き肉食動物にありては、敵の襲擊に遇ふ每に、常に其の臭氣を放發して以て敵を苦しむる要をなすものにして、試に之等の一動物を殺すときは、此放發せる臭氣は實に秋季より春季に亘りて、數月間其他地に其餘臭を止むるといふ、以て其臭の强さを知るを得べし、されど或る他の動物の臭氣に至りては全く、

自衛の用を爲さず、斯る場合にありては、必らず何か他の作用を爲すものなり、時としては此臭氣は其の動物の雄か雌かの一方にのみ附與せられて、他方には全く之を有せざることあり、之等の者にありては概ね交接期に於てのみ、其の臭氣を放ち、以て互に其異性を認知するの要をなし、其他の時期には全く之を放出せず、或る蛾の種類にありては、交尾期に當りて、其雄のみ麝香の香氣を放つものなり、又濠洲に產する一種の鴨類も、其雄は常に特有の臭氣を放ち、殊に春季にありては其の臭、激烈にして慣れざる者は之に近づく能はずといふ云々然るに此處に又、自衛防禦の作用をもなさず、異性を知るの要にもならずして、而も強烈なる臭氣を發するものあり、加之、是等の臭氣は往々、其敵を招くことすらあり、博物學者の實驗に徵するに、鳥獸の鷄は常に好んで臭氣ある虫類を貪食するが如し、又或鳥類はブラッシックの酸類を發するものを嗜む、之等の事實よりして、凡て動物の好む所の臭氣は吾人の好む所のものと大に異なるものなることを推定することを得べし、同じ人類にても階級の異なるに從ひ、其の嗜好を異にするものにして野蠻人は概れ開化人の厭ふ臭氣を愛するの傾きあり例へば黒奴は一般に死したる鰐魚の臭氣を好み、朝鮮人は、蠟梅、死魚及び醱酵したる酢などの臭氣を愛する等、其他猶例多し、開化人の中にもチーズや乾酪等の臭氣を愛するものあり、又動物中には不思議なる禁厭物を有するものあり、例へば海鼠は好んで、テレビン油、沃度ホルム、樟腦水等に漬けたる魚肉を食ふと雖も、普通の料理したる肉は決して食はず云々。

望遠鏡的の眼を有する魚類

近來海底の研究、大に歩を進めて、其の調査の結果、遂に海底は眞暗黒なりてふ從來の謬見を打破するに至れり、獨逸の一雜誌『ウムシヤウ』は之に就て左の如く語れり。

日光は固より暗黒なる海底を照すこと能はざれども、其處に住める動物の多くは、皆自から一種の燐光を放ちて以て身の周邊を照し、其の光輝に依りて他の魚類を襲擊す、其光力たるや素より微々にして容易に之を認むる能はざるが故に、海底に住める魚類は皆之を認知し得べき一種の眼を有す、之等を望遠鏡的眼（テレスコピック・アイズ）と名づく、されど其の眼は視覺上望遠鏡の作用をなすにあらず、只其の排置頗る双眼鏡に類せるを以て、斯くは名けられたる也、即ち其の眼は多少突出せる圓錐形の管より成り、極めて大なる瞳子と透鏡（レンズ）とを有す、其の位置は普通の魚類に於ける如く、頭部の兩側に位せるにあらずして、通常頭の前方に密接して位す、故に其の視覺は人類と同じく、双眼視（ベイノダ・コラーヒジョン）なり、されど其の外形は種類に從つて大に異なり、或物は僅かに突出し又或物は、長き細管の末端に附着せり、眼球も概ね圓筒形をなして球形をなさず、又其の網膜は二つの部分に分れ、一は以て物を視るの要をなし、他は以て周邊に散逸する微光を捕ふるの作用をなす、要するに此の望遠鏡的眼の瞳子は常に開放され、極めて微々たる光線をも利用し得るの要をなすもの也。

南蠻叢話

▲伊太利にては墓地より百ヤード以内に井を堀ることを許さず、佛蘭西及び墺地利にては二百ヤード以内を禁ず

▲世界豪富の一人カーネーギー氏は、北米合衆國に六十七、スコットランドに十七の圖書館を作れり

▲人體全部其七割二分は水にして、骨すらも其一割三分は水なり

▲葉卷烟草の一番大形なるは一本に就き二グレーンのニコチンを含む、パイプ一杯にツメたる粉莨は一グレーンの三分の二のニコチン有り

▲英國人は一年外國輸入の手袋一千九百万圓を購買す

▲世界陸地全躰の中、耕作に適するは僅に一百分の五、半なりとす

▲ロンドンに派遣し公使其他一國を代表せるものを置けるは計四十五個國あり

▲濠州は現今、其面積に比較して世界第一に探險不十分なる陸地なり

▲ニュージーランドよりロンドンまで、帆前船にて最も迅く着せるレコードは、六十五日なりし、千八百六十八年ゼルモピール號にて

▲一個の家屋も二百ヤード以内に郵便函の無きはなしとはロンドン人の自慢

▲英國兵士は千人に就き十六人づゝ回教徒、印度教徒、及び猶太教徒の有る割合となる、印度其他領地殖民地の兵多きが爲めなり

▲正月一日は、七月一日より我地殊は三百万哩太陽に近かし

▲地球自轉の速力漸次減少す、今より一百年前に比して一日に就て半秒時、日が長くなれり

▲露西亞人は一年に二十一日間病臥し、英人は十一日、墺人は八日の割合に病臥す

▲伊太利の兵士は、現今其全裝の時、五十七封度の重量を背負ふ、英國兵は六十二封度なり、往年タナタールー戰爭の時一人八十四封度づゝ背にしたり

▲ロンドンに於ける最初の生命保險は千六百九十八年に起れり、次は千七百年なりとす、此二會社共に失敗に畢れり

▲印度にて・は三千年の昔已に生命火災等の保險ありき

▲珈琲の産額、全世界の三分の二はブラジルよりす、全國より年々國外に出だす量は實に十一億八千万パウンドに上る

▲ノールウエーのファイアツリーは船舶の檣用として第一の材木なり、次はスプリユース、ファイア、次は亞米利加のホワイトパイン、次は蘇格蘭パインとす

▲千八百四十一年頃、英國にて結婚の九割三分まで寺院にて行はれしもの、現今は減じて七割となれり

▲小兒生れし時、腦量十オンスに上らず、然れども通常一年間に二ポンドまで其量を增加す、腦髓の發達は男子二十歳女子十八歳までを定限とす

▲ロンドン水道の給水、去年一年間、二億八百万ガロン

▲濠州にては濕氣少き爲め一平方哩の土地僅かに八頭乃至九頭の羊を養ひ得るに過ぎざる比例となる、之に反して南米アルゼンタイン共和國は一平方哩二千五百六十頭の羊を牧養し得らるゝの割合なり

▲伊太利にては自動車を走らせるに制限有り日中は一時間十五哩夜中は全じく八哩以上を疾走せしむべからず

▲印度には正しく乞食のみにて生活せる惰民少くとも三百万人有りと稱せらる

▲西班牙の有名なるEscurial宮殿は其殿の各室を通行すれば總計百二十哩の長さとなり、此れを悉く通過し終るに少くとも四日を費やす

▲テームス河のトンネルは六百三十万圓の工事費なりし



中央亞細亞探險記

昨年來中央亞細亞探險の道程に上り、幾多の難關苦境を經、一時消息の絶へたるが爲め同人をして其生死を懸念せしめたる社友渡邊堀二氏は、今や無事トルキスタンの庫車まで到着せり。左は同地より出でたる最近の通信なりとす。　記者

拜啓　左の一篇を日記の中より抄出し、且つ所感を添へ通信仕候、事は當地（庫車）に着する前二週間の記錄に有之候、採るべきあらば公論の餘白の埋草となし被下度候

四月廿七日　庫車に於て

渡邊作原
堀　曉雪

明治三十六年四月十日「和色爾」河を渡り午前十一時「和色爾」莊に着す。「和色爾」莊の東南二十清里の處に、ミンウイ（ミンウイは土耳其語の千家を意味し、清人の所謂千佛洞なり）あり午後之を探らんと欲し將に發せんとす。時偶ま此地方此時季の名物なるブーラン風は、其威を逞し、天地晦冥殆ど咫尺を辨ぜず、土人等は生等の此砂風中に出發せんとするを危みて曰く、中途必らず途を失せむ、縱令到着するも千佛洞を觀る能はざる可し、且つ往復五十清里の道程事容易に非ず、且つ時刻既に午後二時を過ぎたり、宜しく本日は中止すべしと、生等曰く五十清里の距離は僅か二時間の馳走のみ、若し沙風の猖獗休まずんば、中途より引き返さんのみ、逡巡す可きに非ずと、則ち發す。

「和色河」河の東岸なる砂磧を越え、其砂磧の突然「水素特他里雅」に逼りて、二百餘尺の高ある絶壁をなす所是れ千佛洞ミンウイなり、其南方は赭色のチユルタツグ山西方ヤツカリツク莊より連綿として、ムザートダリアの南岸を爲し、其河身をして此の麓に沿ひて東流せしむ、河の東北岸に沿ひ後ろに砂磧の「斷崖」を負ひ、三角形なる平坦の地に數個の土屋白楊樹杏樹の間

に見へぬ、此のクリッフに穿たれたる古佛洞は陰暗千古の影を存し、恰かも蜂巣の連りたるが如し、洞に入りて之を觀るに、既に西域水道記の記すが如くならず、佛像は其影を留めず、金壁は其光を存せず然れども、壁畫は丹青藍紫燦爛として、人目を驚かしむるものあり、洞の種類も隨て多く、到底一日の能く之を觀了す可きに非らず、一應和色爾に引還しぬ。

「和色爾」より大部分の荷物は、アラバ(荷車)にて先づ「庫車」に送らしめ、少許必須の物品を留めて、先づ「拜」の州官より聞き知りたる「和色爾」莊より三日の往復程なる、ミンブラック莊に烏壘碑を訪ふこととはなしぬ、然るに土人の話に三人のベラン(土人は英國人をベランと稱す)明日庫車より此地に着せんとす、既に彼等の荷物は三臺の「アラバ」にて、此地に着したり又、彼等ベランは「吐魯番」地方に三ヶ月滯在し、又庫車ののクムトラ莊に一週間滯在して、其他のミンウイを調査したりとの事なりと生等之を聞き定て此の三人は英人に非らずして、獨乙の博士ダルウンウエデルの一行ならんと推したり、全博士の一行は喀什噶爾地方に向ふ者にして生等はトルパンに赴く者なり、相互途上の智識を交換するとを得ば、彼我の利益少からず、則ち更に烏壘碑探險の日を一日延期し先づ博士の一行に面會することゝせり。

四月十一日　午前十一時過に、博士の一行は西剌利亞より持ち來りしと云ふ露西亞風なる五頭立の馬車にて着しぬ。之を訪ふに、果して博士グルウンウエデルの一行にして、他の二人はドクトル、ユース及テヲドル、バータスの諸氏なりき。

博士一行が旅裝の褪汚せる、敢て生等に讓らず、流石に跋渉の難、征旅の苦を示せり、博士は大に生等に會せるを喜び、英吉利パイプに頻りに煙を燻らしつゝ、靜かに有益の智識を與へられたり、一見温厚の君子、時に無我の笑を洩し、人をして敬慕の念に堪へざらしむるものあり、一行中のドクトル、ユースは、最も能く談じ、昨年八月十一日伯林を出發して以來、正に八ヶ月の今日、今玆に文明國の語にて談する人に邂逅せしことの奇を語り、此の地方の茶の飲むに堪へざる事、珈琲の缺乏に苦しめること等を談じ話頭は種々の逸話談となり、久し振りにて歡笑の半日を費やせり、羊飯の土耳古調理にて饗應を受け、辭し去らむとする時、ドクトル、ユースは生の袖をひき、君は猶喀什噶爾に於ける珈琲販賣店の番地を告ぐるを忘れたりと、相見て

一笑す。

右のドクトルユースは、能く博士白鳥庫吉氏を識り居れりとの事にて種々の傳言をなせり。

中央亞細亞と獨逸學者

思ふに本年は此のトーケスタンに於て、獨人の跋渉最も多きの歳なり、キヤプテン、ボデーの南印度よりカラコラムの難嶺を越へて、アラブの龍驤孤鞍悠々として、此のタリムベージンを蹂躙するあり、博士ハートマンのミセス、ハートマンと西トランサキソニアよりテレックの峻坂を下り來りて、喀什噶爾に葉爾羌に、土耳古語學の研究に孜々たるあり、博士メーツバフ及ドクトル、カイドルの北伊犂よりムザルタワンの凌山を辿り下りて、鐵鎚を提げて地質研鑽に汲々たるあり、今又グルンウエデル博士一行の東北サイベリアよりタルフワンのデブレッションに庫車の古地に、ベスバリックの古佛蹟又はモンゴリアンを探究して其功を奏せしあり、實に一千九百零三年は、此トルケスタンが獨乙學者より四面夾撃を享けたるの歳なり。

彼の中央亞細亞探檢の名聲嘖々たる露の故將軍プレゼワルスキーの其骸をイシックルの湖邊に葬りし以來、瑞典のスウエン、ヘデンの二回の大探險あり、久く結れたる羅布淖爾(ロブノルプロブレム)問題の解決となり、印度政府よりドクトル、スタインの和闐、ケリア、尼壤地方の考古學探險となり、今又博士グルンウエデル一行の土魯蕃、カラコージヤの佛蹟踏査となり、羅布の葦影、タリムの岩頭、和闐の古窟、ケリアの古碑、若しくは高昌壁の高塔、火州の水渠悉く歐洲の學者間に紹介せられ、復將に報道せられむとす、是より西域南北兩道の研究は益其盛ならんとす。

トルケスタン探險に關する邦人の利便

雖然此トルケスタンの諸學の資料に富む豈に斯等數個の博士連の踏査を以て、盡したりとなさむや。

余等想ふに我邦人は、世界の此の一隅を旅行するに就き、歐人の有せざる種々の特典を有す、則ち

(一)清國官吏の厚遇　新疆の官吏は至つて外客の旅行者に對して、懇篤にして或は寓居を斡旋し、或は通辯を附し、或は馬糧等の送物をなす等懇篤を極む、特に近來日本人に對しては、日華一家人なりとて歡待到らざるなく、生等は時に或は彼等の優待の極に

迷惑せし事も尠からず。

（二）漢字の智識　土民の漢字を知り、清國語を採る者は至つて稀れなるも、其政府の清國政府たる以上は、漢字の智識は民間に非常の勢力を有し、且つ日本人の漢文は彼等清人に敬せらる。

（三）人種の大同　トルコ人は其イラニアンの血脉の幾分を有する者あるも、チユラニアン人種に相違なければ彼等と全く異なる歐洲人に比して其感情思想等相近く利便多し

（四）食物の少異　土人は重に麵麭、土米及羊肉を常食とすれば、日本人の食に適し、歐人の如く常に肉汁、珈琲等を要する煩なし、但し土人は胡蘿蔔、玉葱の外は、野菜を食する事最稀れにして、百戸以上を有する大莊にして、猶菜を得難き事あり、然れども清國人の住する所必ず野菜あり、

斯等利便あり、覇氣勃々、崑崙の頭水に口漱ぎ、パシフイツクの洋流に浮ばんとする日本人士の、何が故に躊躇其足跡を此のタクラマカンの砂上には印せざるかを怪ますんばあらず。

各方面より見たる探險の必要

一宗教學　法顯、宋雲、玄奘の行脚は云はず、羅什實叉難陀、智猛、尸羅達磨、智嚴、曇覺等の先覺は、實に天山の麓、崑崙の陰に輩出したり、加之、世界の三大教なる佛回耶の三教の、世界の此の中隅に於ゐて、梵鐘般々アーメンの聲と和し、マザー（回教寺）のドームの頂尖なる新月形は、陰暗たる佛洞と相映じ、景教學者の佛徒の譯經を資けたることあり、斯等古代近世諸宗教の形迹の此地方を除きて、世界何れにかある、イスランの鐵騎の下にさしも盛へし佛教の如何に滅亡せられしか、和闐佛教の如何にカシユミルの佛教に關係し、又如何にラダックの佛教に異りしか、プレスター、ジヨンの歴史上如何なる人物なりしか、此外、ターシ或はアーグトンの語に如何に、宗教家の解決を待ちつゝある、一切經を完有し佛教の粹を萃めたりと誇る日本佛教家の何が故に蹶然其の蹈を此方には向けざる、

故マクスミユラー博士曰く

It is a real pleasure to read a Turkish Grammar even though one may have no wish to aquire it practically. The ingenious manner in which the numerous grammatical forms are brought out, the regularity which pervader the system of declension and conjugation, the transparency and intelligibility of the whole

structure, must strike all who have a sense of that wonderful power of the human mind which has displayed itself in language ....an eminent orientalist remarked; we might imagine Turkish to be the result of the deliberation of some society of learned men; but no such society could have devised what the mind of man produced, left to itself in the stepper of Tartary, and guided only by its innate laws, or by an instinctive power as wonderful as any within the realm of nature.

一言語學　トルキー語の外に、タジックのトルキー的波斯語あり、又古昔に遡れば、セントラル、アシアン、ブラーミあり、カロシトヒーあり、ウイゴルあり、アリアン語にチユラニアンの語に一所研究し得らるゝ處此地を除いて何れにかある、日本の博言學者、英に獨に、或は佛に其河流に隨ふを離れて、屹然獨立何が故に中央亞細亞語學の研窮を、其双肩に負はむとはせざる。

一人種學　人種學に至りては興味の更に深きものあり、イラニアンにチユラニアンに、土着の民に、遊牧の群に、或はタジック、キルギズあり、ウズベック、カラキタイあり、ドンガン、カルマックあり、キプチヤック、ドーランあり、又カザックあり、綠眼隆鼻長髯の雄爽なるアリアンタイプあり、細長の眼、擴大の頬骨に、本眞モンゴリアンのタイプあり、又此の兩種の雜駁せる者あり、日本の人類學者何が故に其研究の區域を、此の人類始原の高原には求めざる。

一地學　地學者に至りては、此地方研究の興味實に津々たるものあり、荒漠慘憺たる此地方の山谷は天眞爛熳として、他の地方よりも自然の働力及其結果の赤裸々たるものあり、此の熱帶と寒帶との間に存する沙漠帶の山河は一種の特徴を有し、巖質に含有する鹽分の如何に其山形を變成するか、大陸的氣候のブーランの砂風と共に如何に其山形に影響するや、或はロエスの研究すべきあり、或は其湖身を負ふて湖床を轉ずる羅布淖原あり、崑崙氷海の密原岱山の白玉烏玉に映ずるあり、或は堅氷結成層巒疊巘高下光瑩のムザルト嶺のグラシアあり、或は龍推（サンドユン）の洪濤の如く、タクラマカ流沙の間に起伏するあり、日本の地學者たる者、啻に內地の火山岩研究を以て能事了れりとなす可けんや。

一博物學史學　此外高山の毛牛、沙漠中野生の駱駝、野生のアッス、アイベックス、オヴイスアンモン其他諸種珍奇の植物は博物學者を招くの好資料たらむ、漢朝張騫の西域に通ぜし以來、淸國は最も古き西域の史

料を有す、而して日本人は之を自在に利用するを得、是れ日本人の西域の研究に就き、歐人に比して最大の利便あると同時に世界の學術界に向つて、西域の研究啓發の責任を有する者なり、東亞の先進國を以て、自任せる者が其脚下の研究を、他邦人に委するは豈愧づべきの事ならずや。

▲軍事上▲　氣滿淸を吞み、慨パシフイクを蔽ふ日本軍人の、何ぞ其糧器の運搬、露營の健康を、此の沙漠の中央に於て研究せざる、沙漠を馳せる駱峰の積量、峻坂を亘る毛牛の速力、羊群の夫れ自身の食糧隊等は最も軍人の研究を要し、又如何にヂンギスカン及其子孫の、此の荒漠の地に其の作戰をなせしか、如何にカザックの其發縱進退の自在なるかは、膨脹的日本軍人の一日も忽諸に付す可からざる研究問題たり、而も猶日本軍人の足跡の杳として此地方に響かさるは何ぞや。

▲外交上▲　英政府の天然の峭壁ヒマラヤの下、徐ろに民治を謀り、スタタスクヲー主義を保全する間、露政府の中央亞細亞の商權を握るの外、現今突飛の野心なき間は、猶西域の太平を謳ふ可きも、彼の變幻測り難き阿富汗問題の一度英露樽俎の問題に上らむか、中央亞細亞の天地は忽ち腥雲暗憺たるものあらんとす、蓋中央亞細亞に於ける英露勢力の消長は實にパシフイックに於ける歐洲各强攻畧の晴雨計なり、且一千七百三十四年露國のイルトイス河を以て南下の彊域を定めし以來、一千八百九十五年のパミール問題に至る迄、幾數回南下の形迹は日本政治家のパーシアン灣問題と共に、決して對岸の火災視す可きことに非ず、是大陸の地を踏まずして比々野原頭世界の大勢を揣摩せむとする政治家、何が故に其觀光をパミールの高原には試みざる。

起て日本の學者、奮へ日本の志士、燉煌の水、祈連の山、喜んで汝を迎へむ、孤鞍征衣勇しく、洪嶽大江を望み流連轡を緩て、宇宙の大觀に接せし時、自己專攻の學科の外に獲る、神氣上の悟觀は蓋豫想の外に出づるものあらん。

（未完）

成功實例 一私人

(七) 發明家御法川直三郎氏

北條環翠

（一）

日本人は萬事が模倣的で獨創の才が無いといふ事は專

ろ日本人其自身がそう思つて居るので、日本には人力車以上の發明は無いものと自ら輕しめて居る。たまたま日本人が外國へ行つて思ひも寄らぬ人の名を聞かれて知らない事がある。歸つて匆々に其人を尋ねて見ると、學理の發見で歐米人の耳を聳動した人であるといふ事で燈臺下暗きを今更の如く嘆ずるのである。然し罪を燈臺に歸するのは其の人の眼光の鈍きを證するのて、たまく世界の耳目に觸るゝ程の發明をしても日本人は之れを觀取する明がないのかも知れない。獨り萬里の波濤を距てゝ遠く知己を得ざれば隣人に之を示しても之れを解し之を賞するものがないのである。驚く勿れ、ゲイシャといふ日本語が世界語となり、チョンキナ節がヒマラヤ山中の白人村で歌はれても、獨逸皇帝から消息を問はれても前の總理大臣マーキース伊藤が其名さへ知らなかつた大音樂家が日本に在つても、地震國が地震學の淵叢になつても、光琳模樣がアールヌーボー式に戻つて來ても、未以て珍とするに足らない。東京市小石川區戸崎町御法川製絲機械工場の製作を北亞米利加合衆國へ輸出することになつた。エヂソンの居る國へマルコニーの居る國へX光線の國へ、日本製の機械を供給するといへば、恐らくは三億楊枝を專賣特許だといつて珍重がる人の耳には少しく話しが大き過ぎるかも知れない。

（二）

最近の統計によると我國の輸出總高二億七千四百八十餘萬圓の內で

生絲	七千九百餘万圓
絹布	三千餘万圓
綿布	二千五百餘万圓
地蓆麥稈眞田類	八百四十四餘万圓
茶	八百餘万圓
摺附木	七百四十餘万圓

とある。日本の輸出品で其金高の四分の一以上は生絲である。而して今や米國に於ては從來伊のピモン、佛のセヴェンヌなどの產絲を優等品として居たのが、近來は日本關西產の絲を優等品として市場では日本生絲が一番高い。世界市價の標準を日本の絲で定める事になつて居る。最早地震學などいふ天災學で誇らなくとも光ある國產が日本人の指頭から輝くやうになつたのである。嗚呼日本は醜美兩極端の國產を世界に供給して居る、曰はく生絲、曰はく醜業婦、之れをベストと棉花を世界に輸出する印度よりも猶世界に示すもの丶而

婦が距つて居るのである。吾人はかの醜業婦を惡むと共に此製絲業者を尊ばねばならない。

（三）

之れを製絲業者に聞く、蠶繭の質如何に良好なるも、之れを貯藏せんが爲め其蛹を熱殺する時に絲の光澤を失ふ、此れて世界の生絲市場に出て、いつも土俵を踏みはづすので、それと類節のある事とは日本生絲の殆ど先天的缺點であつたのだといふ。又た當業者が純益を見る時には多少絲相場の變動があるにしても、賣高から繭買入高を引き工女の賃給を去つて、機械の齒車から利潤を得るのである、だから精巧なる機械は當業者の利益を大にする唯一の原動力である。日本は昔しから生絲を産して二千餘年間猶多くの年月を經ても焜爐に鍋を掛けて繭を煮て指で絲を引き出して居た、そは僅かに一世紀の三分の一乃至五分の一程以前の昨日てあつた、然るに今や日本生絲は世界の模範となり、約八千萬圓の富を外國から吸入する樣になつたのは製絲機械の進歩に其功を歸するの外は其道を知らないのである。

（四）

吾人は一足飛びに製絲器械の發明者御法川直三郎氏の成功を紹介する、目下最も完全に達した機械は多管式自働乾燥器械、繭を蒸汽熱によつて乾燥するので、函の中に鐵管が簾の樣に横に列んでZ字形の棚をなして居る、管内に蒸汽が通ずると共に齒車の作用で繭を入れた平たい蒸籠が下から上へ、人馬が坂路を上る如く獨りZ字形の棚を攀ぢ昇りて最後に函の外へ出る樣になつて居るのである。蒸汽管の上を匍つ歩いて出て來た蒸籠の繭は充分に且程良く乾燥の目的を遂げて絲の色澤益々加はつて居る、それで冷熱乾濕の氣候の順逆に影響損害を受けずして、何時迄も製絲器械の鍋の中に行く時を待つ。之を見るものは必ず日本人は發明の才なしと自ら思ひ棄てゝ居た者も必ず自信の薄さを恥づるに相違ない。

次に最も驚くべきは直繰式八口繰製絲器械、以上其外の器械と共に今回の博覽會に出品してあつたが、就中これは宮内省の御用を蒙つて、殊に宮中で御飼育になつた繭が試驗用になつて居た事は見たものが多い。一人の工女が八筋の絲を立てゝ然も左程手を要しないのてある。之れに接緒器といふものがあつて、今迄工女が多年の苦心と熟練で指先で緒を添へ絲を加へたのが、器械力による事になつて居て、却て類節がないと

いふてゐる、之を要するに前者は乾燥を営業者の理想通りに成功し、後者は製絲を希望のまゝに完成し且時間の經濟上の利益を膨大ならしめたるものである。

（五）

今や吾人は這般の成功の經路を尋ねて其半面に於ける氏の苦心を聞かんと欲するものである。唯見てさへ胸のすく様な多管式自動乾燥器は明治十四年其郷里の養蠶業組合、川尻組から伊太利へ繭の見本を送るのに、種々工夫の末、ブリキの茶筒の中に繭を入れて之を熱湯に投じて乾燥したのが恰もワットが鐵瓶の蓋の動くのを押へて居た時と同類項で唯Xの指數に大小の差があつただけで、それでも出來二十年を經過して居る。叉製絲器械と第四回博覧會に出品した時には進歩二等賞は貰つたけれども開會中幾分の工女を雇つて實地試驗を衆庶に見せたりする費用が多くいるので自分は或る餅屋の二階を借りて自炊して居たのである。

それでも器械の前に立つ人が多くて柵の青竹が折れたといふ程である、而して其初め、發明者とならうと思つたのは、氏が西ヶ原蠶業講習所を卒業して田舎へ教師に行かうとした時に、宿の主人が車夫で「車夫でせへ月に三十圓ぐらゐは取りますよ、旦那が三十や四十の金で田舎へ行つて月給取りになるッて、」と云つたので志を立てたのである、

（未完）

北米殖民だより（二）

太平洋岸の新漁場

田　夫

かつてはワイルド、ウエストと稱して敢へて歐人の注意をひかれざりし加州の地、今は米洲天然の樂土として知られ、殆んど合衆國全領土の中心と迄てに呼ばれ居り候、さるなかに在りて尙ほ未だ多く白人間に顧みられざる事業にして、而かも能く我國民獨占の見込あるものは、唯それ一の水產事業かと覺へ候。

射利に巧みに資本に饒かなる白人ありとは云へ、彼等は魚類を以て常食とせざるが故に、從つて漁業上の經驗に乏しきと共に、亦巨額の資金を投じて從事せん程の希望も有せず候、尤も伊太利西班牙の漁業者ありて、早く既に斯業に從事致し居り候得共、概ね小仕掛けにして寧ろ其日の糊口を凌ぐを以て滿足するものに候、されば豐漁帶豐藻帶に屬する加州沿岸、殊に太平洋面一千二百哩のロアーカリホルニヤの沿岸は、徒らに

天然の富を恣にするのみにして、而かもこれが利用の途を有せず、宛然何所にか經驗多き敏捷勇悍なる海國民の新手腕を待つかの如くに候。

別して南加州ローサンゼルス市の近海の如きは、誠に好當の新漁場と云つ可く、殊に彼のサンペトロの築港(羅市を距二十哩)竣功の後に於ては東洋諸港より直ちに桑港に着する船舶は、概ね該港を中心として寄港す可ければ、海陸共に通運の好便宜を得て其の産物の販路は東部亞米利加より歐州濠洲乃至亞細亞大陸にも擴張し得可く、やがては此所に一大富源の開始を見る可く候、加之斯かる事業の發達は亦實に新日本創設の根據を象づくるものに候らはずや。

但しこれより先き我國人にして此所に注目し斯業を企圖したるもの少なからず。現にサンタクルーツ、サンタバヽラ、サンペトロ港の如きに於ては、熱心なる二三の就業者有之候も、何れも微々たるものにて、未だこれぞと云ふ程のものも無之、中には既に破綻の不幸に接したる商會も有之候、今其然る所以のものを聞くに

一、資本の缺乏せる事

一、多少にても經驗ある勞働者の得難き事、

一、勞働者雇主間の衝突絶間なく瑣細なる蹉跌にも最早之を持續するの結合力なき事、

凡そ此等は其の主因に候。

不景氣呼はりの聲のみ高き此頃の日本に於て、こゝ一番我資本家及び漁業者の勇進奮起、以て世界大水産國の面目を施す可き秋に候らはずや、如此にして次第に大海國と大陸國との勢力競爭時代は到來可致候。

米の人種を驩迎す

テキサス州の米作に關しヒューストン新聞の説く所頗る我國民の留意を要す可きもの有之候。

その要に曰はく

テキサス州開發の爲めには他の總ての問題を犠牲に供するも、尙ほ米の人種たる日本人を歡迎し、其の經驗ある敎示に依らざる可からず。

若し日本人にして家族と共に來往し、專ら米作に從事せば、夫婦にて能く百六十エーカー(一エーカー四段)を耕作し得可し、即ち米百エーカー、牧場二十エーカー、野菜四十エーカーの割合なり。

以上の設備として要す可きは馬五頭、牛四匹、豚十匹、雞三十羽、以つて能く一家をなすに足れり。

氣候概して溫和にして、盛夏九十八度、極寒五十度、面積優に二倍の日本を容るゝに足り、而かも人烟未だ稀疎、所詮外來者の開拓を待たざる可からず。と、加之ルイジアナ州に於ても亦良好なる稻田を有し、家畜一揃ひ、器械一臺を有せば、一人にして能く八十エーカーを耕作し得可く、而してまた盛に日本人の來住を迎へんとすと傳へ候。日本を狹ましとする程の我國民にして、若し世界に於て第二の瑞穂國を起さんとせば須らく此の好機會と好禾田とを棄つ可からざる事に候。

アルメンニヤンとジヤツプ

逆待は獨立を生すと、由來土國の苛政と宗教上の抑壓とに堪へず、遙かに米州自由の沃野を尋ねて來住せるアルメニヤン(概ね基督教徒)の勢力も、近來頗る見る可きもの有之候。
度外なる迄に勤儉、寧ろ貪欲に過ぐるは彼等が第一の缺點たる可きも、其の蓄財を旨とし、農園を有し、組合を組織し、兎も角も確乎たる團體を結ひ、移住の根底をつくり、農業者間一方の勢力を成せるは、天晴我移民の摸範とす可き事に候、現に布市に於ては乾葡萄一割五分以上は彼等の手に成るものに候。
仕事に敏なる可なり、貨財に廉なる可なり、多辨亦可なり、如の此にして未だ大國民の資格を失はず、但だ其の成功を急ぎ、歸國を急ぎ、樂隱居を急ぐ、さながら拙劣なる活動寫眞を見るが如き周章しき働き振りは、竟に我殖民成功の所以に無之候。若夫れ如此くにして進まんには名譽ある太平洋の大日本國民も、惜むらくはスケベー、ジヤツプに甘じて永く小アルメニヤ國人の下風に立たざる可からず候。
太平洋を領海とせん程の日本國民は、須らく舊日本を忘る可し、墳墓の地を忘る可し、而かも一日新市場新日本の創設を忘る可からず、是れ寧ろ日東海國民の本領に候らはずや。

活趣ある田園生活

今更ら文士の田園生活都門生活を論せず候得共、若し單に四邊の閑雅と空氣の清鮮とよりして身を田園に寄せんとするもの、乃至之を主張するの士あらば、更らに一歩を進めて新日本の田園生活を試むるこそひとしほ趣味多き事と存候。
米洲に、濠洲に、支那に、西比利に、皆なこれ我國民

の好移住地にして亦文士の新詩題を探る可きの地、若夫れ都門の雜鬧と腐敗分子とを避けて、暫らく此等の地を選び、時に耒を携へて同胞と共に氣清き廣野に耕し、時に筆を執つて徐ろに湧き來る感興を寫し、近くは新故郷の快樂を歌うて、移住者が日々の勞を慰むるの料に供し、遠く書を走せては故國の同胞に對つて殖民の急務を訴へ、世界は尙ほ我等が興味多き新故郷に富めるを了らしめんか、亦是れ一種の活趣ある田園生活に候らはずや、而して斯の人今尙ほ洵に稀れなるは如何、婉麗なる故國の山川の竟に文士をして去るに忍ばざらしむるに因るか、豪壯なる大陸の風光の餘りに偉大に過ぐるに因るか、抑も亦現時の社會が未だ文士をして此に至らしむるほどの刺激力を有せざるに因るか、さりとては亦心細からずや。

寂寥たる我現時の文壇に於ては、リチャート、ヘクレートが新地發見の文學に於けるが如く、本邦に於ても亦漸く殖民文學の興起こそ、國民元氣の皷吹劑として最も望ましき事と存候。頓首、

西藏觀察談（一）

（西藏の商業及社會狀態）

河口慧海

左は前月二十六日中央商業學校に於ける講演を速記同志社員の筆記したるものなり、所々の見出しは讀者に便ならしめんが爲め、記者の附したるものなり。

滿堂の諸君、今日は炎暑の甚だしきに拘はらず斯く御光來下さいまして、私の西藏に關する報告に就て御耳を汚がすことを得るのは、大に私の感謝し且喜ぶ所でございます、就て今日は西藏の商業及び社會狀態の一般と云ふ樣な題目の下で、何か一場の御話をしろと云ふことでございますから、まあさう云ふことで御話をするのでございますが、どうも問題が大きくございますので何分一場の演說で說き盡すことが出來ませぬ、兎に角さう云ふ題目の下で實地見ましたことを順序もなくかい摘んで御話をすることにいたします。

私は元と僧侶でございまして、商業とか或は社會の狀態とか云ふやうなことを研究するやうなことは專門でございませぬから、どうも十分研究して置きませぬし、

又調査しても居らない、且さう云ふとを調査する眼を持ッて居らないと云ふても宜ろしいのでございますから、それで唯私が素人眼に顯はれたことを御話するのでありまして、どうも十分諸君の滿足を買ふ程の御話が出來るか出來ないか分りませぬ。

西藏内地の地勢

それで西藏の商業と云ふことを御話し致します前、先づ西藏と云ふものはどう云ふところであるかと云ふことを一言申上げて置く必要がある、それで地理學上で申しますれば印度の地、さうして崑崙山の南即ちヒマラヤ山の北の間にある高原地である、斯う云ふことは誰れも能く分ッて居りますけれども、今日其の内部に至ッてどう云ふ工合になッて居るか、私が行かぬ前の想像ではアスコハ高原地と云ふから、高い原になッて居るだらう、あの高い原の上は平ッたな、平面な土地が大變澤山あるかのやうに思ッて居りました、アッチに行くまでは何時もさう云ふ考へを持ッて居りましたが、實際西藏の中に這入ッて見ますれば、さう云ふことでなくて、何處に行ッても山許り、先づ平原の土地が五里四方もあると云ふ所は西藏では無いと云ふて宜しい位でございます、長さは七八里もあると、横巾は二里か三里しかないと云ふやうな工合になッて居ります、大變廣い平面の所であると云ふやうに誇ッて居るのも長さが七八里に南北が極く廣い所で三里、狹まッた所に往きますると一里或は半里位になッて居る谷間の平地でございます、夫でさう云ふ譯でありますから西藏の國は何處に行ッても山の間から太陽が出ましてさうして山の間に太陽が入ると云ふやうな譯で、何處へ往ッても山である、其山は東南の地方に行けばやゝ雪が少いが、西北及中央の西藏の地方は大抵四時共に雪を戴いて居る、東南のタッポ、テンポ、と云ふやうな所に往くと或はカンババーリターと云ふ邊に往くと雪の山はありませぬがもッと南に往きましてヒマラヤ山の地方に往きますれば四時雪を戴いて居る、則ち西藏の所謂内地で東南地方のみは雪を戴いて居る地方は少ないが、西北地方及西の方面に往けば何時でも雪を戴いて居る、其の山は先づ巖の崖山、禿山、石殼の山で、一口に言へば嶢崅峻嶮なる山である、又何處に往ッても山の樹を見ると云ふことは稀でございます、最も首府ラサ附近に往けば山と山の隈になつて居る所とか或は水の流れて居る所には柳、楡などが茂つて居る

所がございますけれどもそれは極く稀でございます、最もラサ府より二日三日掛ッて南方或は東南の方に往きまして、サモラフ、タクボ地方に往きますれば山に樹が澤山あります、西北面に往きまするると夏でも雪が降ッて居りますので、草などの青々したのは見ることがありませぬ、少こし灰色になッて居る草計りである。

鳥肉を喰ふことを知らず

西藏の西北原では夏は鶴が澤山棲んで居る、其邊にアチコチ能く山に歩いて居ると鶴が居ります、所が冬になりまするると此邊は一面の雪で鶴が棲むことが出來ませぬから、中央西藏のラサ地方に參ります、それですから冬にはラサに鶴が澤山居ります、ラサ府は鶴の名所とでも言ひませうか、隨分澤山の鶴でございます、百羽二百羽の鶴が空に翔けて居る、此鶴を西藏では決して殺ろしませぬ、且西藏では鳥の肉を食ふと云ふことを知りませぬ、近頃鷄の肉も支那人が食ふから交際をすると云ふやうな人などが少し眞似をして食ふ位ゐで、中々一般の人が食ふと云ふ譯でありませぬ、それでございまするから、西藏は鶴其他の鳥類が棲息するに世界第一安全の土地でございます、彼等はそれを知ッて居りますから澤山に恰も鶴の公園地のやうに遊び戯れて居る。

ヒマラヤの腰掛けの國

西藏の外邊はどうであるかと云へば北の方は崑崙山を以つて限ッて向ふの語でカンリー、ジョン、ユリと云ふ、カンリーと云ふのは雪の山と云ふことで、ジョンと云ふのは座して居ると云ふ意味でございます、又或意味に於て畑の畝のやうになッて居るのをヂョンとも言ひますが、此處では座禪をして居ると云ふのが適當で「雪の山が座禪して居る國」と云ふのである、色々の雪の大きな山がある、カンリー、ジョン、ユリ則ち西藏を雪の座禪をして居る國と云ふ、又「雪の山が腰掛をして居る國」とも云ふてカンリー、トルキ、ユリと云ふ、トルキと云ふのは椅子の大きなやうなものでございまして、丁度ヒマラヤ山が腰掛をして居る、さうして印度の方に足を伸して居る、則ち西藏の高原地に腰を掛けて居るのである、ネパールの方からヒマラヤ山を見ますれば下から黒い林のやうに見へますが、其幾部分は滿緑になッて居る、さうして其上に白い光

が輝いて居ると云ふ此三段に分れて居る、又ヒマラヤ山の後側から見ますれば其山は直き地平線から雪が戴いて居る、それは西北原の方から見たので中央に往きますれば幾部分か違ッて下は幾部分か雪が取れて居ります、それは中央の土地が低いからであります、西北原が土地が高いから西藏の方からヒマラヤ山の背後を見れば恰も銀山でございます、則ち雪の山を立てたやうに見へます、西藏でカンリー、トルキ、ユリと云ふのは即ちヒマラヤ山の腰掛の國だと云ふことで誠に地形上適當して名である、一方から言へば西藏人に似合はぬ風流な名を付けたものでございます、併しさう云ふ難義な土地で一方から言へば綺麗なやうでもございますが西から往きますれば大高原地に雪の山を越えねばならず、北に往きますれば崑崙山なり天山なりの山脉を越へなければなりませぬ、南はヒマラヤ山を越へなければならず、東は雲南の方其他連山重疊を越へなければなりませぬ、四邊世界の最高山で圍まれて居りますので實に往來の困難は非常である、則ち容易に往來の出來ない山で圍まれていますから、西藏は鎖國せずとも其國自身が鎖國的に出來て居ります、四面に天然の城を持ッて居ります、城壁を持ッて居ります、さう云ふ風に要害が堅固に出來て居りますから自然に鎖國的に出來て居ります。

商業困難の理由

斯う云ふ困難な國で商賣をするのはどうかと云へば、其困難さ加減は迚も諸君の想像に及ばぬ困難である、印度地方或は歐羅巴各國或は日本等此地方に行はれて居る所の商賣の有樣から考へて見たならば、殆んど想像の出來ない困難である、歸朝後或商賣人が私を尋ねまして、西藏に何か輸入して大變金の儲かる代物がないかと云ふことを尋ねましたから、私はそれは先づ第一に輸入する身躰から養ッて掛らなければなるまい、無暗に輸入することを考へた所が或は代物を强盜の爲めに取られるとか、或は暴雪暴風等の爲めに人が凍へて死ぬるとか、或は道路の困難の爲めに雪の波に吹き飛ばされて死ぬとか云ふやうなことに遭遇するから、先づ第一に死ぬことのないやうに身躰を鍛練して往かぬと駄目である、其上外國人を一切入れぬ國であると答へました、西藏の商賣人はさう云ふ往來困難の中に鍛たうて居る者であるが、それですら商業に出てヽ暴雪暴風の爲めに殺されることがあッたり、或は强盜の爲

めに殺ろされたりすることが多い、殊にそれ等の難義に打勝つことが出來ても西藏では物品を運搬する所の唯一の利器はどう云ふ物かと云へば、動物であります、毛牛とか騾馬とか驢馬とか或地方は馬も使ッて居ります、或は羊も使ッて居ります、けれども大きな商賣人は大抵騾馬を餘計に使ひます、普通の商賣人は毛牛を多く使ッて居ります、さう云ふ物を使ふのにどう云ふ風にして使ッて往くか其の事を覺へなければなりませぬ。

隊商出發の模樣

西藏では僧侶も商賣に出掛ける、行商人のやうな者の小隊が五十人六十人と云ふやうに揃ッて出掛けます、其商賣に出掛るには皆天幕生活で第一何を稽古するかと云へば先づ荷物を拵へることを稽古しなければなりませぬ、西藏では大抵革の荷物ですから、革屋の職工が革を縫ふことを稽古するやうに革を縫付けて荷物を拵へることを稽古しなければならぬ、毛牛に結ひ付けて落ちないやうに成るべく早く結ひ付けるやうにしなければならぬ、それはどうして結ひ付けるかと云へば手早く結ひ付けて落ちないやうに結はなければならぬが、大抵朝は御飯を拵へる者は三時頃に起きなければならぬ、他の者は四時或は四時半頃には起きて、それから昨夜野邊に放ッた所の騾馬を捕へに往きます、内に居る者が食物を拵へることに從事しなければならぬ、騾馬を捕へて來て括り付ける方にしても騾馬は野邊に放ッて居りますから、殊に依ると二里も向まで往かなければならぬことがある、都合能く其邊に騾馬が草を食ッて居りますれば半里か一里往かぬでも捕へることが出來ますけれども、若し三里も四里も先きに居るものを捕へて來て結ひ付けるには中々難義であります、それで騾馬は主人の來るのを見ると喜んで歸ッて來ます、尤も歸ッて來ますれば必ず一ツの獲物かございますので、それは西藏で出來て居るマーネを食はせる、麥コガシと湯と混じたもので、斯う云ふやうな塊りを拵へて握り拳二ツ位に固めた物を三ツ位づゝ騾馬一匹にやります、さうして騾馬を結ひ付けてそれからお膳を食べますから中々時間が掛ります、それから其御膳を食べて仕舞ッたら其いろ／＼の道具を一人で騾馬六匹位（或は五匹づゝのものもあるが）それに荷物を括り付けるのは自分の受持で、それを皆始末しなければならぬ、さう云ふ風にしましてチャンと事が濟ん

で出立しますのはどうしても朝の六時頃になります、自分の今迄這入ッて居ッた所の天幕から柱等まで皆崩して仕舞ッてそれを結び付けるのであるから中々の手數であります。

さうして出掛ける、それから大抵御膳も食べずに午後の二時か三時頃まで歩るく、或時は正午十二時頃までは良い草のある所があれば其邊に宿ることもございますけれども、どうかすると午後四時か五時頃まで行くこともございます、けれども大抵は二時頃に宿まるやうになッて居ります、それから又テントの家を拵へなければなりませぬ、直ぐに天幕を張つて、それでまあ荷物を下ろす、荷物を下ろして馬を野邊に放つ、草のある所に放ちます、放つと同時に大きな袋を提げて往ッて其邊の毛牛の糞なり馬の糞を拾ひ集めて來る、それを拾ひ集めてどうするかと云へば、內輪に殘ッて居る人が天幕を拵へて居るから其糞を持ッて往ッてそれを燃料にする、さうしてお粥のやうな物を煮ます、則ち麥コガシの粉に小麥を入れたお粥であります、そして其中には肉が這入ッて居ります、其他には何もありませぬので肉と麥コガシの汁を吸ふやうなものでございます。

（以下次號）

思潮

經濟的勢力の發展と國民教育

「東京市教育會演說の一節」子爵　渡邊國武氏

私の所見に依りまするると、國民教育といふことは、教育の爲めに教育するにあらずして、或る國民的必要の目的の爲めに教育せねばならぬといふ考へであります、で、必要は何であるか、此國民的教育の目的方針は何であるかといふことが第一の問題であります私の觀る所に依りますると、世界各國が交通自在で、殆んど地球の平面を合せて、一の條約的聯邦といふ有樣の如くなつて居る此時に當ては、兎も角も此教育の方針は世界の大勢に適合しなければならぬ、現に、經濟、內治の法律、皆一つも單獨孤立の見込を以て創定したるものがない、亦矢張此世界の大勢に適合しなければならぬ、教育のことは申す迄もない、然るに今日、日本の教育は、どうであるかといふと、私は殆んど世界の大勢とは全く背馳して居る方面に進んで居ると考へるのであります、それは、どういふ譯であるかといふと、私は一昨年から、昨年の秋迄、世界漫遊の途に向て居りました、其出發する前に於て懷いて居つた問題が多いのであります

が世界各國は今日何を爲しつゝあるか、といふ最も廣き問題であつて、爲し販つた答案は、世界各國は、國民的生存競爭を爲しつゝある所の時代である「インタルナショナル、ストラッグル」即國際間の競爭を爲しつゝあるといふ、斯ういふことであります、實に、十七世紀十八世紀は、宗教の動亂世界で、十九世紀に於ては、一面には、自由、愛國、權利、義務等を主張し、一面に於ては、民族統合的過度時である、二十世紀は、汽船、汽車、電線、電話、といふものを發明の結果としまして、世界の各國は相通じて居つて、交通といふものが甚だ頻繁になつて來た、然るに二十世紀の世界の大勢といふものは、國民の生存競爭、國際間の競爭の時代である、此の國際競爭といふと或る人は軍備外交といふことを謂ひましたが、之は其表面を見て、其裏面を見ず、其方法を見て其目的を見ぬことで、成程、軍備外交といふものは、今日の國家生存の上に於て、必要で重きを附すものでありますが、海陸軍備は、國際競爭の間に於て、或る事を保護する所の機關であります、外交は國際競爭間に在ることを疏通する所の機關でありますから、別に自ら保護せられ、疏通せらるべきものか無くてはらぬ其保護せられ、疏通せらるべきものは何であるかと申しますると、所謂「經濟的勢力の發展」といふことである。

歐州の風俗壞亂は一局部のみ

「教育公報」　普通學務局長　澤柳　政太郎氏

彼の國へ往つた人の報告には、彼の文明と云ふものは皮相である、彼の風俗と云ふものは壞亂を極めて居ると云ふ事を聞いて居ります、私もさう云ふ樣な洋行歸りの話を聞く事は屢々でありまして、其話に由て考へて見まするとT度羅馬の盛なものが、其末に至つては道德が衰へ、風俗が壞亂をして滅亡をした如くに、西洋と云ふものも今日富强を粧ふて居るけれ共、或は內部が腐つて自然に崩れて行くに相違ないと云ふ感想を抱いた事もありますが、私は慥かにさうでない、彼の道德と云ふものは明かに强固なる基礎を持つて居る、彼れの國民と云ふものは誠にシッカりした健全なる所の性格を備へて居ると云ふ事を感ずるのであります、成程外國人て樣子の分らぬものが最も繁華なる街に往つて見ましては、風俗壞亂と目すべき樣な現象を往々見るのでありますが、それは私が思ふに一部分の事て、是を我身躰に喩えて言つたならは足の先きか或は腕か或は手の掌に一つの腫物が出來て居ると云ふものであつて、彼の全身と云ふものは極めて健全である、只一部分に一種の病的の現象が現れて居るのであつて、其風俗壞亂である道德が腐敗をして居ると云ふ事は、只外部に見ゆる處の所謂外國人にても見ゆる處に只現れて居るのであつて、それが骨を腐らし肉を爛らして居ると云ふ次第ではないのである、僅かに皮膚の一局部に現れて居ると私は考へたのであります、それ故に彼の道德と云ふ者は慥かに吾邦一般の道德に較べて見たならは健全である、堅固である鞏固であると云ふ事を申す事は出來やうと思ふのであります、さうして見ますれは彼の富んで居ると云ふ事も決して偶然てはないと云ふ事を發見するに難くないてあらうと考へるのであります。

二千の教師欠席日數三万日

「體育」　子爵　加納　久宜氏

體育は、靑年者が身體發育の爲めにのみ勤むべきものではない。吾々老生も身體生命の保全の爲めに努めざる可らさると、猶ほ人生生れてより

死するまで、食物の必要缺くべからさるが如くてあります。然るに今の若き人達、其弱さ加減は實に驚く程てある。久宜は成る程封建時代に弓馬槍劔て、多少身體を鍛へては居るが、尙聊身躰保全の注意を怠らない。廿年來最初の五ヶ年計りは冷水浴をやつて、後の十五ヶ年は乾燥したる手拭を以て毎朝必身躰を摩擦して居る。たつた是れ計りの所作てあるが、此の歳十二三年間病氣の爲めに惱まされた事がなく、四千有餘日の間、一度も勤務を欠ひたとがないのである。

然るに今日の若手はどうてあるか、たつた一ヶ年而も休暇日を除いたならば僅かに三百日位しなかいのに、夫れに皆勤したからとて、皆勤賞與を貰ふなんて人心の腐敗は扨て置き、肉躰迄もこんなに弱くなつたかと思ふと、眞に心細くなつて來るのである。

嘗て或る地方小學校の教員の病氣引を出勤簿に調べたことがありましたが、六ヶ月間に平均七日半斗りの病氣欠勤と云ふ統計が現はれた。是れを一年に換算すれば、十五日となる今一縣下五百の小學校があつて、一校に四人の先生ありとすれば一年間欠勤の延日數が六十日てあつて、總數貳千の小學校員が欠勤總數は、實に參万日の多きを見る。

而して一學校の生徒平均二百人とすれば、一縣下十万の生徒が一年間に敎育を受けそこなつた時間の數を三万日の三分の一としても、日數にして一万日一日五時間と見て五万時間は丸て空に過ごさせて仕舞ふのてある。學齡四年の在學より割出せば、俗に云ふ人生五十殆と二代の星霜を、僅々二千の教員の病氣引けて殺して仕舞ふと同じとてある。直接國家の元氣の及ぼす兼て國民敎育の分量に及ぼす害は大したものである。

腕力的基督教

「警世」　　松村介石氏

鎌遜もよろしい、忍耐もよろしい、柔和もよろしい、平和もよろしい、皆何れも結構なる德教てある、然し足も働かさずして居れば弱くなる、手も働かさずして居れば弱くなる、かの貴公子とか、紳士とか云はるる人を見よ、少し重きものを持たせば、ウン〳〵云つて弱り、少し高き山に登らせば、フウ〳〵云ふて嘆息を吐いて居る、之れは平生手足を働かさぬ結果てある、今や基督教の教へ方を見るに、喧嘩をしてはならぬ、人を撲いてはならぬ、怒つてはならぬ、右の頰を擊てば左の頰を向けよと敎へて居る、夫れは尤もな事てある、然し何時も君子の樣に、貴公子の樣になれよと云ふのてあるから、其の理想は非常に高くなつて居るが、其教を受けた者が、眞逆の時實際に當つて弱いには愛想が盡きる、彼等は何に行る時には行る、基督の十字架を目當に置くものぢや、サアーと云ふ時には勇氣を出すと意張つて居る、又た眞に左樣信じて居る、然し其のサアーと云ふ時は如何なる時を云ふにや、迫害されたる時を云ふのか、亂暴な目に會ふた時を云ふのか、一躰如何なる時を指すのぢや、喧嘩をするな人を撲つな、右の頰を擊たば左の頰を向けよと、極めて居れば、何時サアと云ふ時が來るのぢや、小便かけられても、蹴られても、馬鹿にされても、夫れてハイ〳〵ヘイ〳〵と云つて居るとすれば、何時男氣を出す機のあるのぢや、已に男氣を出す機の無いとすれば、其の男氣なるものは、一朦あると思つて居ても、其實何時か無くなつて仕舞て居る、即ち手足を働らかさずに置けば、其者は弱くなつて居るに極て居る。

そこて余輩が今や題して『腕力的基督教』と云ふ、此方より喧嘩をしてはならぬ、腕力を振舞ふてはならぬ、然し時と場合には、直ちに身を挺

して起たればならぬ、而して一度身を挺して起つた以上は、敗けてはならぬ、否、たとへ腕力に敗けるとがあつても、精神に敗けてはならぬ、即ち死ぬるまで戰はればならぬ、夫れが所謂る眞逆の時に出す基督敎信者の勇氣である、而して若しも之れが出來ずとあらは、空理的の信者て、平生如何に高く樓つて居るとも、左樣云ふ時には必ず醜態を顯はすと極つて居る。

オイ兄弟分

「獨立評論」　山路愛山氏

オイ兄弟分、しつかりしないじやいけないぜ。浮かりすると日本人は世界の人の眼前で大耻をかくやうになるぜ。露西亞と云ふ國は忘れもしれへ東洋の平和に害があるの何のといつて日本から遼東半島を取りかへした發頭人だぞ。そいつが何だ。今ではぬく〳〵と滿洲を自分の物にしやうといふ仕儀だ。日本は東洋の强國だの何んだのと威張つて居ても、そんな不理窟を其儘で通しちやア、太閤樣や權現樣の御廟へ對しても、濟むまいぜ。

日本人は腰抜ヂヤアないよ。戰爭か恐ろしいものは一個も無いよ。兄弟分が耻をかいても直ぐに飛びだして行つて白黑をつけるのが、日本人の氣象じやあるまいか。支那人は弱いから戰爭をするが露西亞は强いから指を啣へて引こんで居るやうぢやあ。とても海の外へ出て立派な芝居を打つ譯にや行かないよ。よしんば負けたとした所がさ。花は香で持ち、男兒は氣で持つんじやあるまいか。露西亞なんぞを提がるやうな仕儀じや、とても日本人の卯辰はあがりアしないぜ。

日本の人間は五千萬人ほどだ。此澤山の人間が堂して狹い日本の島に計りこびりいつて居られやう。何處でも搆はない。天とうさまの照る所と食ふ物のある處は日本人の出掛けて稼ぐ所だと極めなければならないのだ。朝鮮も日本人の稼ぐ場所に相違ない。布哇も日本人の稼ぐ場所に相違ないのだ。滿洲は朝鮮の隣國だ。そうして日本人の出稼には至極都合の善い處だ。今でこそ日本人の數も少ないが、いづれ其内には日本人の村でも建てなければならないのだ。所が其滿洲を露西亞さまに取られてしまつて堂すのだ。

接客の方法に就て

「六合雜誌」　佐治實然氏

玄關の取次は自身で爲すとが第一善いと思へども、左樣に爲し難き場合も多いとゆゑ、然るときは世事に通曉した親切なるものをして此役を勤めさせ、應對には對等の言語を用ゐさせるやうにしたい、往々取次が出てゝ來訪人の何人たるをも顧みず、自分の主人の方を尊稱を用ひて尤も丁寧に來客に語るものがある、例へば殿樣は未だとか、若樣は御不在てとか、此頃は御旅行遊ばしましてとか、之れは誠に不都合な事で、若し來訪人が主人よりも身分の上の時には如何する積りか實に失禮の次第である、偖漸々來客と對談するに方つて客人の話頭が要領を得ない時は靜かに注意を加ふるが善からうと思ふ、時を重んずる現時に在りては決して不當の要求ではない、若し又食時に際して歸り去らぬ時は客をして去らしむるか、或は主人と同樣の食膳を薦むるか其時の場合に從ふべきてある、しかし食膳を供するは成るべく來客の都合をよくし當方の親切をつくすといふ趣意には成べく從ふて爲すべきとて、形式に無理に勸めるのは甚だよろしくない、又來客に對して主人から長談を試むるのは善く

ない、來客は遠慮して主人の談話を聞いて居る間に、こゝろならずも長座して食時になり家人に迷惑をかくることがまゝある、取り急ぐ用事あつて如何にしても面會の時間なきときは、主人自ら玄關に出て來客に對して辭證を正しく懇懃に面會謝絶を申し出つるは、誠に止むを得ない處置で、又友人の訪問に對しても此事は同樣に爲して差支ないだらう、是れは御互に恕すべき所である。

非凡の事は成功の摸範とべからず

「實業の日本」　澁澤榮一氏

成功の第一要件としては智識なかるべからず、是れ各人の天賦に出つるものにして秘訣とするに足らずと雖も、愚鈍にして成功を期するは木に縁て魚を求むるよりも難ければなり、次には事業を選むに於て愁に注意せざるべからず、事業其者に成功するものあり、成功せざるものあり、自己の才能に適せるものあり、適せざるものあり、事業其ものゝ成功し能はざるもの及自己の才能に適せざるものは遂に成功する能はず、故に事業を選擇するは成功の要素といふべし、而して之を計畫するに適度なるを要す例へば百萬圓の資本を要する事業を僅に五萬圓を以て經營するときは逐次增殖し擴張すると云ふと雖も、而も計畫適度を來し爲めに好果を發する能はざるなり、既に事業に着手しては之に從事するに熱心誠實に且つ巧妙ならざるべからず、又一旦困難に遭遇するも耐忍恒久の力なかるべからず。斯く云はゞ餘りに枚切形に失するが如しと雖も、詮する所成功の必要件として之を除きて他に求むべからず但し世上此原則に外れて而して成功するものあり、總ての成功者は總て此原則に適當するものなりと云ふ能はず、俗に所謂運のよいもの、處世の術に巧なるもの等之なり、此等は學理上より推論する能はざるものにして、其間に說くべからざる道理、筆にする能はざる妙處あり、例へば甲乙兩商人同一物品を販賣し而して甲は同價格にて良品を賣れるに顧客は之に赴かずして、却て比較的劣等品を賣れる乙店に赴くことあり、其間特定の理由あるにあらず、而して却て彼此の差を生ずるものなり。

然れども非凡の事は以て摸範とすべきにあらず、家康秀吉は不世出の英雄なり、世人をして總て彼を目標として摸倣せしめんとすれば効なくして害大なり、ナポレオンの三軍を叱咤するは極めて巧妙なりしと雖も、總ての軍人をして彼を目標として兵を率ひしむれば其害や怖るべきものあり、故に人の目標とすべきものは一に之を平均に取らざるべからず、成功を欲して非凡又は僥倖を期待するは常人輩がナポレオン秀吉を摸せんとするが如し、其害の甚しきに至ては世を紊し人を害するに至る。

▲東京市民の死亡

最近の調査にて市內一年間死亡總數二萬八千九百六十四人、內男一万四千九百四十九人、女一万四千零十五人、肺結核四千四百十二人、肺炎千八百九十八人、脚氣千四百五十人等を大多數の病氣とす。

詞藻

西征雜詩（二）

菅桐南

建業書感

建業春殘草木蕃。登臨此地客銷魂。山環水抱規模豁。
虎踞龍蟠王氣存。路入秦燕人馬沒。壘連巘崿虺蛇奔。
乾坤猶鎖千秋恨。落日煙霏澹曠原。

建業風物宛然在目感慨無限

曾文正公祠

深山大澤躍龍蛇。偉人一出瀟水涯。叱咤風雲回頽波。
天日再中四海和。公已逝矣當奈何。永使後人發長嗟。
毅魄英魂歸何處。瀟水涵城夕陽斜。

時艱憶偉人此公一去四百餘州不可後奈何

題兪庚軒臥遊圖

天恩未許促歸舟。一幅新圖好臥遊。夢吸潤光心識淨。
覺來泉響耳根留。斜陽遠樹吳江暮。落月高潮故國秋。
萬里風烟望北闕。孤懷何敢賦鄉愁。

後聯明人氣格

附記庚軒之和詩

南渡瀟湘駐客舟。歐西小住說前遊。鄭僑博物新詞綴。
徐福傳書古本留。脣齒誼親聯縞袂。天人感慨入陽秋。
覺帆他日東歸去。古錦囊携定掃愁。

南遊雜詩（二）

上原清蔭

新義尼亞雜詠

綠樹接空千里齊。海波渺々晚雲迷。一星火點人家近。
獨木舟歸烟渚西。

風景依稀、使讀者臨其地之思、

半輪新月映潮流。獵々清風吹小舸。料識土人夜捕魚。
荻芦州外看灯火。

唯聽處々鳥聲哀。寂寞山河何日開。老木縱横晝猶黑。
毒虫無數襲人來。

能寫實況、不能以辭句稍俗棄之、

舟　中

重疊夏雲聳似巒。風帆不動坐清灘。午眠覺後徒然甚。
閑看小魚飛碧瀾。

耶摩島

風靜波平月正傾。孤舟不寢夜三更。耶摩島影淡如夢。
時聽鵂鶹嘯一聲。

望麻尼剌

數峰峭立白雲間。翁欝樹林擁海灣。絕島風光猶悅目。
半年絕不看青山。

驟　雨

歲晚海南日似年。鐵欄無事廢書眠。陰雲飜墨忽催雨。
無限快風涼滿船。

似讀望湖樓下水拍天句、

所　見

千里同船經幾旬。笑談遊戲日相親。六知四海皆兄弟。
不擇東西南北人。

巽軒博士時作此種、極平凡處却非容易、

入大吳陰港

萬里長征一葉舟。海波無恙入濠州。黃昏暗澹風吹雨。
雲滿平原增客愁。

曠野茫々綠草齊。長空澹々白雲迷。夜來雨霽涼如水。
一陣清風虫亂啼。

船過玄海

久爲孤客在南蠻。今日何期無恙還。碧海茫々三百里。
天邊初認本朝山。

本朝二字、國体論者所喜、

歸　家

花紅柳綠滿眸新。客裡久思故國春。今日歸來門外路。
却疑猶是夢中人。

久客還家、正有此情、而無此文字、

稲妻

漱石選

露醸す稲の穂並や稲光　柳家
稲妻に窓引きたてし女かな　縦横
夜廻りの稲妻浴びて過ぎにけり　フジサワ
稲妻に見えすく裏のさび畑　琵湖舟
楼に見る遠稲妻や簾越し　初聲
稲妻や湛々として湖の水　丁堂
稲妻や蓮の實飛ぶも一刹那　牛歩
稲妻に二百十日も過ぎにけり　芒生
稲妻に女ばかりの宵寝かな　同

人

稲妻や庭に白きは花芙蓉　鳳梧桐

地

稲妻の夜長の里となりにけり　芒生

天

稲妻もうすら夜明の晴れとなり　豊風生

選者吟

稲妻や穂波静かに風もなし
稲妻を睨み顔なり鬼瓦
稲妻に陽明門を顧る
稲妻や瀧に立ちたる不動尊
稲妻や淡路へ通ふ小さき舟

九月分課題　藥堀（八月十八日迄）
十月分課題　茶の花（九月十八日迄）

TO MOUNT FUJI

By Puran

1

How many ages since began thy climb,
When mind first strove to form thee, Mount sublime?
Who could discern thee, snow-clad mountain steep,
In tiny germ when caved in caverns deep?
Thy peerless cone was oncebut nature's dream,
With symmetry and grace she carved her theme;
Once didst thou wave aloft in spheres of thought,
Thy perfect form, as if by artist wrought!
Thus thou, on fancy's unreal ground didst shine.
Thou cleavest now the sky with sweeping line!
There stands it still the ideal, as it rose
In perfect grace! Still artist works thy pose,
Height so puissant, vast, majestic, grand!
To make a constant place for thee to stand,
Nature proposed a universal change:

The welcoming atoms marshall, move, arrange,
As chemist will, to make some compound new,
In squadrons drill his soldier symbols few,
For thee, O Fuji! the beauteous Dame began
In deepest dark preparing her vast plan,
For thousand years shapeless babe she bore,
And grains of pebble one by one would store.
At last the awful time of birth drew near,
Whole worlds were shaken with portentous fear.
Once a child's breath thy form away might blow,
What now stands there, bound by eternal snow.
O Nameless one! When thou didst see the light?
What visions wonderous burst upon thy sight?
Circled with waters blue how wast thou Mazed?
How like a frightened crane thou shookst with haste
As dewdrops, all the waves of limitless seas,
Then settled calmly in imperious ease;
With pride waved high thy head twelve thousand feet
The azure kissing, or the stars to greet;
Threw down a glance where once thou toildst aloft,
And smiled around with many a dimple soft.

II

Soft, slow, steady silent patient work's Sign
Symbol of straight, white, clear, dear, Love divine
O Fuji San! Thou Emblem of eastern grandeur
O Fuji San! Thou spark of eastern splendour!
O Peerless one! Crystal of splendid thought,
A solid dream! wonder by Nature wrought.
O mystic Cone! of mystery the form
The centre of the sunshine, and the storm.
The master piece of Nature's phantasy,
Whom the uprising Sandoth long to see,
And, reverent under clouds, kisses thy feet,
Rising each morn more joyful yet to greet,
Touching thy crown, outspreads in fold on fold
In royal state, his draperies of gold;
Salutes thee as a Princess Eair, and bows,
Casting a wistful look as westward goes!
Each day in amorous haste returns apace
Again to catch the glimpse of thy loved face!
O Fuji San! Pearl of the Orient seas!
Love still is busy in profoundities!
In fleecy clouds Nature awhile keeps thee,
But fickle, frivolous, playful girlish she,
One moment veils in shawls of clouds thy steep,
Next anxious grown, unveils again to peep.

———

O Meditating Peak! How silent in day dream,
In Peace, Rest, Bliss, in Happiness supreme!
O Yogi! thou peerest up to Heaven's gate:
We ask, "Hast solved the problem of man's fate?"

(to be continued)



吾人の成功觀

米峰

故中村正直翁が、『西國立志編』の譯ありしより茲に二十有五年、さても世の進歩變遷は、實に素ばらしいかな。汽車の交通縱横自在となり、自轉車電車、電信電話、たゞ世は何事も早い勝、今の少年は、まづ立志の關門を通らずして、たゞ一足飛びに成功の奥の院に入らむとあせる。

成功、今の世間でちやほや持て囃す謂はゆる成功は、吾人の頗る面白からず思ふところなり。吾人は、實は今の謂はゆる成功を以て、斷じて成功と許したくなし。若し世に成功といふものあらば、吾人はそを、今の謂はゆる成功を、非常に異なれる意味に於てこれを認めむと欲するなり。イヤそんな理窟はまづよいとして、今の滔々たる年少子弟が、たゞもう一圖に成功といふ優勝旗を握らむがため、自分の足場がしッかりして居るか居ないかにも頓着せず、途中にどんな障害物が横はつて居るか居ぬかにも氣がつかず、夢中になつて驅け出すを見ては、頗る危險の感に打たれざるを得ざるなり。

成功、世俗の謂はゆる成功、これとても決して悪いことではなかるべしと雖も、たゞ何の用意もなく、何の修養もなく、盲滅法界無手勝無鐵砲に飛び出して、それで成功の玉を握り得らるべしや如何。事本末あり、物終始あり、着々進んでこそ、遂に目的の彼岸に到達することが得らるゝなれ。今の年少子弟が、これをこれ察せず、いきなり成功に飛びつかんとする輕業的躰たらくを見て、吾人は、廿有餘年の前、盛に立志の鼓吹せられたる時代を懐かしまざる能はず。

されば眞の成功とは何ぞ、成功は成功なり、眞も僞もあるべからずと言ふものあらば、吾人は強ひてそれに反對せざるべしと雖も、吾人の目して成功とするところのものと、世俗の謂はゆる成功とは、少くとも電燈の

光と太陽の光と程の相違はあるべし。今世間で以て、やれ成功の秘訣で候の、成功美談で候の、乃至は成功大觀成功座右銘などゝ唱へて、盛に成功の切り賣り卸賣りに餘念なく、而して自らも亦、その謂はゆる成功の域に進み入らむとする人々の唱ふるところの成功は、吾人の見地より見る時は、實に僞の成功なり、相對的成功なり、電燈的成功なり、行止り的成功なり。これに反して、吾人の唱ふる成功は、眞の成功なり、絕對的成功なり、太陽的成功なり、活動的成功なり。

既に相對的成功なり、その裏面には必ず失敗を豫想せざるべからず。又自己の成功のためには、他をして失敗の淵に沈淪せしめざるべからず。已に電燈的成功なり、一時は兎も角も俗眼を眩ゆからしむることを得べけんも、遂には再び冥闇々の境に陷ることなしとせず。既に行止り的成功なり、一朝得意滿々、左團扇かなんかで、樂隱居をきめ込むに至らむか、吾人の元氣はこゝに消耗し、彼等の氣力はこゝに衰頹し、若し卒然として天災地變臻り、突然として夫妻親子の死別に會せむか、失意落膽、また爲すなきのみじめを現さん。此くの如きを稱して、僞の成功といふ、豈不可ならんや。

既に絕對的なり、豈成功あらんや、豈失敗あらんや。既に成功なく、失敗なし、裏面も表面もあつたものにあらず。人を倒して、お山の大將おれ一人と威張るにも及ばず、我はたゞ日々夜々、我が爲すべきところを爲して、急がず騷がず、倦まず怠らず、進脩不息の間に平穩滿足を得んのみ。若し假に成功と稱すべくんば、是豈實に大々的成功にあらずや。既に太陽的成功なり、夫の發電機の支障によりて闇くなり、電燈會社の破產によりて消えて仕舞ふやうな、そンなくだらぬものにあらず。凡そ宇宙のあらん限り、夜と言はず晝と言はず、光と熱とを放つて、万物の進步發達に貢献して、窮りなきところのものなり、既に活動的成功なり、ビスマークとなッたからそれで滿足だ、カーネギーとなつたからこれで安心だなどゝいふやうな、そンな行止り的のものにはあらずして、一大理想に向つて斷えず轉進し、終世眞ッ黑になッて活動し、努力し、斃れて後と雖も、尙ほ敢て已まず、子々孫々をして、またこの理想に向つて轉進せしめ、社會の進步人類の幸福のため、幾何かの力を致さしめずんば已まざらむとするものなり。眼中豈ビスマークあらむや、カーネギーあらむや。此くの如きを稱して眞の成功といふ、豈不可ならむや。

から言ッて仕舞ッては、成功て飯を食ッて居る連中の、宮殿の修繕にさしつかへるかは知らざれども、吾人は亞米利加仕入の成功が、無暗に巾を利かし、正直な年少子弟をして、徒に一時的成功を夢みしめ、たゞふわくとして尻が据わらず、あれをやりこれをやり、何一ッ手に入ッたものゝ出來ないうちに、月日に關守なくして身は三十面をぶらさげ、アゝ失錯ッたと氣のつく時には、默法螺の外に取り得のないもの、何處へ行ッても相手にして呉れてはなく、あッたら壯健の男一匹、つぶしにして牛肉の代りに賣る譯にもならざるに至るを悲しむなり。

語を寄す、世上青春の人の子よ。成功屋の言ふが如き成功は、誠につまらぬものなること前述の如く。たゞその分に從つて、誠實に勸勉に、努力し活動すること、即ちこれ大なる成功なり。若し今世間で、成功の權化とまで持て囃して居るところの、あのカーネキーから、誠實と勸勉と、努力と活動とを引去つて、而して後に殘るところの何物なるかを檢せよ、吾人は人間なり、未だ嘘をついて人を誑すの術を知らざるなり。

青年は家庭の教師に非ず

（青二才の家庭熱）

由來家庭といふことに、多くの注意を拂はなかつた日本の社會も、この頃は……チト言葉が穩ではないかしらぬが……殆ど家庭熱に浮かされて居るのであるまいかと疑はるゝ程に、家庭といふことを歡迎するに至れり。されはどの方面から見ても、實に慶すべき現象なりと言はざるべからず。さりながら、慶すべからざる方面たゞ一ッあり、曰はく、今の青年が家庭熱にかゝること即ち是れなり。

青年と雖も、現に家庭の御厄介になつて居るもの、また將來自ら家庭の主人公となつて行かなければならないところの、責任義務を有するものなれば、家庭の事に口を出すのを、强ち惡いとは言はざれども、人各々その分あり、老年は老年、成年は成年、青年は青年、幼年は幼年、皆その分に從ッて、略々その活動範圍を異にす。青年は青年にして、幼年にもあらず老年にもあらず、須く青年らしくして、決して老年や幼年の活動範圍の中へ飛込んで、無用にその元氣精力を費すべからず。明確に限界を設くること能はずと雖も、家庭の心配は、まづ成年者の責任にして、幼年者青年者の干與すべきところのものにあらず。

惟ふに青年は、自由の精神、進取の氣象に富み、活潑々地、觸はれば斷れるといふ位の元氣があつて、自己の身心を修養し、他日大に社會の進歩、人類の幸福のために、貢献するところあらざるべからざるところのものなり。實に青年は社會の眞生命にして、一國の眞元氣なり。天の聲は青年の口より發し、宇宙の祕奥は青年の手によりて開かるゝなり。青年の位地や貴く、青年の責任や重しと言ふべし。然れども、青年の時代は突進の時代にして、守成の時代にあらず、家庭のお世話になるべき時代にして、家庭を心配すべき時代にあらず、今の青年三省して可なり。

曾て戀愛論のために浮き身をやつしたる青年は、今や家庭談のために夢中にならむとす。ア、青年も又厄介なる哉、吾人は決して家庭談を排するに非ず、只々世態人情の何物をも知らざる青二才の分際で何等の經驗も無き家庭談を振り舞はす者餘り多きを片腹痛く思ふが爲めに之を云ふ。

▲小觀小錄

●慈善業の純利　某新聞の紹介欄に曰く慈善的教育事業設立後四個年純利益川五十萬圓内外生命寄附者續出に付き特、遺作、什器具、及建具一式參百圓に讓渡すと、慈善商賣も中々隅には置けぬ營業なり

●ライオン教育　岡山孤兒院の院兒生長し教育を受けたるものを奬勵して米國に出稼ぎせしめ稱してライオン教育と云ふ千島の占守にも既に同院より二人の女子出發せり生ける慈善とは如此を云ふ

●二大海底鐵道　ベーリング海峽の海底を貫きて亞米利加と亞細亞を通じジブラルターの海底を潜りて歐羅巴と阿弗利加を聯ねんと云ふ、快絕の報道、這種の事業は聞く丈けにても氣か潤くなる也

●邦人は米の神　日本人は世界第一米作に巧みなる人種なり米人は稱して米の神と云ふ今回テキザス州に米作を起こさんが爲め我農民を移住せしめんとす實にこれ海外に新日本を作るの好機會なり

●亞米利加征伐　これ長谷川泰氏に依て唱へらるゝ語なり曰く日本の將來は是非太平洋の向岸に領土を有せざる可らず則ち北米カリホルニヤを我有とするを以て國是とすと、怪焔萬丈當るべからず

●冥途の旅行劵　高木兼寛翁大學生の多病短命を嘆じて卒業證書は冥途へのパッスポートなりと云ふ又曰ふ日本人の身長年々二分づゝ短くなる此割合にて算ずれば三百年間に全く無くなつて仕舞と

●世界一癩病國　萬國癩病會議の時内務省で調べた全國の患者三万三千五十九人其系統に屬するもの九十九万九千三百人明治三十四年の兵隊檢査に五百八人の患者を發見せりとは山根正次氏の話し

●羅馬法皇逝く　慈善教育社會問題等に其傳道の方針を向けたるか爲め著しく羅馬教の勢力を全世界に挽回し得たる全教の首長は逝けり羅馬府に於る黑幟則ち法皇側の勢力今後奈何の狀を呈すべき

●人體の磁氣力　催眠術、讀心術等色々のもの我邦にも近來盛行す、米國の博士ロバートソン近ろこれ人體磁氣の作用に依るものとして磁氣の存在作用を認めあ其研究を公けにせりと

新聞評壇

某砲兵大尉の怪行と三面記事

杉村縱横

頃者、世に某砲兵大尉の家宅侵入事件として盛に喧傳せらるゝ所のものあり。余輩が信ずべき筋より確聞する所に據れば、事の眞相は、單に某大尉が六月十四日の午後九時頃銘酊して道を失し、誤つて他人の邸内に踏み入りたりといふに過ぎず。而して其の踏み入られたる家といふは、とある小路の行き當りに在りて、其夜は、恰も門扉の未だ鎖されざる時なりしかば、酩酊したる者が、誤つて踏み入しが如きことは隨分之なきを保すへからざる處なりとぞ、然るを件の邸宅の主人は、何をあわてふためきてか、仕込杖をふりまはして、同大尉に切つてかゝり、其の詫ぶるをも聞き入れずして之に三ヶ所の輕傷を負はせたるなり。眞個の事實といふは單に之に過ぎざりき。

然るに事實は事實のまゝに報ぜられざりき。世の所謂三面記者なる者は、更に此の事實を且つ誤聞し且つ敷衍してさま〳〵の風說を傳へたり。都下の多くの新聞が殆ど異口同音に揭げたる所に據れば、彼等は先づ事は六月三十日の夜深更に起れることなりとせり。件の家の門扉は堅く鎖され居たるに、大尉は何處よりか潜び入りたるものなりとせり。彼は家人の誰何せるに會して倉皇八寸餘の短刀をひらめかして刄向ひたるものなりとせり。其の傷つけらるゝに及びて、大尉は隣家の戶を破りて逃げ去りたるものなりとせり。斯くて自宅に潜伏し居たること發覺して憲兵屯所に拘引せられたるものなりとせり。彼等は斯く事を細やかに、左ながら親から其の塲に臨みて見て來たる者の如く報導したり。若し夫れ其の甚しき者に至つては、大尉を平素盗癖あるものとなし、此夜も全く竊盗の目的にて侵入したるものなるべしと推定し、其の前日より牛込小石川邊に屢々貴金屬類の盗難に罹りしは恐らく大尉の所爲なりしなるべしと臆測を下し、更に甚しきは、事に

何等の關係なき太尉の夫人が身の上へにまで書き及ぼし、之を以て元吉原中米樓の娼妓なりし者なりとなすに至れり。

所謂三面記者なる者の無責任にして、漫りに他を傷くるの不德を敢てすること、豈に余輩が今日に至りて初めて知る所ならんや。然れども余輩が平生紳士的好新聞として敬愛し尊重する所の某新聞の如きまでが、其の三面に於ては依然として世の所謂「三面記事」なるものゝ域を脫する能はざるに至つては、余輩先づ私情を棄てゝ聊か一矢を放たざること能はず。今回の事件に關する同紙の記事は實に惡辣獰猛を極めたり。逸早く盜癖云々を語りしも同紙也、牛込小石川邊の紛失物が如何にも右太尉に關係あるものゝ如く傳へしも同紙也。而して、其の妻女が吉原の女郎上りなりとせるも亦同紙也。夫れ、斯の如き私人の一身に大關係を及ぼすべき記事は、精探の上に精探を重ねたる上に於て初めて之を公にすべく、若し又公にしたる後其の誤れるを知らば、何等他の請求なしと雖も其誤を正して以て天下に其の不注意を謝すべきのみ。余輩の平生敬愛し尊重する某新聞は兩つながら之をなさゞりしなり。何を以て斯くいふことを得る乎。

余は右の某大尉の妻女と同鄕同町の關係ある者にして、彼が一醫家の第二女にして縣の女子師範學校をさへ卒業したる身元の正しき者なること、隨つて其の吉原の女郎上りなどゝいふは以ての外の誤なることを熟知せるが故に、其の由を同社の知友某々君に宛てゝ報じ、之れを三面記者に傳へられんことを求めたり。其の後、同大尉より此の件に關する巨細の事實を聞き、其の新聞記事の誤多きを知れるを以て、一面は多少の親交なる大尉の面目の爲に、一面は右の新聞をして誤を傳ふるの新聞紙たらざらしめんが爲に、態々其の社に就いて多少の辨明を加へたり。然るに其の現に如何にしても爭ふべからざる妻女に關する事實の如きは、新聞紙所載の記事が全く誤れるものなることを自認しながら、猶且つ之を正誤せんとも取消さんともせざりしなり。余は直接に三面記者其の人に接したるに非ずと雖も、余の辨せる所が慥に彼れに傳へられたるべきとは、余の確信し得る所なり。

此の明白なる事實に對してすら、正誤を惜しとする人が、如何ぞ、盜癖の如き紛失物の如き「八寸の短刀」の如き「憲兵屯所の拘引」の如き、其の他の記事を訂正せんとせんや。余は同社に關係ある三四の友人を通じ

て當の責任記者に其の正誤を依頼し懇請せり。而して其の依頼懇請の結果は、七月六日八日の兩日の紙面に前後二三欄の餘白を埋づめて、此の無邪氣の一士官を左ながら大泥坊の如く書き立てたる記事を、漸く十日を隔てたる十八日の紙上に於て其の欄外に、僅に三四行の正誤文を掲げ呉れたるあるのみ。是れ豈に前に人を誤まりたる疎漏の責を拂拭し去り得べきものならんや。此に於てか、此の憐むべき年少士官は、遂に多數の讀者によりて女郎を娶れる人、盗癖ある人、竊盗を行はんが爲に深夜他の家宅に侵入して傷けられたる人と認められ了んぬ。若し之をして普通一般の小新聞紙上の出來事ならしめば、余輩豈に大人氣なく之を相手に言説を試みんとせんや。唯夫れ斯くまで執念深く之を追究する所以のものは件の新聞が或點に於て日本の第一流に置かるゝものにして、余輩の平生最も愛讀せる好新聞なるが故に之をして依然たる「黄色時代」の痕を存せしめんとを惜みたるに因るのみ。

此に於て余輩は何が故に然かく三面記者が一般に其の過を改むるに吝なるかを精査せずんばあらず。

此の問題に對して、彼等が言不言の間に理由として擧ぐる所のもの三あり。一に曰く、誠に記事の誤れるものあらば本人自ら法律の許す所に從ひて辯駁すべきのみ。第三者の容喙の如き、豈に耳を假すに足らんやと。是れ彼等が三百的理屈をふりまはして、本人の辨駁書が如何に世人に對して其の効の少きかを顧みざる無情の議論也、二に曰く、一たび責を負うて探査し、責を負うて公にせるもの、たとひ其の不實なるを知とも、假に之を取り消さんは、一に三面記者の躰面を損し、二には新聞紙の信用を傷つくべし、相手にすべからざる所以也、と。三面記者の躰面を損すといふは、畢竟自己の失策によりて己が位地を危うせんを恐るゝ卑劣心に出づ。新聞紙の信用を傷つくといふは、其の誤謬を隱蔽し其の不實を糊塗して以て新聞社の能事了れりとなすの愚想に迷へるものゝみ。男らしく過を改むるその更に立ち勝りて信用を保全する所以なることを知らざる也。三に曰く、記事の材料は多く「警察」の供し呉るゝ所、其の確實なることは爭ふべからず。本人若くは之に關係ある者が利害の念を挾みて辨する所の如き、豈に一々取り上ぐるに足るものならんや、と。是れ彼等が其の記事を頑守するに至る、最も有力なる理由なり。余輩は之に對して聊か其の所謂「警察」なるものに對して一言なくんばあらざるべからず。

由來警察なるものはすべての事實を罪惡の意味に解釋せんとする者也。如何なる行爲をも罪惡的動機に歸納せんとする者也。彼等の眼中一切の人事は罪惡の分子を含まざるなく、世界は左ながら罪惡によりて形成せられたるものゝ如く見らるゝなり。此に於て彼等は不知不識事實を惡化し罪成し、單に彼等が特殊の眼に映したる事件の一面の觀察を世に傳ふると屢々なり。彼等の主要なる地位に立つ者は姑く問はずもあれ、其の探偵以下の者に雇使せらるゝ内偵密偵若くは所謂「手先」なるものに至つては、啻に公然籍を警察部に列せざるものなるのみならず、時としては博徒破落戸の類が一時何等かの都合によりて此の種の職を務むることさへなきに非ず、左なくとも此等下層の雇人に在りては、責任を重じ道義の何たるを解する者殆ど希なるが故に、斯の如き徒によりて、それよりそれへと、次第に傳へらるゝ所のもの、如何ぞ常に事業の眞相を得たるものなるを保し得んや。況や此種の材料が一たび三面記者の手に入りて、潤色せられ、添加せられ、附會せられて、初めて紙上に公にせらるゝ時、其の幾變化、幾モディフィケーションを經て、宛たる別事の觀をなすに至るものなること、固より當に然るべき所のみ。

殊に此の點に關聯して余輩が廣く記者及讀者に向つて注意を願はんと欲するもの二あり。一は警察方面の取調が故さらに憲兵方面の取調と其の方針を一にせずして、一種異色の効果を擧げんと勉むること、二は總じて信を措くに足らざる犯罪者又たは犯罪の嫌疑ある者が、其の事件の餘りに重要ならざる點に於てなしたる自白を深く其の眞僞を究めずして、直ちに新聞社に洩らし、新聞社は之を警察より得たるものとして確實なりと信ずること是なり。余輩は此二個の傾向を敢て今回の家宅侵入事件に於て認めたりといふに非ず。然れども余輩が此の二個の傾向の存在を知るに至れる二つの事件あり。先年或る事件に關して某陸軍將校は先づ警察部の告發によりて憲兵屯所の取調を受けたり。憲兵屯所は取調の結果何等の咎めなくして之れを放免せり。警察部は是れ陸軍將校なるが故に、故さらに曲庇したるに非ずやと疑ひ、百方其の失策を撿擧せんとを勉めたる爲め遂に前の被疑事件とは全く何の關係もなき事件によりて懲戒處分を加へらるゝに至れることあり。是れ余輩が親しく聞ける所の事實にして、唯此に其の年月人名を記臆せざるを恨とするのみ。是れ第一

の事實也。次に今より五年前、某華族が伊豆の某旅亭に投宿中、其家の女と通じ、其の後或る種の罪を犯して、此の旅亭に潜伏せんが爲め東京より脱奔し來りたる時、件の女は薄情にも打棄てゝ相手にせざりきとの事東京の各新聞に(「讀賣」「中央」「毎日」等に最も詳に)出でたり。某華族が此の旅亭に投宿したることも、娘と顔を見合はしたることも、又脱奔して再度此の旅亭に來りたりとのことも、皆全く事實無根にして更に一點の據る所あることとなし。此に於て彼の女は此の回復すべからざる不名譽の爲めに世間に面を向けられずとて、海に投して死せんとまで決心したりといふ。而して此の後此の事に關係ありし者が如何にしても斯く根も葉もなきことが一時に數多き紙上に現はれたるかを精査したるに、全く右の華族が警察に於て出任せに語り出でたる所を傳へたるなりとのこと判明したり。此事は余輩が當時の本紙上にて一喝を加へたる所にして、讀者の中には或は今も尙之を記臆せらるゝものあるべし。是れ第二の事實也。此の二個の事實は實に、左なきだに不健全なる三面記事を一層不健全ならしむる所以たらずんばあらざるなり。

嗚呼三面記事の人を誤り、名を傷け、事を敗るや甚だし、若し其の責の歸する所何れぞと問ふ者あらば、余輩言下に答へて曰はん、其の責の一分は此の如き記事を歡迎する多數の讀者に在るべく、一分は之を揭げて俗流の嗜好に阿ねる新聞社に在るべく、而して他の八分に至つては分ちて以て、之を筆にする三面記者と、之が材料を供する「警察」とに負はしむべきなりと。陸軍以外に存する千百の砲兵大尉の爲に此に此の文を綴る。



新體詩の末路

有美

詩は考ふべきものに非ずして感ずべきものなり。詩は讀むべきものに非ずして歌ふべきものなり。詩は看るべきものに非らずして聽くべきものなり。然るに、何等の痴人ぞ、詩を以て讀むべきもの又考ふべきものと

爲し、これを耳に入れずして眼に入るものたらしめんとせるとは。これ詩の惑かれて外道に陷り、誘はれて魔道に墮落せる所以なり。詳く言へば感ずべからず聽くべからず歌ふべからざるものは、是れ決して詩に非ず。歐西にありては、遠くポープこの魔道に陷り近くキプリングこの弊に入れり。近刊の歐米諸雜誌に載せられある詩歌を觀ずる、多くは又この外道に走り滔々として談理を旨とし、時に或は論議に流れ、感激と聲調とを度外にする傾き無しとせず。是れ一にはキプリングの誤りて名を一世に爲せると、他に獨逸の分類主義哲學が世界の思想界に勢力を揮ふに至れるが爲めなるべしと雖ども、此くの如きはまことに讃むべき象徵にあらず。日本の詩人にして若し歐西に行はるゝこの傾向に學ばんとするものあらば、其痴や其愚や實に哄ふべきなり。詩に於て聲調を輕しとする、あゝ實に沒分曉の極に非ずや。その詩たり其歌たる所以のもの、聲調を措ひて果して何れにかある。昔しは沙翁以爲らく、涙なくして婦あることなしと。然り、聲調無くして決して詩あること無し。散文と詩歌との別るところは實に其聲調にあるならずや。近頃、蒲原有明子新體詩集『獨絃哀歌』を著す。即ち先づ之を繙き。のち讀て諸々の新刊雜誌揭ぐるところの新體詩なるものを唱するに、一として其聲調の美はしきもの無く、其感激の人の心を動かすに足るもの無し。試に之を唱して舌に上すれば、概ね死礫の如き聲あるものゝみにして、豚の呻きにだも及かざる恨あり。此くの如きをしも、猶ほ稱んで詩歌たり韻文たりと云ふを得べき乎。今の所謂新體詩なるもの、比々として破れ鍋の如き聲ならざるは無く、其不調子まことに聽くに堪えたり、かの故外山博士等の『一里半なり一里半、並びて進む一里半、死地に乘り入る六百騎』と冒頭せるテニソン『輕騎隊』の譯歌すら、その聲調の整ひ韻律の唱するに足るものあること、遙に今の所謂新體詩に勝る。此くの如くしかく聲調語律の唱するに足るもの無き新體詩は果して能く人に悅ばれ人に迎へられ人の舌にのぼり人の心に入るを得べき乎。藤村の詩が數々其朦朧のゆゑを以て譏らるゝものありしに拘らず、盛に天下に行はるゝは、實に聲調韻律の樂的なるものあればなり、詩歌韻文の韻律を欠き聲調に乏しきは是れ實に臨にして其の味を失へるなり。あゝ、かく聲調の美なき新體詩、韻律の美なき新體詩、誰か能くこれを迎へんや、誰か能く之を悅ばんや。世人の棄てゝ遂に顧みざるに

至る、必ずや近きにあらむ。されば、今の新體詩にして永く現時の傾向より脱する能はず、益々外道に入り愈々魔道に進まば、其柄や全く世の趣味をこれに動かさしむる能はずして、遂に新體詩の爲には鈍牛文をも與えんと、いふもの無く、又惹ひて新體詩を作らんとする興味ある人無きに至り、全く新體詩の跡を今の日本に絕つに至らんなり。故に、今や實に所謂新體詩の危機ならずや。これ、われの絕呼して新體詩の末路來れりといふ所因なり。あゝ末路なり末路なり今や新體詩の末路なり。今にして一轉してその傾向を變じ聲調韻律を重んずるに非ずんば、新體詩は遂に亡ぶべし。以爲らく、看るべくして聽くべからざるものは詩に非ずと。又以爲らく、讀むべくして歌ふべからざるものは詩に非ずと。

而して、此くの如く新體詩を邪道に陷れ魔道に誘ひしものは、實に土井晩翠なり。否な寧ろ晩翠を鼓吹して天下に其名を成さしめたる盲目批評家の罪なり。もし晩翠にして名を成さず其鰐口調の盛に稱せらるゝことなかりたらんには、新體詩今日の墮落を觀ること無きを得べかりしを。あゝ俑を作くりしもの實に晩翠にあり。晩翠の罪は實にキプリングの罪に同じ。實に獨逸分類主義哲學の罪に同じ。借問す、新體詩は韻文か將た散文乎。

博士位の授與

位なくんば上殿を許るされじ。大臣に位記を賜ふ敢て怪むに足らず。人として博士の學位無くんば、マサカ大學講義室に入るを許るされじとの慣例あるにてもあるまじ。大學その他官公專門學校の敎授にのみ多く博士位を與えて恩賞の普く他に及ばざるは訝むべきことなり。任に大學その他の敎授に在るものは、これ既に一種の學位を與えられ其名譽を天下に表彰せられたるに同じく、世間は皆な其人の學識深遠なるべきを豫想してこれに相當の敬意を表するを以て、敢て特に又博士位を授くるの要を觀ず。その人に對する世間の敬意と又世間に於ける其人の名譽とは、この學位記の有無によりて毫も輕重なきなり。されど、世に學藝の達人また其數少なからず、恐くこれを擧げて大學其他官公高等學藝院の敎授と爲すは甚だ難しとする處なり。敎授には其數限りあり、又當局者との緣故等により其職に任ぜらるゝこと自然の勢なり。而して、既に之を敎授に任ずれば、これ其人の學識非凡にして技術の奥に

達せるものあるを國家自ら保證し之を天下に吹聽したるに同じ。されど、國家はこの數に漏れたる學者と技術家との技藝と學識とをも又天下に保證し之を吹聽し世人の敬意を喚起せざるべからず、この法たるや即ち學位記を授與するを以つて最も捷徑なりとす。かくして、學位記を帶ぶるものには、其人假令教授の職にあらざるも、天下は認めて以て斯道の達人なりとし之に尊敬を拂ふものあるに至らんなり。故に、博士の學位は寧ろ現に教授の任に在るものに與ふること少なくして、却て野にあるものに授くること多からざるべからず、少なくとも之に授與すること多からんとするに力めざるべからざるは、當路者の任なり、殊に論文提出によりて學位を請求し得る制度と爲せるが如きは、全く世間に隱れて知られざる學藝技術の達人に國家の保證を與え、天下の敬重するところたらしめんとせるに外ならざるべし。然るに、實際は全くこれに反し、既に教授の職にありて天下の尊敬を受け、或は既に世間に知られて其名の人口に膾炙せるものに向つてのみ博士位を授與せらる。これ實に無益の勞なり、これ實に本末を轉倒せるものなり。博士の學位は宜しく民間にあるものゝみに與ふべし、世間に知られざる達人のみに授與すべし。これ國家が眞正の學者技藝家を遇する道なり。すでに斯道至高の教授の任にあるもの、更に博士位を得て何の功徳をか得る。これ蛇足にあらずや。ちかく、宙外先生が文勳論を讀み、この感あり。

音樂學校 卒業生と寄席

七月十日午後二時卅分東京音樂學校卒業證書授與式あり。卒業生を出すこと若干數。これ等の卒業生なるもの校を出てゝのち果たして如何なる職に就かんとする乎。そのうちなる女性の或る者は嫁して人の妻たるが如きこと無きにしも非るべきも、その多くは音樂教師たらんとするものなるべし。而して、音樂學校卒業生の中今日まで未だ一人の寄席藝人を出さゞるは、實に西樂普及の爲に悲まざるべからざることなり。彼等卒業生の希望の小なること實に驚くべく、僅に卅餘圓を得て中學師範等に教師となれば得々の色あり、更に進んで音樂學校の奏任教授に任ぜらるゝ如きに至れば、殆んど狂喜するばかりにして、この上の希望はたゞ官費留學生たらんことゝ、折もよくば校長の職に榑きつけんといふが關の山位に過ぎず、しかも傲然自ら尊しとし、徒にヒンをつくりて人に誇り、身を寄席藝

人に作して善良優等の音樂を民間に普及せんとするが如き氣慨あるものなし、かくして何れの日にか西樂の興隆を觀るべき。今の日に於いて西樂の趣味を天下に普からしめんとするや、之を寄席に演奏するよりよきは無し。寄席の客又之を珍とし悅び迎ふるものあるや必せり。殊に音樂學校卒業生中の女性にして華顏麗容の貴婦人あらば、よろしく進んで寄席藝人となるべきなり。試に高座に現はれて每席一段のヴアヰオリンを奏し一曲の獨唱歌を演ぜよ。喝采の湧くが如きもの起り、能く滿都の士女を狂るはしむるに足る者あるべし。シバ笛の東長次郎と竹本京子の義太夫さヘヤンヤと受けらるゝ時節に當り、大にヴアヰオリンと獨唱歌とを受けさしめて、西樂の普及を計るが如き、豈に難事ならんや。その收益の如き又中等音樂教員のそれに幾倍すべし、寄席藝人と音樂教師と何の上下ぞ。その音樂教師を貴しとし寄席藝人を輕しとするが如き全くの俗見のみ。

▲稿餘錄

■華嚴瀧の繁昌實に驚くべし。藤村以後甲も之に投じて死し、乙も又死し、丙も丁も又之れに投じて死す。されど、かゝる繁昌は華嚴瀧のみにあらじ。苟も「華嚴」の文字あるものは瀧ならざるも、當節猶總て皆な繁昌す。是こに於てか「無盡燈」第七號には楠龍造氏の「大小乘經典論」の一なる「華嚴經を論す」と河野法雲氏の「華嚴經の教判と諸宗の關係」とあり。華嚴又華嚴なり。あゝ誰か華嚴瀧ならぬ華嚴經に埒檣を廻らすものぞ。御用心〳〵。

■齋藤綠雨ちかごろ餘りに文に走せて、其實を欠くの恨みあるは悲むべきことなり。今の綠雨の文は、實の爲めの文に非ずして文の爲めの實なり。綠雨を以て批評家といふは未だし、綠雨は明治年間の名文家なり。

■七月の「新小說」に載せられし平尾不孤が島村抱月に與へたる書は、實に病者の呻吟なり。讀む者また悚然として戰慄せずんば止まず。殊にその「陷穽」を論して憤激の聲を漏らすこと切りなる如き、この書の筆者が、其生涯に於て、如何に陷穽の爲に苦しめらるゝもの甚しかりしかを示し得て餘りあり。一讀誰か淚なからんや。この書に倫理學的批判を加へんとする如きは、筆者の心を讀まざるものなり。

■西樂唱歌の曲に日本語の歌詞を添えしもの、往々その歌詞のアクセントと曲調との相和せざるものあり。世間これを批難するもの少なしとせず。されど、義太夫曲の如きにすら、又數々文のアクセントと曲調と相反するが如きものあるを思へば、獨り音樂學校の唱歌をのみ責め難し。

■「太陽」に挿入せらるゝ寫眞版の、近頃メッキリ古物揃となり、二度の勸めは愚か三度目或は四度目以上のお勸めなるには、甚だ飽きたらぬ心地す。このところ一番何にとか新工夫のつかぬものにや。

■桂月が「文藝俱樂部」に載せたる「子の恩」桂月にしては近來の名文なり。今の世の親共の子を敬せざる所因のもの、其實は是れ世を擧げてたゞ勢力――詳くは學藝官位金力才能美貌等を敬重するを知りて單純なる人格を敬重するを知らざるより來る。

■また同じ人の「文藝倶樂部」の文は、總て文調のから元氣によりて讀者を脅かさんとするものゝ如し。之れを稱して恫喝評論とや言はむ。
■七月の「帝國文學」雜報遂に六月のそれに劣る。
■「中學罵倒論」は來月まで延引。

▲墮落式文壇

は、　し、

（註）『中央公論』の六號文壇はいよ〳〵墮落だ。――『新聲』記者

▲抱腹庵主人著『序文か本文か』。豆太鼓寄附者、佐次郎君、茶目助君、甚次郎兵衛君、田五作君、おさん君權助君、おちよま君、べく内君、ミケ君、ブチ君。

▲トワイン、々々々々吝生め、とふ〳〵俺に喰ひ附きあがつた。警察へ屆け出さうにも、俺の飼犬だから仕樣がねえ、チッ！忌々しいとは此事か。

▲「我國の神秘派ともいふべき此等の詩篇は味はれまいと思ひます」。神秘派――ロマンチック？ミスチシズム――ロマンチック？ロマンチック――ロマンチシズム？「我國の評家は何時正當に韻文を批判する資格を備へられる事でせう。」

▲ショモ、我れ劇界をツン出され、逃げ場に困つて駈け込んだとは存ぜぬ文壇のウッソリ共、堀越、イプセンそれも翻譯で覗いた計りを擔いで威せは、眞面目にとつての辨難反駁、ハッハハ、馬鹿者揃ひの文壇ぢやなあ。ト、向ふを見こんで舌をペロリ、此見得よろしく幕。

▲『中央公論』大明神、有美先生樣々々。南無阿彌陀佛、アーメン。オイ〳〵、君は何を云つてるのだ。有難いから拜んで居るのさ。何が有難い。だつて我々を褒めてくれたもの。何といつて。「キザなる臭氣を止めず」「眞面目」になつたと云つて。さうか、では、僕も拜みたい。

▲『帝國文學』第九卷第六、批評（一二五頁）。

○慈愛の海、仁の心　大和田建樹作歌　盲文社發行

前者は動物虐待の歌にして、後者は動植物保護勸告の歌なり。作者は斯道の經驗家大和田氏、小學生徒をしてかの鐵道唱歌の如く歌はしむるを得ば風教の爲に裨益あるべし

▲「褒むれば、褒めかへし、罵れば罵りかへす。到る處、何ぞ鸚鵡的の文士多きや。」オイデロレンの親方、こんな時、威張んねえ。

▲「若し余に好き門人の百人もありて、代る〳〵小説をつくつてくれゝば、病臥すといへども、餓死せざる

べし。板新道に曰く、ところが、アナタでは御アイニクだわ、何だ、技量もないくせに、ヒトツ、イケづう〱しい、ちつと鏡でも見て、オト、ヒお出て、アハヨ、サラヨ。

▲歐の君主米の富豪に及ばず

歐羅巴各君主の歳入は左の如し

露國皇帝	八、五一四、七二〇磅
土耳古帝	二、〇〇〇、〇〇〇
獨逸皇帝	六二八、〇〇〇
伊國皇帝	五七一、〇〇〇
英國皇帝	四七〇、〇〇〇
西班牙皇帝	二八六、〇〇〇

阿米利加富豪の歳入は左の如し

ロツクフエラー	一〇、五一二、〇〇〇磅
カーネギー	五、〇〇〇、〇〇〇
ラツセル、セージ	一、八〇〇、〇〇〇
クラーク(銅王)	一、六〇〇、〇〇〇
グールド	一、二〇〇、〇〇〇
モルガン	一、〇〇〇、〇〇〇

則ち露帝一日の收入二十三万三千二百八十圓となりロツクフエラーは一日二十八万八千圓に當る



雑評

新聞小觀

小觀記者

●萬朝報の品格は近來增高昇し傑然として大新聞の地歩を占むるに至れり、善き新聞ではあるがアノ三面記事ではと云はれたる三面記事も次第に方針を變じ、若しくは方針を變ぜんとするものゝ如し。ペストの話、東京市の道路、馬糞の都と云ふか如き記事は何れも人を利し世を益し、而も興味の津々として盡きざる、何人が讀でも決して惡德文字の類に非ず、吾人は同紙がかゝる材料を多々增多くし眞に社會敎育者としての天職を盡さんことを希望せざる可らず社說二號文字の見出しの時は大概黑岩氏自身の論なりといふ。

●二六新報はマコトに惡く成り下りたり、紙面の荒涼として材料の趣味なき何とも致方なき新聞となれり、突飛の號外を發して世を驚かすなど秋山竹越兩君の如きトニカク代議士の肩書を有する連中が筆を執る新聞とは到底受け取れぬなり、本紙にて見る可きは唯綠雨の隨筆牛門逸民と署する人の論文なり。

●「毎日」と「國民」とは何となく似寄れる新聞なり、蘇峰の人格は沼南に及ばざれども文の趣味は蘇峰の方遙かに勝れり、前者は半山去て増活氣を失し後者は廬花を失ふて唯一の呼び物を逸したり、蘇峰の日曜講壇あるは「國民」のせめてもの取り柄なり。

●「讀賣」は五來の大學論のみ恠談當り難し「當世盲人娘」俗臭厭ふべし、「讀賣」の品格を低卑するや甚し、爾し是によりて千又餘の讀者を増し得たりといふ、世は到底俗うけの事なり。

●時事の社說はイツも讀みゴタへあり、先頃のクロパトキンを迎へたる時などの文は優々迫らず婉約の間に無限の抗議あり文章議論如何にも一國を代表して恥ぢざるの姿態を示せり、石河主筆氏の勉强思ふべし、之を聞くに「時事」には五人の論文記者あり而も一も石河氏の刪潤を歷ざるものなく氏は寸心千古といふ樣子にて一字も苟もせず改竄し改竄し殆んど完膚なきに至りて止むを常とすといふ、「時事」が福翁當時の勢威を墜さゞる洵に由ありと云ふべし。

「日本」は十年一日、体裁の改まらざるを得意となせるが如きも讀者は日に減する由なり、三宅雪嶺の歸朝陸羯南の洋行、果して舊壘を取り返へし得べきや否や。

●「東京朝日」は好新聞紙の評あり、議論穩健、記事豐富、内外電報の多きは「時事」と伯仲の間に在り、支那通信の如きは本紙に非ずは見られざるもの多し、彌生山人の短評亦讀むべし、天尊生のやゝもすれば竹亭伯などを引出し來るは少し厭味あり。

●「東京日々」は相變らず社說と近事片々とを讀み物となす、社說時ありては甚だマヅキ物あり、爾し讀み來て絕品と感ずるもの亦尠からず是は定めて知泉氏の筆に成りしものならん。

梁詩評釋

水清漫處士

爛ニ却先生頭上巾一。朝訓恭敬一諄諄。妻孥尙且不ニ吾信一。

何況悠々天下人。

先生然とスマシ込むも家内子供すら馬鹿にして居るなり、ドウしてか他人が感服せふぞ、即ち是れ今日の教育家宗教家などの事なり。

讀徹六經繼先聖。山書野史亦皆師。拘々泥々死章句。大丈夫見所不爲。

唯識三年倶舎八年、一生文句の末に走りて大問題を閑却する學究輩に與へて朝夕吟誦三回せしむべし。

赤舌森然何壯哉。也無學術也無才。若爲當得三年艾。持灼書生尻骨來。

●口ばかり達者で何の見識も手腕なき奴等の尻骨に大きな大きな山ほどの大きな灸をすへてやれと云ふなり、今時の若者は焚き殺されざるか肝要なり。

孔明二十八而出。眞乃堂々大丈夫。可笑吾人年望老。依然草澤一迂儒。

伊藤翁の參議となりしは廿八九、大隈老の參議も三十一二、而して彼等今是の如し草澤の迂儒獨りクヨクヨするにも當らざるべし。

曾有蘇秦二頃田。文耕墨稼過年年。一家幸免塡溝壑。酒筆錢眞活命錢。

家に財産なければ已むを得ず原稿料で命を繋ぐ、文學者などの暮らしは今古心細きものなり。長短三千溢白好詩做得竟無益。説與諸君休苦吟。傳。翁兮虛費一生心。

白樂天にも劣らぬほど澤山な詩を作りたれども到頭何等の益もなし、骨折り損のくたぶれもうけ、自分一身の生活にも當らぬ、詩人などになるものでない、との事なり、詩を作るよりも田を作れ、無闇に文學々々と噪き廻はる少年輩は請ふ乞食詩人となることなかれ。

新へなつち

武藏鐙鞍置宿禰野毛麻呂（ムサシアブミクラキノスクネノケマロ）

▲京阪合併角力に常陸若島の取組につきて大阪毎日なる福良竹亭の許へやりつる文端に

我れ知らじ、難波の芦の花角力、負けし常陸のよしかあしかは（此負けしは春秋褒貶の遺意）

▲同じ文の端に、今の世の中、何事につけても慾のみかはけるを嘆きて、博覧會事務員の失態など思ひ寄せて詠み侍りける

難波江の短かき蘆の節（フシ）の間も粟手濡手（アハデヌレテ）の世にこそあ

りけれ

▲おのれの滑稽歌を、明治の新狂歌なり、詩的にあらずなど罵る少年のありければ、橘曙覧大人の歌を思ひ出てゝ、換意式を用ゐてよめる

乳臭きチビに聞かする歌ならず鬼の夜更けて來ば告げもせむ

▲隣前の國なる二木笑平の許より寄せ來し歌ども

烟草屋の店に勿行そ鼻高き君を人見ば天狗と思はん」

ホヽと笑ふ少女の笑凹片笑凹平和の神の行在所

かたくなの戀の奴に摑まれて雪の降る日を、ふるひ〱行く

口ひゝく薑くひし君が顔、家のヘゲ猫クシャミなす如

▲笑平のもとへ

■笑平が笑の笑歌笑栗の笑みかたまけて笑みつゝぞ讀む

▲元老恐諾

おそろシャと三ッ見の魂禿までも怖氣はやまぬ元老の伴

▲合反惑情歌

玉籃、二荒の山は、山柄の、美しき山、山並みの、

■宜しき山、其山の、高峰の潮從、木立木根、押際かして、五百群の、岩切通し、さくなだり、落つる大瀧、此山を、領知神の、愛ましの、瑞の荒瀧神さびし、畏こき瀧と、日の本の、國内のみかは人國に、云ひ傳へつゝ、六月の、夏し來たれば、此山に、集へる人等、打向ひ、暑さ忘ると、打仰ぎ、心澄ますと日並らべて、慕ひ來ぬるを、いかなれか、穢なき奴、世の中に、住は詫びぬと、家の業、治めを知らに、人の道、いまだ開きを、賢しらに、哲學の、濫奧をし、悟り得貌に、言擧げて逝きにしからに、豚なす、臭き乞食等、つき〱に、身をし投げつれ、其所故に、神憤り、うつそみの、人も怒かれば、今從後、身をし投ぐとも、山神の、御怒受けて、世の人の、笑を買はむ、たわ業の、をぞ事なせそ、敷島の、日本男兒と、名に負へる伴

反歌

谷蟆の腹を肥やすと垂乳根の親の形見をおほにな思ひそ

かくばかり廉價命あらば我れ買はん芋の畠の肥料にをせん

■西比利亞の狼の腹、亞非利加の獅子の腹肥やせ、葬るとならば



讀者之文壇

骨相學より見たる春畝先生

赤坂の觀相先生投

▲大勳位閣下

の御骨相を茲に謹んで相して見ると、オホン、大政治家、大勳位、も一つ大好色家と何でも大の字が附く程あつて、各部の機關は如何にも圓滿に發達して居る。就中、最も發達して居るのは後頭部の機關て、前頭部の方も發達して居らぬではないが後頭部に較べるとなかく及ばない。その發達した後頭部の中でも、まづ第一に發達して居るのが頂部の上にある戀愛機關で、閣下に御目に懸つたもの、いや、御目にかゝらぬでも、閣下の寫眞は雜誌の看板になつて幾らも出て居るから誰でも御近か附きであらうが、後頭部の最下に當つて瘤のやうに飛び出した凸起、これを醫學上、結節と名づけて、骨相學の方ていふと戀愛機關、それが恐しく發達して居つて當世流行のハイカラを召したらポンチ屋が早速モデルに御雇ひ申したい位、聞き及んだ般の紂王や弓削の道鏡などは見ぬ世の者てあるから、どの位のものであつたか存ぜぬが、眞逆是れ程までには：：：と驚かるる位てある。そもく此機關は男女愛着の機關、一名イモリの黒燒機關、またの名、四ッ目屋機關ともいつて、是があるために人間が蕃殖するのである。隨つて、是が大きければ大きいだけ夫れ丈け人種が蕃殖するといふ譯で、臺灣、澎湖島、事によつたら朝鮮、滿州と六拾餘州が五六百州とならうとする今の我國の形勢では、中々以て必要千万のものである。何ッ風俗壞亂を如何せんやと……、そんな聲色を使はないで、まあさ默つて聞きたまへ、さてこの戀愛機關に次いで後頭部で發達して居るのは顱頂の二機關、大勳位閣下の後頭の上に續き合つた二つの凸起が見える、といつたら、夫れも四つ目屋かねとイモリの

黒燒好きの諸君は直ぐ早合點をなさるであらうが、大違ひ!!是は即ち其

▲自尊機關及び好譽機關

といつて名譽を欲しがつたり、慢つたりする性質、古から英雄豪傑といはれたものは必ず是が備つて居たので、いや、英雄豪傑でなくつても、赤門を潜る手合の中には折々かういふのを見受ける、が、しかし、あれはお氣の毒にも此機關が小さいので英雄豪傑のはズンと大きい。夫で是の大きなのは英雄豪傑の特徴といつても可いが、此機關は、稍もすると名譽を欲しがる所から、世間の非難を恐れて躊躇逡巡するといふ弱味がある。閣下にも此弱味がないではないが、幸いにも自尊の機關が大きいから是を打ち消して居る。しかし、全く打消して居るのではない。未だ幾らか殘つて居るから、事をなすに方つて折々此弱味に制せられる。是は我輩が饒舌る迄もなく此頃の事實が證據立てゝ居る、といふと、侠骨の面々、殊に政友會の代議士諸君はやい〳〵、此野郎め、貴樣は何を申す、前總裁閣下は磊々落々、新聞屋の毀譽褒貶は雲烟に附して、

▲政府とても美人とても妥協

をなさるでないか、と、力瘤を入れて望月流の決闘を申込むかも知れぬが待ちたまへ、夫は、諸君が未だ骨相學を知らぬからて、エヘン、其處にこそ說あり!成程、閣下が政府とても美人とても妥協をやつて、露西亞にまでも秋波を使はるゝ所はえらい〳〵、我輩も、美人とだけなら妥協賛成派の一人であるから、早速起立して局長位に有り附きたいと思ふが、我輩は起立したくつても骨相學が許さゞるを如何せんだ。夫は如何いふ譯かといふと、名譽の方の機關よりも愛情の方のが大きいからで、名譽の方では醜業婦などにふざけたくないが、悲しいことには愛情程、發達して居ないから、ツイ我儘をさせるやうになるので其代り外の機關と較べると名譽の方が發達して居るから、外のが逆らうとすると遠慮會釋なく打ち消してしまふのである。閣下が名譽を欲しがりながら愛情を恣にするのは、かういふ譯で、何と骨相學は恐れ入つたものであらう。夫から、前頭部と顱頂骨との間にあたりて膨れ出した所、是は希望を現はす機關で、大きいのは希望が多きく小さいのは希望が少くない。ゴール先生——

▲骨相學の鼻祖といはれる

ゴール先生は、此機關は名譽機關の一種であるから、といつて、別に一機關の存在を許されなかつたが、ス

ベルッハイム先生に至つて、其間に差別があることを説かれ、別に一機關として存在するやうになつたのである。元來此機關は、前途に望を抱いて、是を達するがためには、何んな困難も、何んな障害も、一切無頓着で勇進する。夫で、是が大きければ大きい程、其人の進歩を助ける理窟で、御互ひに大きくつてありたいものだが、併し、是ばかり大きくつても、外の機關が發達が惡いと、…………假へていつて見ると、思想が不健全であるとか、境遇が不幸であるとかすると、飛んでもない所へ希望を持つて、ツイ横道へ外れるやうになる。見たまへ、盜賊が何んな望を抱いて居るか、狂人が何んな妄想を描いて居るか、系統機關に傷害を受けて意志の判斷を失ひ、常識が零になつた人間は、僅に殘つた記臆機關から過去の記臆を呼び起して某は征夷大將軍でござるの、拙者は正一位大明神でござるの、といつて

▲警官の御厄介になつた上

また〳〵新聞の御厄介になるではないか。いや、是は少々理窟に陥ちて何だか心理學の講義見たやうになつた、何とも早や申譯のない次第である。併し自惚てはないが、我輩見たやうな大學者になると、得てこんなことを云つて見たいもので、殊に今度は初めてゞあるから一寸、學殖といふものを知らして置かないと、人が信用してくれない…………。さて、愈々閑話休題として、そこで侯爵閣下の希望機關のつゞき、閣下は、實に是が大きく御有り遊ばすので、長州の足輕から成り上つて、昔なら七段目の寺岡平右衞門、ねい〳〵と怒つて額と馬糞とを接吻させねばならぬ所を、維新の風雲が捲いたためとはいひながら、何といつても階級の頂點、大勳位侯爵とまで漕ぎ付いて、總理大臣、貴族院議長、樞密院議長、政友會總理などゝ、エライ所は何でも人より先きに占めてドシ〳〵希望機關を滿足させて居る。夫では、もう是で滿足かといふと、いや、どふして〳〵希望機關といふやつ、何處まで行つても決して作用を止めるものでない。未だ何處やらへ野心を向けて、夫を乘り取らうとして居る様子が其の面ではない、骨相にアリ〳〵と見える。では何だ、何んな野心だと、氣の早い新聞屋などは尋ねるだらうが、是は我輩に聞くより、此頃の雲行を眺める方が能く判る。そこで、今度はグルリッと前へ廻つて、何んな相が現はれて居るかと見ると、いや、あるは〳〵、（未完）

白粉的女子教育

白柳秀湖

吾國目下の國民教育は如何にも畸形的にして、僞善的也、頃日新聞紙上白粉問題として現はれたるが如き女學生の白粉塗飾を以て虛飾的なりとせば、余は是と其根源を一にする、女禮式、茶の湯、生花をも嚴禁せざる可からずとなすもの也、道德は命令にあらず法律にあらず、之を此の如くすべし此の如くすべからずと注入して强て奉ぜしむるが故に玆に於てか虛飾と僞善とは、起る、白粉も生花も女禮式も茶の湯も皆其根源を一にす、貞操と云ひ、優美と云ひ、溫和と云ひ、從順といふ、是皆他に對するの德也、人苟も道德を語らんとせば先づ第一に了解すべきものは自己也自己とは何ぞやの問題解決されずして形式的に他に對するの道を知るも終に僞善虛飾に及ばざるを得ず、古來我國の上流……宮家武家の子女は皆此種の教育をうけ來れり曰く男女七歲にして席を同くせず、曰く貞女兩婦に見へずと、此の如くにして彼等は上品なりき、然り女禮式なりき、然り茶の湯式なりき白粉的なりき、此上品の美名に隱れたる虛飾的、節操は近松の作に於て巧に描寫されたる也。

古來我國に、二流の女子あり、一、は、上品派にして一はお俠肌派也、宮家武家の子女、前者に屬し町家平民の子女後者に屬す、前者は所謂山の手風にして崇拜者田山花袋君あり、後者は所謂下町風にして提灯持泉鏡花君あり、然れども、事實は面白き現象を呈せり、表面に優美上品を裝ふ、上流の子女が內心案外に薄弱にして腐敗甚しく其然らざるものと雖、常に誘惑され易し、後者は一見アバヅレにして取るに足らざるが如くなれども、一片の意氣凛々として霜の如きものあり、是何によるか、前者の教育は壓制的命令的にして一擧一動僞善虛飾となり內心不健全に盲想し空想して鏡花が所謂『日ましの饅頭』にして內部より腐敗し、後者は貧家に生れ又た町家に生れて少時より浮世に接し男子と伍し親しく世智がらき味を嘗めて結局浮世の苦勞人となれる故なり、其然らざる者にして悲慘なる運命に翫弄されて、醜業に身を委ぬる者と雖、一種の解脫をなして人情の祕線に觸れ得たるものあり、これ君傾城に誠ありてふ却て奇警なる語句を生ずるに至りし所以なり、平家物語に於ては、佛御前後者に屬し、小督局前者に屬す、近松の作に於ては「堀川波の鼓」のお種、「槍の權三」のおさい、等前者の標本的なるものにして、「源氏十二台」「日本振袖始」「傾城反魂香」等の姬君皆之に屬す、若しそれ「曾根崎心中」「天の網島」「冥途の飛脚」等の中に現はるゝ君傾城町家の子女は皆後者に屬す。（有美先生以て如何となす）

噫是皆白粉的女子教育の結果に非ずや、明治の教育改革されたりと雖根底猶偏俠固陋にして、從來の弊風を脫せず、吾人が理想とする「愛」と「平和」の大精神が其根底となる果して何の日ぞ白粉禁止論一度出でゝ堂々なる大家或は曰くコテ塗は惡し化粧はよしと、豈滑稽の極ならずや、白粉を禁止せんとせば先づ白粉的教育を禁止せよ。

短文

我家の消夏法

▲樂しき蜜月の旅行を彼女と手を携へて、浦鹽斯德よりサイベリア鐵道に依り、凉しき露都に出て、ネバ河畔に此夏を消せん、內地の溫泉場や海水浴は世界的教育を受けたる我等夫婦の願ひに非ず、旅中彼女がスケッチせる水彩の小畫は、彼女か同窓生に送られて我等の清福又は艷福を羨ませ、予が毎日の日記は東京の大新聞に送られて百万讀者の耳目を驚倒せん、ソシテ、ソシテ、…………

これ我が理想の消夏法

新たに卒業證書は握りたれど、新學士の估券は年々に低落して容易に身を賣ること能はず、セメテ今年は涼しき夏を故園父母の膝下にと思ひたれど、悲しや高等文官試験と云ふ難關を目の前に控へたる我は、錦(?)を僅か一週間丈け故郷に飾りて、又もや都門の紅塵中へ逆戻り、此蒸し暑き日に暗記に疲れたる腦を一枕の午睡に休ませるが唯一の消夏法、其午睡の夢に毎日見るのが前記のネバ河畔寳月と消夏と兼帶の新婚旅行!

これ我が現實の消夏法

(ニユー、グラジユエート)

▲山でも海でも、別莊でも我家でも、新家庭の消夏法に無くてはならぬもの

ハンモツク　一帳　バイオリン　一個
ベンチ　二三脚　西洋料理道具　一式
小説　數十種　カルタ類　數種
十三四と十七八の愛らしき少女　活潑なる十一二の男兒　數人

(波　蹟)

▲今は昔唐太宗が、人皆苦炎熱。我愛夏日長。薫風自南來。殿閣生微涼。と呑氣極まる詩を作つて一人で樂んで居たさうだが今時の人は斯んな事を云ふて其日〳〵を送るものもあるまい、僕なぞは太宗を氣取る譯でも何でもないが、冬よりも夏の方が好きだ、冬はもう寒くて實際寢ても立つても居られん、爲に五臟六腑の働が鈍くなる樣な氣持ちがする。夏の方が余程凌ぎ宜い、雷光一閃雷雨忽ち來り眞に之れ百万の精兵一時に鐵壁を打破たかの如く、感ずると、はや(アンメイ)暗霽れ雷收まり一天拭ふが如き處に文月のオレンヂが懸て居ると云ふ驟構で僕は實に其急激な變化が愉快で堪らん。

投て斯ふ云ふ時には去年父が病氣の時に造られた月見臺、名づけて忘憂閣と云ふに、兄弟姉妹は勿論一家總躰此處に登て月に對し塵襟を洗滌し浮世の辛苦を忘れるのである。嗚呼忘憂閣、汝は我家庭をして新鮮ならしめ、健全ならしむる、唯一の好伴侶である!!!眞に我家庭の生命である!

(R S T)

▲朝は太陽と一所に起きる。午前は偉人學者と書を通して交はる。午後は自然と共に遊ぶ。暑ければ直下の清流に汗を洗ひ。意向へば處さらず沈思の妙を恣にし。夜は殊に睡覺と中よく。萬事萬端意の如く暮す。是れ我家の消夏法なり。鮎の住む廣瀨川を挾みて青葉山と相對し櫻が岡の崖の上。遠く近く翠樹綠葉にかこまれて淵然たる青空を眺めながら起臥する清興は到底帝都の俗士が解するところでない。

(空水)

▲朝早く起きて太陽の出ぬさきに。躰から頭から顏手足口腔盡く洗ひ清めて公園を散歩する氣持よさ。きれいに掃き清められてがらつとあけ放たれた室に入り。机の前に坐して。旭に輝く青葉山を見る心地よさ。時書籍に依つて靜かに學海の偉人。人道の傑物。等の盲をきく愉快さ。時に眞を穿つた言に心を動かされ。思はず天を凝視ろうれしさ。急に沈思の問題を得て。忙然考へ込む樂しさ。じり〳〵暑くなつて汗が出て。崖下の流れで泳ぎ。水の冷たさに寢むくなつて。あがり。室へ歸つて。ハムモツクにねる心地よさ。ハムモツクの上から。下の流れの水や。青葉山の緣。澗き天。など。悠然と眺めて居る氣樂さ。友が訪れて來て。大々的樂天宗の宗教談をやる面白さ。夕方磧の石に腰かけて。尺八を吹く愉快さ。晩食後。ゆあみして。町通りを散歩し色々の人や美人を見る樂しさ。したいか歩きまわつて家に歸り。足を洗つてねる心持よさアハ.

(仙臺櫻岡生)

▲行水の終りし後、庭水打ちたる椽端に、弟妹團欒して井戸に冷したる

西瓜を喰ふ、これ我家の消夏法　（ち、か）

▲北亞米利加、滿州、柴比利亞の地方に別莊を作りて、一家を擧げて夏丈け一時の海外移住をして見たい。（H.S）

▲午睡、これが僕の消夏法である、家族の皆んなを勸誘するが、十五になる弟と十二の妹、とが贊成したばかり、父も母も不贊成で、「それぢや、お前達は海水浴に、わたしらが、行つたら、留守をして御出で」、と、云はれたんで、弟も妹も、吃驚して裏切をしてしまつた、僕は一躰海水浴は好かないので、ハイカラ、や、バンカラや、もしくは助平翁さんなんかゞ、寶女を連れて、イチヤ〳〵してるのを見るのが、いやだから、海水浴は大嫌ひだが、僕一人留守番するのも大嫌ひだから、今年だけは、仕方がない、目をふさいてる積りで、一所に行く事にきめた。（岡山、紫軒）

▲日眩むばかりの太陽が、向ふの白壁に照りつけて、馬鐵の馬が喘ぎ〳〵引きづる樣に走るのを下に見て、「いろは」の二階でロースをジユー〳〵、これはこれ我輩書生の消夏法なり否招夏法なり。（小林）

▲一たい僕は日本の紳士などと云はれる動物、奴等の消夏法が氣に入らない、夫れに又あの文士とか云ふ虫さ、彼等の消夏法は何？、湯治か而して海邊（太抵函庭的の）へ所謂避暑だ、吾は夏の日大磯や熱海へ行つて見ると、宛然女の樣なフニヤ〳〵した人間がウジヤ〳〵してゐるのに驚く、そして彼等の日課とは何だと云ふに曰く酒、曰く女、曰く晝寢、曰く駄小說、こんな事なら却つて躰を弱める位か關の山で誠につまらんちゆうのつまらんものだ。

僕は消夏法と云ふよりは寧ろ冒暑法をお目に掛けやう、三伏炎威赫々たるの日、上州、信州、越後邊の深山幽谷を跋跡して見給へ、山は遠慮なしに高く、谷は遠慮なしに深く、名も知らぬ鳥の聲が獨滿山の寂寞を破つて響き渡ると云ふ鹽梅とても軟骨動物にはわからなひよ、僕は只紳士樣に勸める、大磯や逗子あたりにスラクラしてゐるのをよしにして、少しは大陸的な山國の方へやつて來て浩然とかの氣でも養ふ事に勉めさつしやひと。（秋々田夫）



課題

近時の出版物に就て（八月十六日）

我國の富豪に就て（九月十六日）

新刊紹介

▲社會主義神髓　幸德秋水氏著

東京京橋區弓町二十一　朝報社發行

社會主義に關する近來の大著なり此書自序の初に曰く、「社會主義とは何ぞや、是我國人の競ふて知らんと欲する所なるに似たり、而して又實に知らざる可らざる所に屬す、予は我國に於ける社會主義者の一人として之れを知らしむるの責任あるを感ずるが故に此書を作れり」と、全編章を分つ七、尙附錄としては社會主義と國家、國粹、婦人問題等、盡く著者獨特の簡勁にして活氣ある筆に成る所、吾人は苟も此主義を窺はんとする者に、又よく解する者にも必須の著述として之を勸むるに躊躇せず。（定價參拾錢）

▲社會主義論　安部磯雄氏著

東京神田三崎町　社會主義圖書部發行

幸德氏と安部氏共に我邦社會主義者の中最も學殖あるの人、幸德氏社會主義神髓は其學說なり其歷史なり其說明なり、安部氏の社會主義論は其主張なり其傳道なり、幸德氏の穩健にして沈痛なる文に似ずや、激越の調を帶ぶ、四十八頁の小册子（定價十錢）

▲我社會主義　片山潜氏著

神田三崎町　社會主義圖書部發行

著者は亦雜誌社會主義の編輯を司るの人、蓋し此主義鼓吹者の最も熱心なるものなり、今此著に接す、卷頭の例言に、

是れ著者が年來確執唱道する所の主義の發表即ち信仰個條の說明なり、其天下に向つて與ふる宣言書なり、現社會――腐敗せる黃金万能力の而も資本家橫暴の社會――に對する告訴狀なり、資本家制度の維持者に送る手詰め談判なり、と

意氣已に斯の如し以て全班を推すに難からず。（定價二拾五錢）

▲海洋審美論　高橋鐵太郎氏著

東京本郷區四丁目五番地　文明堂發兌

著者は熱誠の人、夙に我日本國民が海事思想に甚た乏しきを憂ひ、此が普及を計り、我日本が將來國際的飛躍の素地を作らんが爲めに、此書を著はしたるものなりといふ、著者喝破して曰く、「海は文明を生むの母にして澎湃たる浪の音は呱々たる文明の産聲なり」と、著者が前人未發の獨見を以て海事思想養成の急を叫ぶ處、其熱心と炯眼とは深く讀者の同情を引くに足るものあり。兎に角虹の如き大氣焰は卷中に躍如として著者の風采を想はしむ、只あまりに大膽なる痛罵と論斷は著者の爲めに惜む處なり、菊版二百六十頁餘、海洋風景寫眞銅版數個入（定價五十五錢）

▲近世繪畫史　藤岡作太郎氏著

東京日本橋區本町三丁目　金港堂書籍株式會社發行

吾人常にへり、日本の美術は富豪貴紳が一種の虛榮心の爲めに千古の神品をも皆秘深くこれを私せり、豈美術の賊たらざらんやと、彼の秘藏品なるもの、家寶なるもの實に我美術史上の華たるべきもの少なからず、如斯して我國民は自國の美術を知らざるなり、此點に於て大に益する所あるは此書なり、狩野全盛（探幽）より今日に到る、三百年間の繪畫に於て畫家の大小作品の精細大方漏らさず其性行を說き其畫風を論ず、挿む所の肖像及び繪畫皆其風姿欽すべきもの多し。美裝、愛讀すべし（定價金貳圓）

▲明治新俳句集　大塚甲山氏著

東京神田南甲賀町八　內外出版協會發行

近時の諸雜誌諸新聞に出てたる俳句の秀なるものを集めたり。道賢を野

に求むるといふも、あまりに大袈裟なれど、句皆清新にして青年者作句のたよりにもなるべし。(定價貳拾五錢)

▲三舟秘訣　安部正人氏述

東京市神田一橋通町　有斐閣雜誌店發行

共に禪味を帶びたる修養談なり、蓋し個中の消息に到りては文字の能く傳ふる所に非れども古名士の面影髣髴として見るべく、吾人の學ぶべき所少なしとせず。

▲こども

京京神南甲賀町　內外出版協會發行

第一編は福廊呂が世界見物の話、第二編は虫合戰なり、(定價一冊五錢)

▲米國男女書生氣質　河上翠陵氏著

東京本鄉向ケ岡彌生町　言文社發行

ポッケットに入る位の小冊子に出來てゐていかにも趣味の多い事が書かれてある、食堂の光景、女學生の意中、大學生と政治運動などがあつて附錄の如何にして渡米すべきかの四十頁は、渡米者に取つて有益な手引きであらう、すべて言文一致で讀み易い(定價參十錢)

▲新八犬傳(上下)　大江小波氏作

東京日本橋本町　博文館發行

明治お伽噺第四編として出たものて、むかし〳〵ある所の山の中から說き出して、可愛らしい罪のない八犬士のお話し、家庭の好い讀み物に相違ない、(定價一冊十二錢)

▲石の行方　巖谷小波氏作

之は世界お伽噺第四十七編て、古い朝鮮のお伽噺を例の面白い筆に書いたもの、卷末には又兎の活眼の一篇がある、(定價七錢)

▲宋學概論　少柳司氣太氏著

東京本鄉六丁目　哲學書院發行

全篇十九章、附するに宋學の源因、清朝の學術、清國現今の思想界、東西思想の融和等諸論を以てす、根底有る大著なり、著書は久しく斯學に研鑽を重ねたる人、宋學の全豹を知らんと欲するもの、一斑を窺はんとするもの共に此書を讀め。(定價六十錢)

▲淨土敎發達史論　橋惠勝氏著

東京小石川原町　鷄聲堂發行

此著は霧深き海を辿る羅針盤もなく海圖もなき舟人の如き、現今の勞働者の胸中に一點の明光を與へたしとの著者の志から成つたものである、教義の基礎から起して第一期第二期の淨土教の教義を詳論した所などは頗る精密な研究の結果と思はれる。(定價六拾錢)

彙　報

●最近の東京市

東京市廳最近の統計に依れば

東京市に於ける市街數	一千六百二十一個
同上市街の全長	四十九萬六千百十五間六分二厘
市內に於ける溝渠の全長	七十四萬八千六百二間六分六厘
市の道路及溝渠の傍に栽植の樹木數	六千七百五十七本

同上區域の全長	二萬八千八百十八間七分
市内公園の數	十八ヶ所
同上總面積	五十五萬一千二百四十七坪
東京市の人口(昨年末)	百七十萬五千二十八人
最近の出生及死亡(出生	二萬千六百十八人
死亡	一萬五千三百五十八人

(右は本年一月より六月までの調査に係るものにして本籍者及寄留者を問はず現住者により調査せるもの)

●全國就學兒童數　文部省最近の調査によれば全國尋常小學就學兒童數は四百三萬八千二百五十二人にして高等科百五萬四千七百九十三人總計五百九萬五千四十八人なり

●各汽船會社貨物運賃の現況　昨三十五年中日本郵船、大阪商船、東洋汽船、三井、三菱、大家の六汽船業者に依り輸入せる貨物運賃は合計四百九十萬九千五百八圓にして日本郵船三百九十七萬一千六百圓、大阪商船三十九萬四百圓、東洋汽船十六萬一千四百圓、三井二十一萬五千百十四圓、三菱十六萬一千圓、大家九千百九十四圓なり又輸出貨物運賃は日本郵船二百七十一萬八千四百圓、大阪商船三十四萬七千八百圓、東洋汽船三十六萬一千圓、三井八十二萬一千十七圓、三菱十八萬七千二百圓、大家三萬一千八百二十二圓、合計四百四十六萬七千二百三十九圓なり

●南米秘露への移民　南米秘露行の移民は先年森岡商會より凡そ八百人を送り其中病死、逃亡、歸國等ありて六百餘人に減じ居たりしが六月末同會は更に第二回移民凡そ千二百人を同地に送りたりと

●滿州露兵の配置　北京順天時報に掲載せる者に依れば左の如し

駐兵地	步隊	馬隊	砲隊	合計
營口及牛家屯	二〇〇	…	…	二〇〇
大石橋及附近	七〇〇	七〇〇	…	一、四〇〇
遼陽鳳凰城	二、五六〇	二、二四〇	三八〇	五、一八〇
奉天	四〇〇	一四〇	一四〇	六八〇
鐵嶺	二〇〇	四〇〇	…	六〇〇
公主陵及附近	六〇〇	九〇〇	一〇〇	一、六〇〇
長春	八四〇	一四〇	…	九八〇
吉林及附近	五、〇四〇	五六〇	一、一八〇	六、七八〇
老稍溝	四〇〇	四〇〇	二〇〇	一、〇〇〇
哈爾賓阿十客等	三、〇六〇	二、八〇〇	八二〇	六、六八〇
烏吉密	四〇〇	三〇〇	…	七〇〇
横道河子及附近	一、三〇〇	一、〇〇〇	一〇〇	二、四〇〇
寧古塔	五六〇	二八〇	…	八四〇
稜穆	三〇〇	三〇〇	一〇〇	七〇〇
齊齊哈爾	四〇〇	五〇〇	…	九〇〇
布合持及附近	一、二〇〇	一、四〇〇	…	二、六〇〇
海拉爾	四〇〇	三〇〇	…	七〇〇
共計	一九、一六〇	一二、六二〇	二、八八〇	三四、六六〇

●富士登山の費用　東海道よりするものと甲州よりするものとの比較費用左の如し

(須走口(東口)登山旅費

新橋より御殿場まで三等往復乘車賃	金一圓七十六錢
御殿場より須走まで往復馬車賃	金四十八錢

合計二圓二十四錢

○吉田口（北口）登山旅費

飯田町より大月まて三等往復乘車賃　金一圓四十錢

大月より吉田まて往復ガタ馬車及鐵馬車賃　金一圓十四錢

但し人車に據る時は尚數十錢を増加す

合計金二圓五十四錢

●警部の總人員　一道三府四十三縣下に於る警部の現在總人員千八百六十七人

●特許の數　明治十八年七月専賣特許條例施行以來三十五年二月に至る殆ど十七年間に於ける特許出願數は本邦人二萬二千三百六十五件外國人一千六件合計二萬三千三百七十一件にして特許せられたるもの本邦人四千八百十七件外國人四百五件合計五千二百二十二件なり、本邦の四千八百十七件を大別すれば機械工業に關するもの二千百七十五個、化學工業に關するもの七百二十八個、其他雜發明千八百六十二個なりと

●國定教科書の代價　文部省が國定教科書の代價は大略左の如くし得る豫定なりと云ふ尤も一枚二厘位の割合にて枚數の多少により定まるものなるを以て明確なる處は印刷濟の上にあらざれば未詳なり

一尋常小學修身書（一冊）　二十錢
二高等小學修身書（同）　二十錢
以上教師用
三尋常小學修身掛圖　（未詳）
四尋常小學修身書　七錢
五高等小學修身書　十錢
以上兒童用
六尋常小學讀本　七錢
七高等小學讀本　十錢
八尋常小學書き方手本　四錢
九高等小學書き方手本　五錢
十小學日本歷史　十錢
十一小學地理　十錢

●東京市の普通教育　市立小學校の總數は八十六校にして之を各區に分てば

區名	總數	尋常	尋常高等	區名	總數	尋常	尋常高等
芝	八	〇	八	本鄉	六	一	五
京橋	一一	三	八	小石川	四	一	三
深川	五	三	二	牛込	三	一	二
日本橋	七	〇	七	麹町	四	〇	四
下谷	八	二	六	四谷	二	一	一
淺草	七	二	五	赤坂	三	〇	三
本所	七	〇	七	麻布	三	〇	三
神田	八	一	七				

而して私立小學校に至つては其數二百二十二校の多きに及び市立校の約二倍半强に當れり學齡兒童の總數は男八萬八千七百三十四人女八萬四千九十七人計十七萬二千八百三十一人にして就學比例は平均八十二人四分二厘に當れり其歩合の平均以上に達し最も多きは赤飯の九十四人六分九厘にして下谷の六十五人六分八厘を最寡とす尚平均以上の歩合にす位るものゝみを擧ぐれば前記赤阪を始め十區にして之を區利すれば

日本橋　九十四人三分二厘
牛込　九十四人二分五厘
麹町　九十三人一分四厘
淺草　八十九人二分六厘
神田　八六四人七厘
本鄉　八十四人一厘
京橋　八十三人六分三厘
芝　八十三人六分二厘
小石川　八十二人四分七厘

以上の如くにして麻布本鄉本所四谷深川下谷の五區は皆平均以下なり

明治三拾六年

公論日誌

其八

公論日誌

自六月十六日
至七月十九日

十六日 ●外電、ペテル、カラゲオル、ゲヴイッテは下院全員一致を以てセルヴイア國王に選擧せられ候由、▲ソマリ戰爭、英軍のコップ中佐はガラヂに於て敵軍に圍まれ、マンニング大佐は之れが援助に行く能はずとの報英國陸軍省に達し候、▲韓國京城發、漢城病院なる李容翊の病室にて爆裂彈破裂 死傷なし犯人未詳と有之候、露兵は豆滿江の上流茂林地方にて森林を採伐致候由、京城に於て各國使臣會議有之、●内報 露國陸相クロパトキン大將は本日午前新橋發にて退京致され候、●東京、電車鐵道會社は本日賃率引上の理由書を公に致候、▲本日東京市臨時市長を設定致候、江原素六氏は年長の故を以て之れに任じ候、▲本日ほど自殺者の多き日なしとて或る新聞は京濱間に七人を數へ候。

十七日 ●外電、英國外相演說に曰はく、駐清公使サトウ氏は強硬に我政府の意見を主張すべしとの訓令を受けて目下任地に歸りつゝありと、●内報 各官線の本年中に開通すべき豫定線、

鹿兒島線	吉松橫川間	本月下旬
奧羽北線	秋田和田間	七月
陰陽線	御來屋八橋間	八月
奧羽南線	新庄新町間	十一月
中央東線	甲府韮崎間	十二月
陰陽線	八橋松崎間	十二月
吳線	吳廣鳴間	十二月

▲過日滊車の烟筒より大火を起したる岩淵町民は日本鐵道會社に押寄せ來り損害要償の談判を致候由、●東京 電車賃率引上に關する東京市會の建議は本日提出の運びに致し候得共東京府も内務省も共に市會に諮問するは其前例なしとて共に之れを容るゝ意志なき由噂有之候、●會合、日本赤十字社總會、上野公園に於て。

十八日 ●外電、セルヴイア議會に於ては全員一致を以て前國王暗殺者を放免致候由、▲印度の大兵は何時にてもソマリランドに出發し得る準備を命ぜられ候、●内報 日鐵會社は凶作地方の物品運賃を低減致居候、▲橫濱ペスト又々新患者二名現はれ候、▲本日藤村操を擬して華嚴の瀧に投じたるもの有之候、●東京、本日内務省より市長候補者三名を推薦すべき由命令有之候。

十九日 ●外電、駐清英公使サトウ氏はいよ〳〵本國を出發致候由▲ソマリランドに於ける英軍輸送の困難益增加し、アデン駐屯の英國兵及土民兵はソマリランドに向け進軍すべしとの訓令を受け候、●内報本日政友會脫會者は同氣俱樂部に板垣伯を招待し舊自由黨の會合を催し候、伯の懷舊演說有之候、▲進步黨は第十八議會の報告書を發表致候、▲陸軍少將夫人の詐欺取財を傳へ候、五百圓餘誤魔化し候趣言語同斷に候、●東京 市街鐵道は本日合併問題に關して重役會議を開き候、▲同賃率引上問題につき内務省に於て高等官會議を開き候由。

二十日 ●外電 露國の宮廷に於ては故セルビヤ王及び王妃の爲めに廿一日の宮中喪に服することゝ相成候、▲韓國京城に於ては排日の氣焰甚だ盛にして銀券禁止運動止まず候由、●東京 市長候補者は尾崎、神鞭、小幡の三名ならんと噂致居候右に付本日各派各所に會合致候、●内報 本日國定教科書の名稱定まり、實價紙質等も指定相成候。

廿一日 ●外電 ソマリ戰爭、マンニング將軍、コップ大佐等英兵健在

の報有之、但し敵軍は餘程接近致居候由、▲ゼルヴイアのベルクラード駐在の英國公使は本國に召還せられ候、●内報　又々横濱ペスト新患者一名、死亡、●東京　市街鐵道起工式、●會合　星亭氏紀念會。

廿二日　●外電　セルヴイヤ政府は歐洲列國の態度を見て安んぜざる兆候相見え候由、▲内田公使は本日慶親王と會見致候由、●内報新任米國公使ロイド、グリスコムは本日午前參内して國書を捧呈致候、●東京　尾崎氏候補諾、電鐵街鐵合併交渉開始、容易に纏るまじくとの事に候。

廿三日　●外電　セルビヤ王暗殺事件關係者は官等を昇せられ候由、ソマリ戰爭、マンニング、コップの兩將及び千二百の英兵はボサルドに向ひて進みつゝあり、印度駐在のエガートン少將は英軍の司令官に任ぜられ候、●内報　本日午前御前會議、外交問題に就きて、▲東京　新市長は尾崎行雄氏に助役は丸山名政に定まり候。

廿四日　●外電　セルビア新王は瑞西ゼネヴア府を發してベルグレード（首府）に向ひ候由、英佛米和蘭及び土耳古の公使は首府を退去し露墺二國の公使のみ參列すべしとの事に候、●内報　本日首相邸に密議有之候事昨日御前會議の結果ならんと存候、●對外硬派即ち舊國民同盟會の人士近衞邸に會合致候、▲同じく谷子初め土曜會に會合。

廿五日　●外電　ソマリ戰爭、英のマンニング將軍は相當の衞兵をダモルに駐めてボヽトルに向ひ候由、▲本日京城發電にて露兵七十名平安道に來れりとの報有之候、●東京　電車賃率引上問題は昨夕不認可と定めり候。

廿六日　●内報　谷子爵は此度非戰論者に候、▲大學教授七博士は開戰論者として此頃喧しく候、▲内海内相病氣にて辭職の樣子に候、▲廣島縣代議士擧つて政友會脱會。

廿七日　●外電　獨逸議會の第二選擧に於て社會平民黨は一層の勝利を得候由、●内報　常備艦隊は七月十日迄に室蘭に集合し、中旬に露國沿岸より支那近海に巡航すべき筈に定まりたりと噂するもの有之候如何にや▲獨逸皇族ルプルヒト殿下本日、日光より御歸遊され候、▲水戸烈公正一位を贈られ候、●東京　電車賃率問題に關して再度の申請を致候、●會合　舊友茶話會第三回、▲警視廳の御役人が日本橋際の屋臺店にて天麩羅を立食致居候處、遂に總監の御目にとまり譴られ候由、▲東京市立小學校の運動場を公開すべき由本日市役所より訓令致候、

廿八日　●外電　滿州開放に就きて米國は露國に交渉する所ありしも甚だ不得要領に終り候、●内報　露國陸相クロパトキン氏本日長崎發に旅順向ひ候。

廿九日　●外電　駐清露公使レッサー氏は陸相クロパトキン氏に面會の爲め明後日旅順に赴くとの報北京より來り候、●内報　獨國皇族ルプルヒト殿下參内、▲九條公令弟松園男爵薨去、▲昨夜大阪博覽會に盜難あり、一萬七千圓の物品紛失致し候由。

三十日　●外電　匂牙利新内閣成る、英國豫算案は反對なく上院を通過致候、▲昨日韓廷外部大臣は軍艦揚武號代金の内廿万圓を支拂ふ旨林公使に通告致候由、●内報　舞鶴軍港所屬艦隊は今日より十日演習を開始致候、▲北海道に於ては次回より全道六人の衆議院議員を撰擧すべき事に定まり、本日其旨公布有之候、▲南摩綱紀氏は十年以上大學に奉職し高齡に達したるを以て此度從四位に叙せられた候。

七月一日 ●外電 ソマリ派兵、アデンに在りたる孟買兵百五十名は又々ベルベラに向ひ候、▲韓國義州に於て日本人の材木を掠奪したる露人有之候、▲義州開放問題に就きて露公使の反對有之候得共結句開放に決する由に候、▲又々露兵鴨綠江を超へて平安道に入り來り候由、●內報 首相海相外相三大臣參內、共に伏奏する所有之樣子に候、▲博覽會褒賞授與式擧行、●會合 第四回茗友茶話會、第一高等學校卒業式、●昨月下旬貿易概算

	卅六年六月下旬	同一月以降累計
輸出品價	五、六一〇、五一五円	一二五、三八四、三四七円
輸入品價	七、二九九、七八二	一六五、四七九、二一四
輸入超過	一、六八九、二六七	四〇、一九四、八六七
輸出金銀	三一八、九五四	三、六八九、六五一
輸入金銀	七二八、七六八	一九、三八七、〇八五
輸入超過	四〇九、八一四	一五、七九九、五三四

二日 ●外電 ソマリ戰爭、マデン郵報に再び活動的運動の執らるゝ迄には多分四個月間の間隔あるべく云々と有之候由、▲土耳古とブルカリアとの關係は再び憂慮を起さしむべしと申傳へ候、●內報 獨國皇族ルプルヒト親王晩香波に向ふ、▲本日陸軍少將に任ぜられたるもの四人、旅團長に更迭有之候、●會合 大隈伯邸談話會、●東京 街鐵合併問題は近日成立すべき雲行に候。

三日 ●內報 岩谷松平公例、▲進步黨本部には外交問題に就て協議致候、▲近頃伊藤內閣の風評有之候得共如何と存候、▲千葉縣には教科書事件の萌芽有之候。

四日 ●內報 我艦隊の首力は室蘭に會して更に北進すべしとの報有之候、●東京 街鐵同併問題は略定まり候、▲昨日市參事會に於て市長增俸(六千圓)の事を議決致候、▲藤村操氏の死體發見致候由東京葬るべく候由、

五日 ●外電ソマリ戰爭、印度第廿七ブンヂャツブ步兵隊はソマリランドに向け孟買を出發致候、▲林公使は韓國政府に向ひて龍巖浦森林監吏の事を警告致候由、●內報 天皇陛下御風氣にわたられしも此程御全快相成候、●會合 東京府教育會、創立滿二十年祝賀會、

六日 ●外電 羅馬法皇は病氣に罹り目下危篤の由、▲韓國義州よりの報告によれば、龍巖浦に於て露人淸人數百名にて盛んに事業を經營致居候由、●內報 伊藤侯は本日宮中に召され候、小村外相も參內致候、▲常備艦隊增加、北航の命を受け候、●東京 街鐵電車の重役會議、●會合 政友會茶話會、進步外交調査會、大林區署長會議農商務省にて。

七日 ●外電 太平洋電線開通相成候、▲佛國大統領ルーベー氏はコンノー親王と同行して倫敦に赴き盛んに歡迎を受け居候、●內報 山縣侯參內、▲本日海軍少將に任ぜられたるもの六人、艦長の更迭有之候、▲會合 東京高等商業學校卒業式。

八日 ●佛大統領はバッキンガム宮に於て英皇の饗宴を受けたり、▲倫敦市民は最も鄭重なる式を以て歡迎致候由、●內報 樞密院會議有之候、▲井上伯入京致候、●會合 東京工業學校卒業式▲政友會常務委員會。

九日 ●內報 各地共水害の報續々來り候、京都府、靜岡縣、富山市和歌山縣、福井縣、奈良縣等甚しく、中國關西關東の鐵道は殆ど皆不通に相成候、●東京 街鐵電車合併問題は大方條件附にて決定致居候折柄意外にも街鐵側に反對者を生じ候趣、●會合 水產講習所卒業式。

十日　●外電　佛大統領は英國を出發致候由、▲猶又羅馬法皇の病氣は少しく輕快に赴き候とのこと、●内報　大坂も亦水害甚しく候由●東京　街鐵電車兩社交涉委員は本日合併假契約の手續を結了致候●會合　東京音樂學校卒業式。▲學制研究會。

十一日　●外電　バルカン半島、マセドニアに於けるブルガリア人は又々隊伍を組み、土耳古も之れに應じて形勢穩ならず候由、▲英國皇帝はバッキンガム宮の舞踏會に米國海軍將校を招きて英米の親交を語れり、●内報　政友會破裂せんかなど申す者も有之候、本日協議員會を開き候、●會合　日本製粉會社總會、配當一割七分、▲東京帝國大學卒業式、▲臺灣協會學校卒業式。

十二日　●外電　佛國大統領巴里歸着、▲本日より韓國汽船を以て仁川義州間航海を開始致候由、●内報　又々和歌山水害の報到る、▲京都醫科大學長醫學博士坪井次郎氏死去、

十三日　●内報　天皇陛下は久しぶりにして御學問所に出御あり、伊藤桂、山縣、松方等を召され候、▲伊藤、山縣、松方三大老は樞密顧問官に任せられ候、▲篠ノ井線全通、▲政友會協議員會、▲東京市會市參事會員補欠(二名)選擧、▲目下關西鐵道の一部のみにて他は皆開通致居候、▲鳥海艦は佐世保拔錨、韓國木浦に向ひ候、

十四日　●外電　英國皇太子はポーツマス港に碇泊中の米國艦隊を觀覽したりと、英米の親交益厚きを加ふるが如く相見え候、●内報　政友會臨時協議員秘密會を開きて、西園寺公を以て伊藤總裁の後繼者となさんと决議致候、●東京　市會、●會合　街鐵合併新聞記者招待會、▲本日より日本及び英佛伊間の上海經由外國新聞電報料は低減せられ候、

十五日　●外電　愛蘭のダブリン公會は四票に對する三十七票の多數にて英皇帝來遊の際歡迎の辭を呈せざる事に決し候由、▲露國公使パプロフは昨日旅順より京城に歸着致候由、▲義州開放の事内决致候とのこと、●内報　内務大臣更迭、兒玉臺灣總督之れを兼任し内海大臣は依願免官と相成候、▲政友會總裁送迎の爲め本日政友會總會相開かれ候、同じく紅葉館に於て、●會合、炭礦鐵道重役會議配當一割二分、▲進歩黨外交調査會、▲本月上旬の貿易概算如左

輸出品價	五、九五三、一〇三円
輸入品價	七、八七八、八九〇
輸入超過	一、九二五、七八七

十六日　●外電　羅馬法皇の徐々に衰弱しつゝあるよしに候、▲京城發電によれば義州郡守は自ら露人の建てたる電柱を悉皆引拔き候由、▲英公使昨日謁見義州開放に就て長時間の上奏をなしたりと有之候●東京、街鐵の新宿線は今回工事實施の許可を得たるを以て直に工事に着し候由、▲市水道公債は昨日を以て締切致候處甚だ好況に相見え候、●會合、舊自由派の新黨準備會

十七日　●外電　日英通商條約成立致候由、●内報、三大臣更迭、兼任文部大臣兒玉源太郎、兼任農商務大臣清浦奎吾、兼任遞信大臣曾禰荒助と勅令に有之候、▲伊藤侯は再び帝室制度取調局總裁に任ぜられ候、●會合、政友會協議會、進歩黨臨時委員會、

十八日　●外電、南阿の常備軍二万五千を駐屯せしむる事に决し候由、▲旅順會議結果、露國は自國の利益を害することなくして日本及米國の希望する滿州の港灣を開放する旨を半官的に報告致候由、▲京城發に露公使は脅喝的に義州開放に反對上奏をなせし由有之候、●東京、市長就任披露會、芝紅葉館に於て、

十九日　●外電　清國は露淸銀行より二百萬兩を借入する契約を致候由、